

浦幌町立博物館

年報

第 22 号



Historical Museum of Urahoro

2021

11

浦幌町立博物館

年報

第22号



Historical Museum of Urahoro

2020（令和2）年度事業報告
（2020.4.1～2021.3.31）

2021

11

序

「浦幌町立博物館年報」第22号を発行いたします。本書は、2020年（令和2年）度における当館の管理運営状況をまとめたものであり、この年報により博物館事業の概要をご理解いただければ幸いに存じます。

当館は、平成11年に浦幌町教育文化センター内で開館し、十勝管内の皆様はもとより、管外からもたくさんの来館者にご来場いただき22年を迎えることができました。

この間、道内でもあまり類を見ない博物館と図書館が併設した複合施設としての特色を生かし、博物館を運営してまいりました。これまで皆様の博物館事業に対するご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、国の緊急事態宣言期間中の閉館や、再開館後の入場制限、また、博物館事業の中止など、利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。令和2年度事業については、感染防止対策を徹底し実施してまいりました。

このような状況の中、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会情勢の変化を記録し後世に伝えるため、手作りマスクや各種行事を中止する告知チラシなどの資料収集を行い、多くの皆様方の提供により集まった資料を展示した企画展「コロナな時代のマスク美術館」を開催するなど、その取組を早期に行ったことから国内外に広く報道され、各種方面から高い評価を得ることができました。

当館は、常設展示室改修事業を年次計画で実施しており、今年度は、浦幌町の貴重な史跡・自然や収蔵資料などを来館者がいつでも検索し利用できるよう電子データ化や、浦幌町の学術資源を町内外に発信するためホームページの開設を予定するなど、浦幌町の文化や歴史などを知っていただくための施設整備を進めています。

今後も町内外の多くの皆様にご利用いただける博物館を目指して、職員一同、更なる努力を積み重ねてまいりますので、より一層のご来館、ご支援をお願い申し上げます。

2021年11月30日

浦幌町立博物館長 熊谷晴裕

● 目 次

序	i
目 次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 主な受贈資料	13
(2) 主な採集資料	15
(3) 受贈図書資料	16
IV. 資料の提供	21
V. 博物館の事業	23
VI. 出版・広報活動	39
VII. レファレンス業務	39
VIII. 博物館ボランティア	42
IX. 博物館日誌（抄）	43
X. 博物館の利用状況	49
XI. 博物館の組織	50
XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等	51
XIII. 博物館活動のマスコミ報道	53
XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	95
XV. 令和2年度予算	107

本書は2020（令和2）年度（2020年4月1日～2021年3月31日）までの博物館事業を報告するものです。

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所 在 地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1

電 話 015-576-2009 (直通)

ファックス 015-576-5834 (図書館)

ホームページアドレス

<https://www.urahoro.jp>

メールアドレス

museum@urahoro.jp

建物構造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総工費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室 378.56㎡

学芸員室 45.50㎡

整理室 78.40㎡

写真室 19.50㎡

収蔵庫 71.50㎡

計 593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室 172.90㎡

調整室 19.98㎡

キッズルーム 7.29㎡

1階ホール 182.17㎡

2階ホール 166.50㎡

会議室 63.00㎡

書庫 29.75㎡

機械室 31.08㎡

休憩室 11.55㎡

計 684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後6時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・JR根室線浦幌駅下車 徒歩7分
・とかち帯広空港から車で約60分 ・釧路空港から車で約80分

施設設備 エレベーター 1基

車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要、II. 常設展示構成

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、エゾヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②、エトピリカ
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季、エゾシカ、ヒグマ、タンチョウ
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、ノゴマ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②
III	1	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘、アンモナイト化石
	2	十勝川下流域の地質時代史	K-Pg境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）

VI	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・暁式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の鍬の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原産地、使い方
	11	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
IV	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

V	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鉱	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

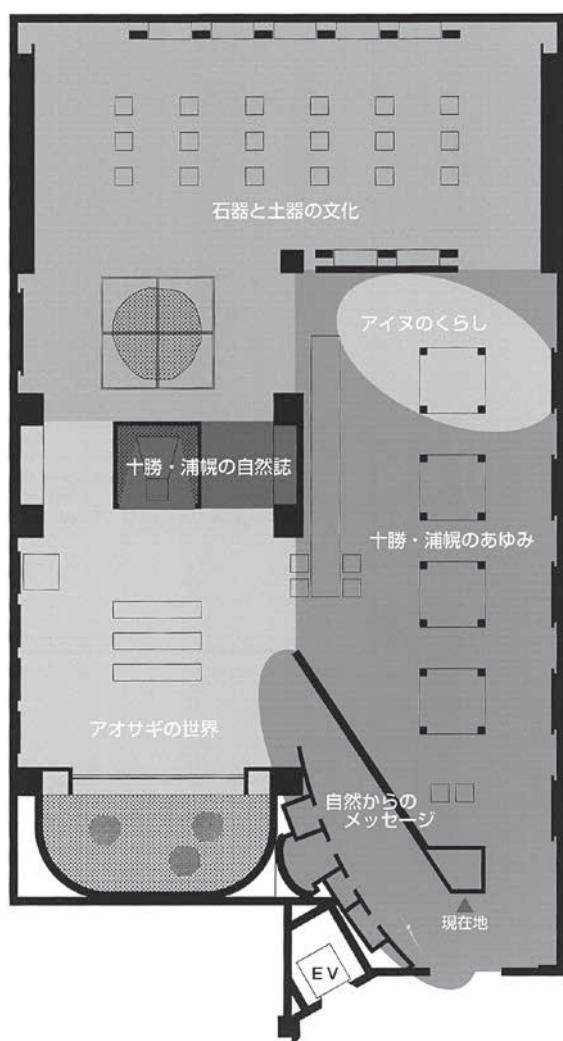


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図



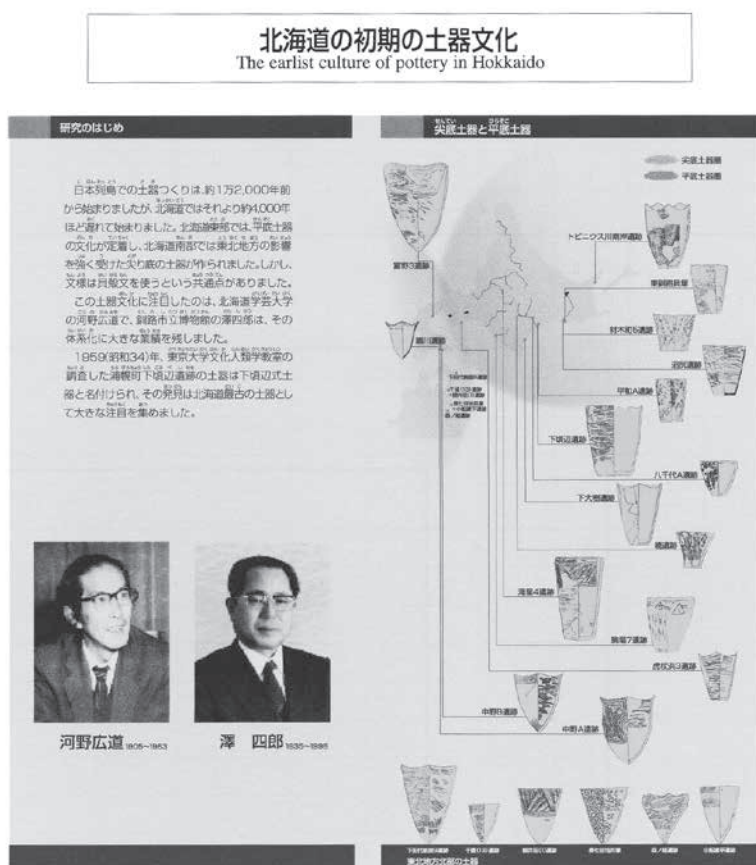


Fig.5 北海道の初期の土器文化

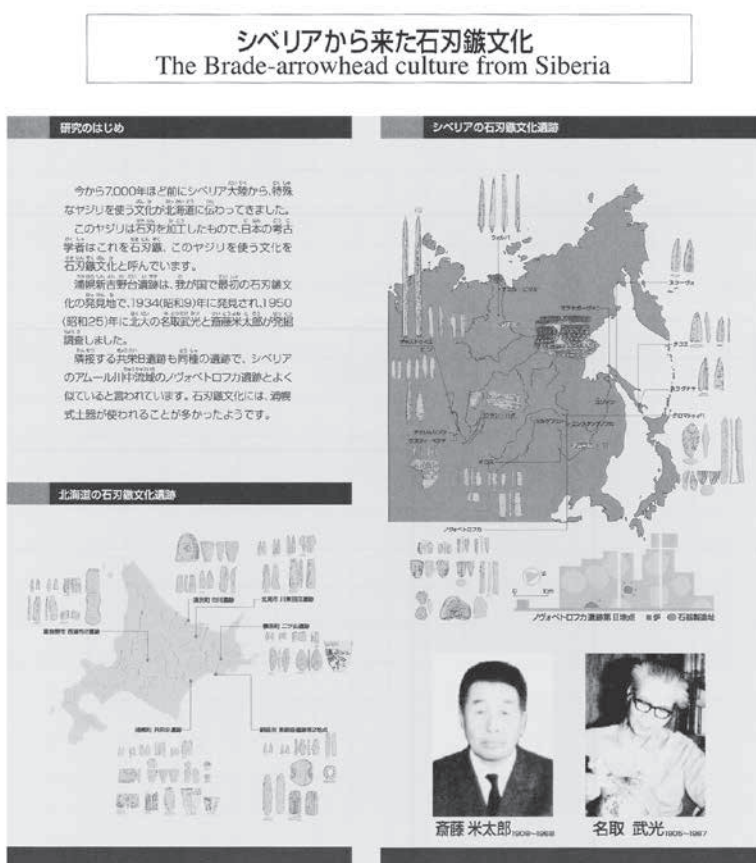


Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

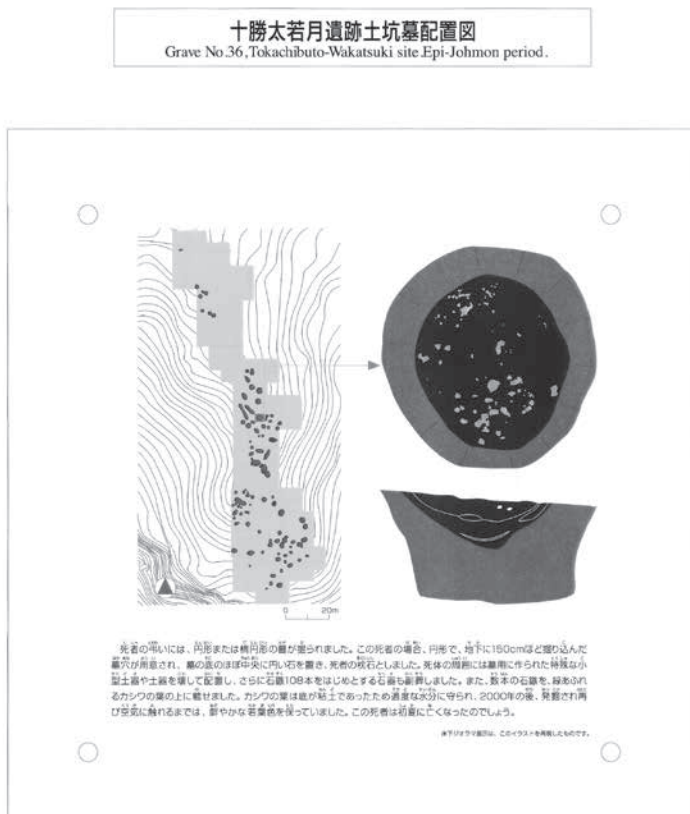


Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図



Fig.8 続縄文文化と墓



Fig.9 擦文ムラと住居



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

II. 常設展示構成

いろいろな土器
Potteries

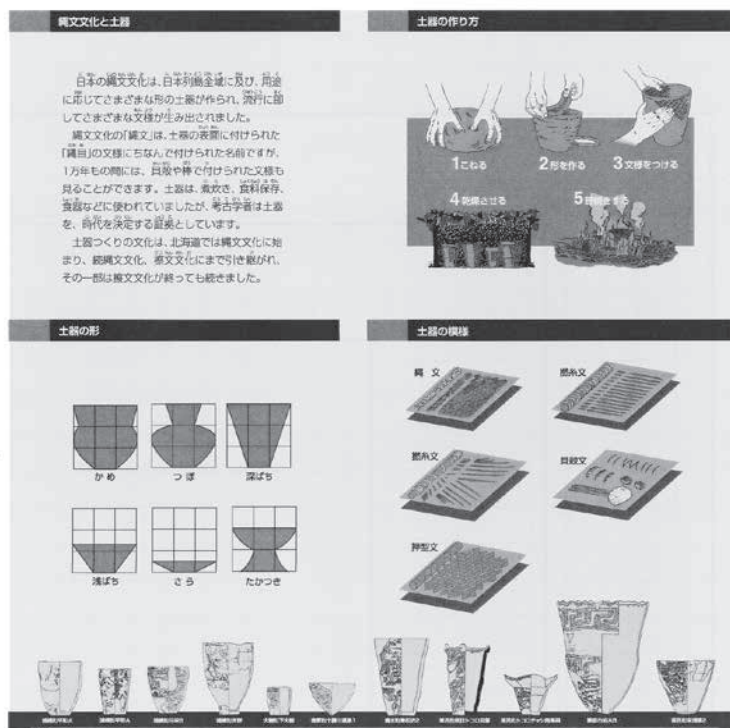


Fig.11 いろいろな土器

いろいろな石器
Stone tools

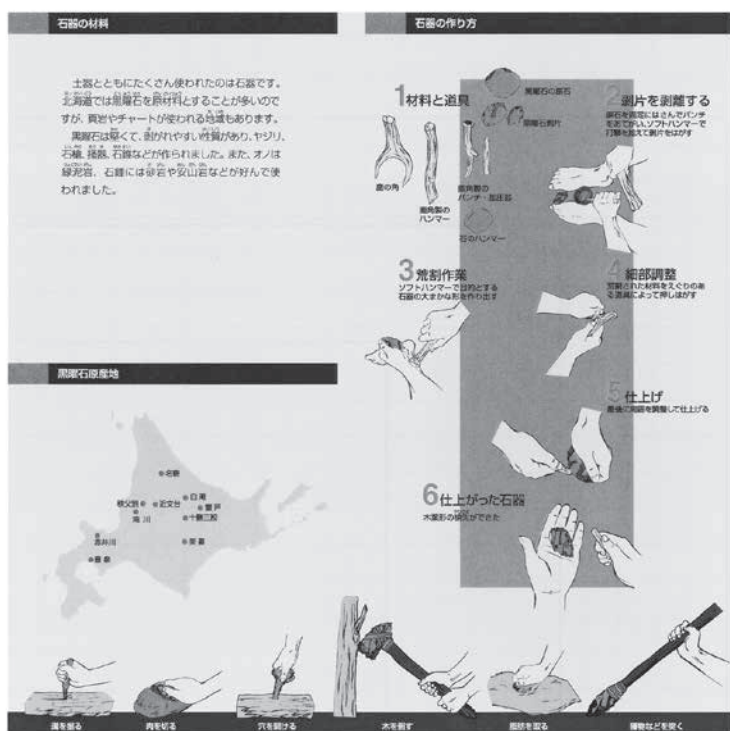


Fig.12 いろいろな石器

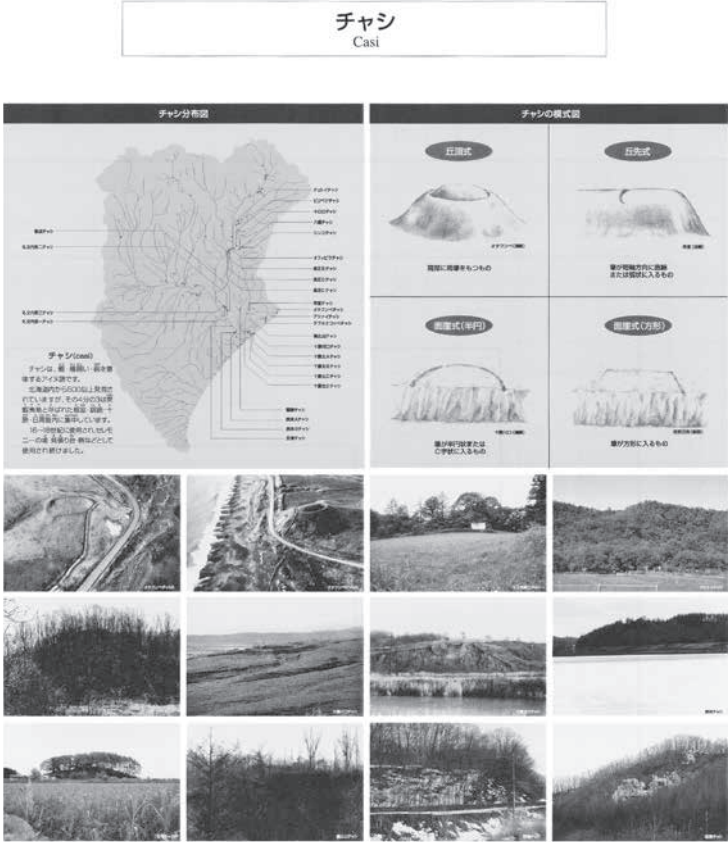


Fig.13 チャシ

送り場
funerary site and that surroundings

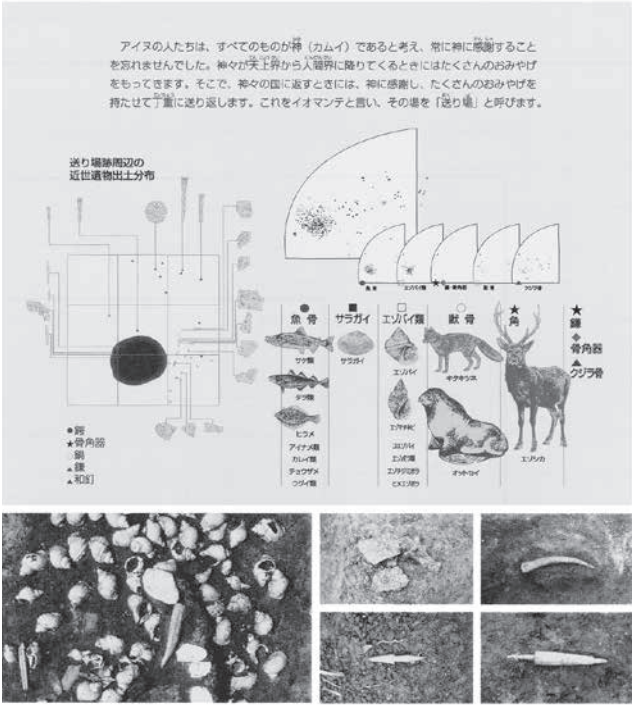


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

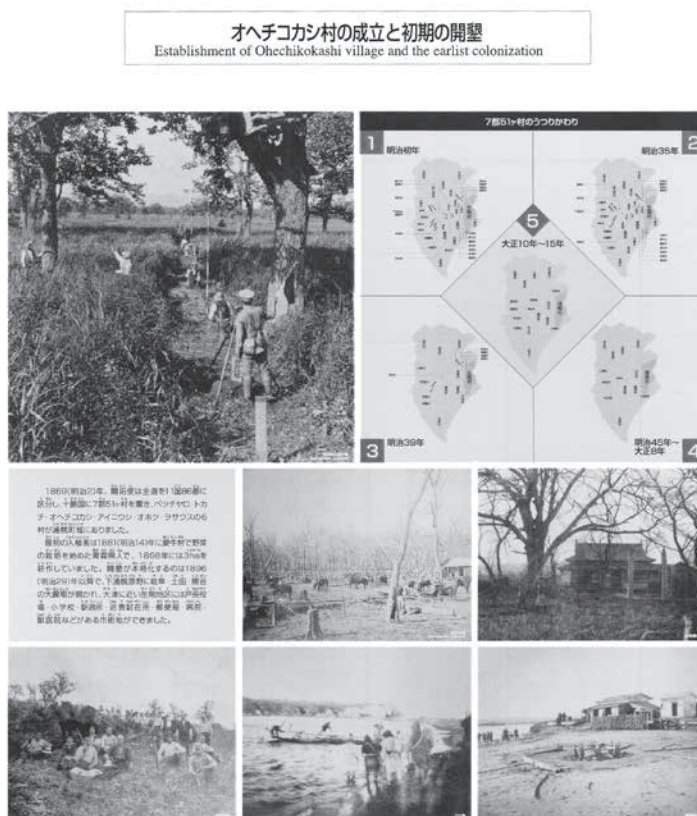


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

博物館資料の新規受入件数

(件)

内 訳	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
寄 贈	187	440	453	466	531	728	588
採 集	767	122	234	357	272	194	346
図 書 資 料	277	533	315	312	291	445	370
合 計	1231	1095	1002	1135	1094	1367	1304

※2019年度の寄贈・採集件数は、資料番号「2019-」の件数（2019年1月～12月に受入・登録）。図書資料は年度件数。

(1) 主な受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
1・10	前 出 彰 子	万 年	防災学習会資料	1
1・10	関 井 ま み 子	厚 内	オリンピックカレンダー	1
1・10	前 出 彰 子	万 年	北海道179市町村応援大使クリアファイル	1
1・11	久 我 サ ト エ	本 町	ごみ袋	1
1・12	舟 田 興 吉	北 町	唐箕	1
1・15	三 宅 正 誠	東 山 町	テレホンカード	2
1・15	田 野 裕 二	富 川	スピーカーホン（電話器）	1
1・19	中 村 サ ダ エ	幸 町	小倉百人一首	1
1・19	日本福音ルーテル帯広教会	帯 広 市	日本福音ルーテル池田教会関係資料	48
1・30	株式会社ぶらんとマガジン社	札 幌 市	雑誌 HO 148号	1
1・30	杉 山 未 樹	宝 町	オーラポロ図書館劇場	1
1・31	土 本 伸 重	常 豊	テレビ、卓上電子計算機	2
2・14	浦幌町教育委員会	桜 町	やかん	1
2・15	円 子 紳 一	帯 富	マカマカ通信（浦幌炭礦資料）	1
2・15	久 我 サ ト エ	本 町	タオル（YES・そうご電器）など	3
3・1	日本キリスト教団出版局	東 京 都	信徒の友 2020年3月号	1
3・12	円 子 紳 一	帯 富	モクズガニ（メス1）	1
3・12	西 垣 隆 夫	帯 富	モクズガニ（オス2・メス2）	4
3・17	楫 省 造	宝 町	飯山鉛筆工場 第1回技能競技大会写真など	一式
3・18	持 田 誠	新 町	根室本線時刻表、運賃表など	9
3・22	岡 田 愛 啓	相 川	浦幌炭鉱跡地の状況写真	一式
3・22	土 本 伸 重	常 豊	福澤バット工場のバット	1
3・25	持 田 誠	新 町	毎日新聞 2020年3月25日付	1
3・28	山 本 ひ と み	幸 町	学生ボタン	23
3・28	根室市歴史と自然の資料館	根 室 市	上厚内小学校開校五十周年記念誌	1
3・29	浦幌町教育委員会	桜 町	公衆電話	1
3・31	円 子 紳 一	帯 富	家庭用気圧計	1
3・31	円 子 紳 一	帯 富	新養老小学校開校記念品	1
3・31	円 子 紳 一	帯 富	神棚	一式
3・31	うらほろサロンコーラス	新 町	うらほろサロンコーラス創立45周年記念「浦幌のうた」	1
4・2	荒 川 和 子	南 町	てぬぐい 活平小学校開校80周年記念協賛会ほか	13
4・9	持 田 誠	新 町	中山産業請求書、明細書、領収書	3
4・10	福 澤 祐 介	幕 別 町	福沢バット工場写真（複製）	174
4・15	齊 藤 亜 希 子	南 町	音盤（レコード）	49
4・16	浦 幌 町 役 場	桜 町	厚内幼稚園関係資料	59
4・17	久 我 サ ト エ	本 町	ハマナスカード	1
4・21	持 田 誠	新 町	記念切手（ウポポイ民族共生象徴空間）	1

III. 資料の受け入れ

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
5・14	齊 藤 亜 希 子	南 町	令和元年10月15日現在 南町1区居住地図	1
5・22	浦 幌 町 役 場	桜 町	コクヨ電子レジスター、フィルム映写機	2
5・24	渡 邊 美 喜 子	帯 富	和歌山満氏所蔵音盤（レコード）	29
5・24	齊 藤 亜 希 子	南 米	カナリア広告カード	1
5・26	持 田 誠	新 町	北海道新聞	1
5・26	持 田 誠	新 町	毎日新聞	1
5・28	土 本 伸 重	常 豊	皮剥ぎ、鉈	2
5・29	飯 居 紹 一	新 町	タオル（有限会社タナカ電器）	1
6・5	渡 邊 美 喜 子	帯 富	和歌山満氏貝類標本	45
6・12	福 澤 祐 介	幕 別 町	（株）福沢製作所 広報うらほろ記事（コピー）	1
6・16	飯 居 紹 一	新 町	てぬぐい やぐら寿司	1
6・23	楫 省 造	宝 町	昭和40年NHK民謡をたずねて出場写真ほか	20
6・23	大 山 み どり	帯 富	浦幌炭鉱跡地写真	7
6・28	小 畑 真 奈 美	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	高 山 寛 司	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	佐 々 木 亮 祐	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	阿 保 秀 都	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	佐 藤 夏 海	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	菊 池 静 香	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	安 田 知 沙	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	伊 藤 匡 人	酪農学園大学	2019年度卒業論文	1
6・28	村 田 朋 弥	酪農学園大学	2019年度修士論文	1
6・28	上 田 健 太	酪農学園大学	2019年度修士論文	1
6・28	栗 木 隼 大	酪農学園大学	2018年度修士論文	1
7・3	渡 邊 美 喜 子	帯 富	和歌山満氏採集貝類標本	7
7・4	円 子 紳 一	帯 富	令和2年度 浦幌町平和祭式プログラム	1
7・8	川 内 和 博	池 田 町	鉄道乗車券	1
7・14	田 中 克 巳	帯 広 市	越前踊り関係資料	一式
7・14	荒 川 和 子	南 町	タオル（日本電信電話株式会社）	1
7・16	円 子 紳 一	帯 富	令和2年度 うらほろプレミアム商品券 購入申込書	1
7・21	楫 省 造	宝 町	硬貨	18
7・21	楫 省 造	宝 町	大日本国防婦人会 徽章	1
8・5	荒 川 和 子	南 町	上浦幌中学校開校20周年記念品（灰皿）	1
8・5	浦幌町商工会 小倉領平	本 町	十勝うらほろブランド推奨品	1
8・6	土 本 伸 重	常 豊	音盤（レコード）	43
8・10	齊 藤 大 樹	幕 別 町	カブトムシ（標本化）	1
8・14	東 山 知 美	光 南	浦幌高校 校訓	1
8・28	掛 下 法 示	桧 木 県	厚内地区写真	8
9・2	ラポロアイメーション	厚 内	2020年 カムイノミ・イチャルパ ポスター	1
9・10	持 田 誠	新 町	アイヌの権利とは何か 新法・象徴空間・東京五輪と先住民族	1
9・15	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	マスク	1
9・17	渋 佐 国 夫	恩 根 内	コンブ石ほか岩石（標本化）	3
9・17	門 馬 邦 子	北 町	浦幌家政女学校関係資料	6
9・26	中 川 郁 子	美 園	十勝の野生動物パンフレット	6
10・4	大 本 眞 里 子	幸 町	アケビコノハ（標本化）	1
10・15	荒 水 恵	神 流 川 件	山ゆり号ニュース 第21号	1
10・15	大 和 田 努	帯 広 市	土田農場年賦償還借入請求書	1
10・23	円 子 紳 一	帯 富	2020年NTT十勝版電話帳	2
11・5	田 中 克 巳	帯 広 市	越前踊り関係資料	一式
11・6	浦 幌 印 刷	本 町	令和3年 年賀状印刷見本	1
11・7	山 本 浩 宣	住 吉 町	長州風呂	1

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
11・7	山 本 浩 宣	住 吉 町	ビート堀機	1
11・14	円 子 伸 一	帯 富	地域安全運動関係資料	1
11・14	円 子 伸 一	帯 富	第19回太平洋スピードマラソン記念品	1
11・14	荒 川 和 子	南 町	灰皿（ニュー留真温泉・留真館）	1
11・14	円 子 伸 一	帯 富	余市祭典 半纏	1
11・14	山 本 浩 宣	住 吉 町	秤	1
12・8	楫 省 造	宝 町	郵便ポスト型貯金箱など	3
12・10	齊 藤 亜 希 子	南 町	浦幌神社社報 やすらぎ 第36号	1
12・13	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	日曜当番医制度の廃止について	1
12・20	公益財団法人アイヌ民族文化財団	札 幌 市	カレンダー	1
12・22	一般社団法人北海道開発技術センター	札 幌 市	北海道よりみちドライブ情報 Scenic Byway vol.26	1
12・29	NTTタウンページ株式会社	東 京 都	電話帳	1
12・29	浦幌町文化協会	新 町	創立50周年記念誌 文化のあゆみ	1
通年		全 国	コロナ関係資料	103

(2) 主な採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
1・8	モンシロチョウほかチョウ標本	50	採集：荒川和子
1・10	カレンダー	1	浦幌町商工会
3・14	第35回みのりまつりポスター	1	
3・14	うらほろ留真温泉オープン1周年記念ポスター	1	
3・14	浦幌町応援大使ポスター	1	浦幌町役場
3・16	橋本旅館領収書	1	
3・16	浦幌駅時刻表	1	JR浦幌駅にて採集
3・18	新聞折込など	119	産業資料ほか
3・18	北海道ポケット時刻表	1	
4・3	簡易郵便局受託者の募集	1	
4・9	浦幌村五十年沿革史印刷用図版	6	旧郷土博物館未整理資料
4・9	バット用製材品	3	旧郷土博物館未整理資料
7・8	うらほろ女性だより 第77号	1	
8・10	生活福祉資金特例貸付のご案内	1	
8・29	北海道新聞号外	1	2020年8月28日付
9・26	うらほろ孔版画サークルカレンダー	1	
9・26	うらほろ孔版画サークルカレンダー	1	
9・26	十勝毎日新聞創刊百年記念品	1	
10・16	「故中曽根康弘」内閣・自由民主党合同葬儀の当日における弔意表明について	1	
10・16	十勝毎日新聞号外	1	2020年10月13日付
10・21	十勝うらほろ物産フェア	1	
10・25	北海道鉄道140年パンフ	1	
11・5	養老・新養老小学校関係資料	27	
11・14	立皇嗣宣明の儀当日における祝意奉表の実施について	1	
12・27	カレンダー	1	
通年	コロナ関係資料	126	

(3) 受贈図書資料

【北海道】

(公財) アイヌ民族文化財団

第23回アイヌ語弁論大会【イタカンロー】報告書
アイヌの伝統・文化を題材にした絵本

ようかいやオシケプ

令和2年度 アイヌ民族文化財団のあらまし

アイヌの絵本 Vol-1 (DVD)

アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 第20号

2020年度 アイヌ語ラジオ講座テキスト Vol.1~4

アハウコレプ ヤイカタンテ シネプ

アイヌ語ラジオ体操第一 (DVD)

アイヌ民族：

歴史と現在 ― 未来と共に生きるために

(小学生用、中学生用、教育用指導書)

令和3年度 アイヌ語ラジオ講座テキスト Vol.1

アイヌ生活再現マニュアル

山の幸の料理 平取地方

令和2年度アイヌ文化伝承活動

アーカイブス「技」VOL.5 (DVD)

旭川市北邦野草園

旭川市北邦野草園研究報告 第9号

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第9~10巻

浦幌町教育委員会

小学校社会科郷土読本 うらほろ (令和2年度版)

浦幌農泊観光促進協議会

十勝浦幌バードウォッチングツアー

エゾリスの会

エゾリス 会報125号

恵庭市郷土資料館

恵庭市内遺跡発掘調査等報告書 4

恵庭市郷土資料館年報 21

＜平成30年度 平成31・令和元年度版＞

NPO法人日本野鳥の会十勝支部事務局

十勝野鳥だより No.203

えりも町郷土資料館

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

令和元年度(2019年度)活動報告書

えりも町郷土資料館調査研究報告

えりも研究 第17号

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館シリーズ No.13

稲垣益穂日誌 第35~36巻

小樽市総合博物館紀要 第33~34号

帯広大谷短期大学

帯広大谷短期大学紀要 第57号

帯広大谷短期大学地域連携推進センター

紀要第7号

帯広百年記念館

帯広百年記念館紀要 第38号

帯広百年記念館令和元年度特別企画展レポート

十勝開拓日記 ― 十勝の近代がわかる本 ―

神田日勝記念美術館

神田日勝記念美術館だより No.37

神田日勝記念美術館友の会通信 画室 Vol.56~57

釧路市立博物館

釧路市立博物館館報 No424~425

道東の鉄路 ～国鉄釧路機関区・酒井豊隆の記憶～
釧路短期大学

釧路短期大学紀要 第47号

釧路短期大学付属図書館報 第24号

国立アイヌ民族博物館

国立アイヌ民族博物館ニュースレター アヌアヌ

創刊準備号、創刊号、No.2~3

国立アイヌ民族博物館開館記念特別展

私たちが受け継ぐ文化

～アイヌ文化を未来へつなぐ～

国立アイヌ民族博物館ガイドブック

アヌココロ アイヌ イコロマケンル

札幌国際大学縄文世界遺産研究室

縄文 年報4

札幌市公文書館

公文書館だより 第8号

札幌市博物館活動センター

札幌市博物館活動センター情報誌

Muse Letter No.71~74

札幌市埋蔵文化財センター

市内遺跡発掘調査報告書12

令和元年度 調査報告書

札幌市文化財調査報告書108 M555遺跡(DVD付)

丘珠縄文遺跡年報1

丘珠縄文遺跡 ― 2018年度活動報告 ―

丘珠縄文遺跡年報2

丘珠縄文遺跡 ― 2019年度活動報告 ―

様似郷土館

様似郷土館紀要 第2号

沙流川歴史館

シシリムカ文化財だより No.6~9

沙流川歴史館年報 第21号

自然ウォッチングセンター

北海道ウォッチングガイド No.367~378

標茶町博物館

標茶町博物館紀要 第1号

新得町役場

新得町百二十年史 上巻・下巻

千歳市教育委員会

史跡キウス周堤墓群保存活用計画

(一財) 道南歴史文化振興財団

函館市 大船H遺跡

函館市 大船I遺跡

函館市 権現台場遺跡

十勝幌尻農場

縄文の里通信 ― 十勝幌尻農場から ― 第10、12号

苫小牧市美術博物館

苫小牧市美術博物館 年報 第6号(平成30年度)

苫小牧市美術博物館(あみゅー) ニュースレター

美術博物館だより No.7

企画展 NITTAN ART FILE 3: 内なる旅

～モノに宿された記憶

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

覚生1遺跡・覚生2遺跡

勇振1遺跡

(公財) 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

ぴっけるぴっけ

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ通信

2020年初夏号、2020年冬号

名寄市北国博物館

北国研究集録 第17号

沼田町化石館

沼田町化石館年報 第19号

根室市歴史と自然の資料館

根室市歴史と自然の資料館紀要 第32号

根室市歴史と自然の資料館だより

くるまいし No.35

函館市教育委員会

史跡垣ノ島遺跡 保存整備事業報告書

ひがし大雪自然館

ひがし大雪自然館研究報告 第7号

上士幌町ひがし大雪博物館の図録 第2展示室

上巻 ー世界の昆虫ー

美幌博物館

美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書

美幌博物館月刊情報誌 GREEN LETTER

Vol.267～277

美幌博物館館報 2018

美幌博物館研究報告 第27号

2019年度 博物館講座

北海道 生き物バンザイ！

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

2018年度 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 年報

富良野市博物館

富良野市博物館報告 第2号

別海町郷土資料館

別海町郷土資料館だより No.249～260

北翔大学北方圏学術情報センター

北翔大学 北方圏学術情報センター年報

Vol.12 2020

北網圏北見文化センター

北網圏北見文化センター年報 平成31・令和元年度

北見博物館研究報告 第2号

(公財) 北海道科学文化協会

北海道青少年叢書(三十八)北国に光を掲げた人々

北海学園大学学術研究会

学園論集 第181～183号

(一社) 北海道自然保護協会

北海道の自然No.59

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館ニュース 第40～41号

北海道大学埋蔵文化財調査センター

北大構内の遺跡 XXVI

北海道大学埋蔵文化財調査センター

ニュースレター33～35号

北海道博物館

北海道博物館研究紀要 第6号

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター

研究紀要 第5～6号

森のちゃれんがニュース Vol.20～23

道博協ニュース 第126～127号

北海道博物館要覧 2019

(一財) 北海道文化財保護協会

文化財情報 Vol.378、379、381

(公財) 北海道埋蔵文化財センター

重要遺跡確認調査報告書 第15集

北海道立埋蔵文化財センター年報 21

調査年報33 令和2年度

北海道立旭川美術館

北海道立旭川美術館だより 氷華 No.63

北海道立近代美術館

北海道立近代美術館・芸術館紀要 第30号

北海道立北方民族博物館

令和元年度 年報

北方民族博物館だより No.117～119

北海道立北方民族博物館第35回特別展図録

北で生きるよすが 北方民族の世界観

北海道立文書館

赤れんが 北海道立文書館 館報 No.55

三浦綾子記念文学館

三浦綾子記念文学館 館報「みほんりん」 第45号

三笠市立博物館

三笠市立博物館紀要 第22～23号

三笠市立博物館年報 第37号

森町教育委員会

森町埋蔵文化財調査報告書 第28集

鳥崎遺跡Ⅳ 鷲ノ木2台場跡Ⅲ 森枝橋跡Ⅱ

湧別町ふるさと館JRY・郷土館

北海道指定史跡シブノツナイ 竪穴式住居

発掘調査概要報告書 (2020年度)

りくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台)

りくべつ天文台だより Vol.87～88

利尻町立博物館

利尻研究 利尻町立博物館年報 第40号

利尻富士町教育委員会

利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書Ⅱ

りしりふじ文化遺産マップ

古代の利尻へ、タイムスリっふ「利尻の古代遺跡」
展示パンフレット

伊野寺一彦 (設計工房アーバンハウス)

十勝のトーチカ台帳 2020 (令和2年) 1月15日

円子伸一

浦幌鳥類目録 第3版

北海道教育大学岩見沢校 岩澤孝子

鶴川地方におけるアイヌ古式舞踊

ー初習者向け伝承プログラムー (報告書付DVD)

モーションキャプチャおよびCG技術による

樺太アイヌ古式舞踊の再現 (DVD付)

【青 森 県】

青森県立郷土館

青森県立郷土館報 通巻47号

令和元 (2019) 年度特別展図録

ひらく・つくる・みもの

ー青森の湿地と稲作のはなしー

三内丸山遺跡センター

特別史跡 三内丸山遺跡 研究紀要 1

三内丸山通信 第72号

八戸市博物館

年報 第37号 令和元年度

【岩 手 県】

一関市博物館

一関市博物館研究報告 第23号

令和元年度 骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書

岩手県立博物館

岩手県立博物館だより No.165～168

北上市立鬼の館

北上市立鬼の館だより 第52～53号

北上市立博物館

博物館だよりNo41

洋野町立種市歴史民俗博物館

洋野町埋蔵文化財調査報告第5集

下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書

洋野町埋蔵文化財調査報告第6集

続石遺跡発掘調査報告書

洋野町埋蔵文化財調査報告第7集

南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

洋野町埋蔵文化財調査報告第8集

尺沢遺跡発掘調査報告書

洋野町埋蔵文化財調査報告第9集

西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書

宮沢賢治記念館

令和元年度 宮沢賢治記念館年報

【宮 城 県】

仙台市博物館

仙台市博物館だより Vol.196～199

仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

研究報告2019

ハナちゃん通信 vol.56～58

地底の森ミュージアム通信 VOL.91～93

【秋 田 県】

秋田県立博物館

秋田県立博物館年報 令和2年度

秋田県立博物館ニュース No.171～172

【山 形 県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

うきたむ 第55～56号（館報）

第28回企画展

水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形

【新 潟 県】

新潟県立歴史博物館

守れ！文化財 ～モノとヒトに光を灯す～

2019年度事業報告

【茨 城 県】

大洗町幕末と明治の博物館

大洗町幕末と明治の博物館報 令和元年度 第8号

第7回特別展 武石堯絵画展

～灯台とその風景、そして万葉奈良の寺院・仏像を描く～ 一少女・こども・ふるさと一

大洗町幕末と明治の博物館報 創立90周年記念誌

創立90周年を迎えた大洗町幕末と明治の博物館

～創立から90周年、その主な歩み～

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

自然博物館ニュース A・MUSEUM vol.102～104

年報 第26号 令和元年度

茨城県自然博物館研究報告 第23号

【群 馬 県】

みどり市岩宿博物館

岩宿博物館 令和元年度 年報

岩宿時代通信 オリジン vol.89～91

岩宿遺跡発掘70周年記念特別展③

岩宿遺跡と群馬の考古学

第71回企画展 華開く！ぐんまの縄文文化

第72回企画展 岩宿時代の円形のムラ

ー環状ブロック群PartⅡー

岩宿フォーラム2020/シンポジウム

北関東地方の環状ブロック群 予稿集

【千 葉 県】

国立歴史民俗博物館

令和元2（2020）年度 国立歴史民俗博物館 要覧

企画展示 性差（ジェンダー）の日本史

特集展示（国際展示） 東アジアを駆け抜けた身体
ースポーツの近代ー

千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館

開館30周年記念企画展 ほにゅうるい

千葉県立中央博物館研究報告 第15巻第1号

房総の山のフィールド・ニュースレター

しいむじな 第65～68号

生態園観察ノートNo.21 生態園のコケ

海の生きもの観察ノート7

千葉県でみられるカクレエビたち

チバミュージアフェスタ2020

～千葉県立美術館・博物館展覧会～

「オリンピック・パラリンピック」と千葉の
スポーツ史

魚がつくる模様と形 令和元年度収蔵資料展

展示解説書

野田市郷土博物館・市民会館

野田市郷土博物館・市民会館 年報・紀要 第12号

野田市郷土博物館・市民会館 年報・紀要 第13号

令和2年度特別展 まちの記憶

写真でたどる野田・関宿の昭和30→40年

【埼 玉 県】

春日部市郷土資料館

1960年代の春日部 ー1963武里団地

1964東京オリンピック 1967埼玉国体

【東 京 都】

青山学院大学文学部史学科研究室

青山史学 第38号 ー平田雅博教授退任記念号ー

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS Vol.109～112

國學院大學博物館

國學院大學博物館 研究報告 第37輯

（公財）渋沢栄一記念財団

青淵 第853～864号

田谷区立郷土資料館

世田谷区立郷土資料館 資料館だより No.72

世田谷区史 編さんだより 第4号

世田谷区政策経営部政策企画課 区史編さん担当

区史研究 世田谷 創刊号

世田谷区史 編さんだより 第5号

玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館紀要 第17号

博物館ニュース SHŪ No.54～55

玉川大学教育博物館 館報 第18号 2019年度

地方史研究協議会

地方史研究402 第70巻第2号

東京家政学院 生活文化博物館

東京家政学院生活文化博物館年報 第29号

令和2年度第32回特別展

復興から未来へ ～博物館と地域のこれから～

東京大学総合研究博物館

Ouroboros 東京大学総合研究博物館ニュース
第66～69号

法政大学史学会

法政史学 第93～94号

明治大学 学芸員養成課程

MUSEUM STUDY 31: 明治大学学芸員養成課程紀要

MUSEOLOGIST 35: 明治大学学芸員養成課程年報

明治大学駿台史学会

駿台史学 第168～171号

明治大学博物館

明治大学博物館研究報告 第25号

郵政博物館資料センター

郵政博物館 研究紀要 令和元年度 第11号

立正大学史学会

立正史学 第127号

【神奈川県】

神奈川県立生命の星・地球博物館

自然科学のとびら Vol.26, No.2～4、Vol.27, No.1

神奈川県立生命の星・地球博物館年報

第25号 (2019年度)

神奈川大学日本常民文化研究所

民具マンスリー 第53巻1～12

神奈川大学日本常民文化研究所論集37

歴史と民俗 37

川崎市市民ミュージアム

川崎市市民ミュージアム 紀要 第32集

日本大学 生物資源科学部

人間科学研究 第18号

日本大学 生物資源科学部博物館

博物館研究報告・館報 生物資源科学 Vol.29

平塚市博物館

平塚市博物館研究報告 自然と文化 No.43

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館News No.48～50

横浜市歴史博物館資料目録 第28集

横浜市歴史博物館調査報告 VOL.16

横浜市歴史博物館紀要 第24号

Yokohama History Museum Guide

令和2年度企画展 横浜市新庁舎完成記念

明治・大正ハマの街

—新市庁舎建設地・洲千島遺跡—

【富山県】

魚津市教育委員会

市内遺跡発掘調査等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(7)

富山県魚津市 市内遺跡試掘調査報告書

富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告 6

小矢部市教育委員会 文化スポーツ課

小矢部市埋蔵文化財調査報告書 第83冊

平成30年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

小矢部市埋蔵文化財調査報告書 第84冊

令和元年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

小矢部市埋蔵文化財調査報告書 第87冊

令和元年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

富山県小矢部市 芹川遺跡発掘調査報告書IV

—営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

富山県中央植物園

富山県中央植物園研究報告 第25号

富山県埋蔵文化財センター

富山埋蔵文化センターニュース

埋文とやま VOL.150～153

富山県出土の重要考古資料12

とやまの古墳時代集落遺跡等出土品

令和2年度特別展

BONE 骨 —貝塚で知る生命の証—

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報 第38号

特別展 氷見の郷の古代 —飛鳥・奈良・平安—

特別展 氷見の八景 —歴史の中の景勝地—

【福井県】

越前町織田文化歴史館

越前町織田文化歴史館研究紀要 第5集

越前町文化財調査報告書 第3集

番城谷山古墳群発掘調査報告書

【静岡県】

浜松市博物館館報 第32号

浜松市博物館特別展 古代東海道駅伝展

【愛知県】

名古屋市博物館

名古屋博物館研究紀要 第43巻

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第39号

【滋賀県】

滋賀県立琵琶湖博物館

新琵琶湖学を拓く情報誌 びわはく 第4号

【京都府】

京都大学総合博物館

京都大学総合博物館年報 令和元年度(2019年度)

京都大学総合博物館ニュースレター No.47～50

(公財) 古代学協会

古代学協会だより 土車 第137、138号

初音(公財) 古代学協会年報 10

【三重県】

皇學館大学研究開発推進センター

皇學館大学研究開発推進センター年報 第7号

皇學館大学研究開発推進センター紀要 第7号

【奈良県】

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第33号

(公財) 奈良人権文化財団 水平社博物館

水平社博物館研究紀要 第22号

LUCEFER 第23号

奈良大学文学部文化財学科

文化財学報 第38集 坂井秀弥先生退職記念論集

【独】奈良文化財研究所

奈文研論集 第1号
埋蔵文化財ニュース 第178～181号
奈良文化財研究所概要 2020

【大 阪 府】

大阪大谷大学

史学台考古 年代・産地・分析等 第20号
大阪大谷大学歴史文化研究 第20号

大阪大谷大学博物館

大阪大谷大学博物館報告書 第67冊
大阪大谷大学図書館所蔵椿井文書 (DVD付)
博物館だより No.129

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第26号
関西大学博物館集報 阡陵 No.80、82
2020年度関西大学博物館春季企画展
受贈記念 横山滋ガラスコレクション
びいどろ・ギヤマン・ガラス展 ―ガラス器を愛で愉しむ―
(パンフレット) (図録)
2018年度・2019年度関西大学創立130周年記念
特別研究費 (なにわ大阪研究) 研究成果報告書
なにわ大阪と山本彦一
―大正期大阪への貢献と山本考古室―
関西大学ミュージアム連携活性化事業事業報告書
ようこそ大学ミュージアムへ
―つなぐ・つなげる・つながる―

吹田市立博物館

吹田市立博物館 館報 20
吹田市立博物館 博物館だより No.81～84
令和2年度 (2020年度) 秋季特別展
万国博覧会 “人類の進歩と調和” に至るまで

【兵 庫 県】

【公財】竹中大工道具館

竹中大工道具館NEWS Vol.43

姫路科学館

姫路科学館収蔵目録第9号
小林平一コレクション昆虫編7
タテハチョウ (3)

姫路市立城郭研究室

城郭研究室年報 VOL.29

【和 歌 山 県】

和歌山県立自然博物館

自然博物館だより Vol.38 No.1～4
和歌山県立自然博物館 館報 第37～38号

【岡 山 県】

岡山県立博物館

岡山県立博物館 研究報告 41

【鳥 取 県】

鳥取砂丘 砂の美術館

鳥取砂丘 砂の美術館

【広 島 県】

庄原市立比和自然科学博物館

比婆科学 第268～270号
庄原市立比和自然科学博物館 標本資料報告

第20号

比和科学博物館研究報告 第62号

【島 根 県】

島根県立三瓶自然館

島根県立三瓶自然館年報 令和元年度
島根県立三瓶自然館研究報告 第19号
島根県立三瓶自然館収蔵資料目録 第14号
杵村喜則氏収集植物標本目録 (Ⅲ)

【山 口 県】

山口県立山口博物館

山口県立山口博物館研究報告 第46号
山口県立山口博物館 館報 42
山口の自然 第80号

【愛 媛 県】

愛媛県歴史文化博物館

歴博だより No.101～104
研究紀要第25号
愛媛県歴史文化博物館資料目録第28集
武家文書目録Ⅱ
特別展 瀬戸内海ヒストリア ―芸予と備讃を中心に―
令和元年度特別展解説図録
四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー
令和2年度特別展図録 赤石寺と四国遍路

【高 知 県】

高知県立牧野植物園

高知県立牧野植物園年報 第19号 令和元年 (2109)
高知県立牧野植物園だより No.81～84

【熊 本 県】

熊本博物館

熊本博物館 年報 No.32 (2019年度)
熊本博物館 企画展
「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一
―熊本で見つけたモノ―
熊本城特別公開記念特別展 追憶の熊本
―画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶―
くまはくNEWS LETTER vol.3、4

【宮 崎 県】

九州保健福祉大学博物館研究室

九州保健福祉大学 博物館年報 9

IV. 資料の提供

収蔵資料の利用状況

(件)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
特別利用（館外貸し出し）	4	3	4	1	5	5
特別利用（来館調査）	4	5	5	5	11	9
出版利用	5	4	3	3	5	2
合 計	13	12	12	9	21	16

* 博物館活動、博物館紀要における調査研究利用・出版利用をのぞく

1. 出版物掲載などの画像利用

利 用 者	北海道博物館 石森秀三
資 料 名	アンモナイト化石1点
目 的	北海道博物館第6回特別展図録「恐竜展2020」作成のため
期 間	令和2年6月20日（特別展開会日）

利 用 者	帯広百年記念館友の会 松井由孝
資 料 名	上浦幌灌漑溝組合規約等2点
目 的	小冊子「帯広百年記念館令和元年度特別企画展レポート 十勝開拓日誌」作成のため
期 間	令和2年4月16日（出版予定）

2. 資料の貸出

利 用 者	北海道博物館 石森秀三
資 料 名	アンモナイト化石1点
目 的	北海道博物館第6回特別展「恐竜展2020」における展示への使用のため
期 間	令和2年6月2日～10月16日

利 用 者	十勝畜産農業協同組合 増谷仁志
資 料 名	川流布史
目 的	川流布地域の振興のための歴史・文化調査のため
期 間	令和2年7月10日～12月30日

利 用 者	上浦幌中学校 三浦雅司
資 料 名	考古資料（土器、石器、黒曜石）1式
目 的	歴史授業のため
期 間	令和2年7月24日～8月10日

利 用 者	北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 環境地質研究所 廣瀬亘
資 料 名	町内遺跡発掘報告書及び調査写真
目 的	遺跡における噴砂等地震跡調査のため
期 間	平成32年12月9日

利 用 者	千葉大学教育学部附属小学校 中谷佳子
資 料 名	大正末期から昭和初期のマスク1点
目 的	小学校研究授業で使用のため
期 間	令和3年1月13日～2月20日

IV. 資料の提供

3. 来館調査・閲覧

利 用 者	共同通信社 青柳絵梨子
資 料 名	アパリ2点、十勝國産業写真帳1点
目 的	浦幌アイヌ協会の取材のため
期 間	平成32年6月17日

利 用 者	日本放送協会札幌拠点放送局 向井徹
資 料 名	手づくり布マスク
目 的	企画展「コロナな時代のマスク美術館」取材のため
期 間	平成32年7月10日

利 用 者	中国山東大学 鄧 聰
資 料 名	吉野台細石器遺跡出土資料1式
目 的	考古学研究のため
期 間	令和2年7月22日～7月23日

利 用 者	(株)北海道新聞社帯広支社 水野薫
資 料 名	昭和二十年度浦幌村教育研究会記録
目 的	新聞取材のため
期 間	平成32年8月1日

利 用 者	(株)パオネットワーク 寺田和弘
資 料 名	北大から返還されたアイヌ遺骨副葬品「アパリ」等3点
目 的	インターネット及びテレビ番組に使用のため
期 間	平成32年8月21日

利 用 者	慶応義塾大学大学院 瀧川奈々
資 料 名	北大から返還されたアイヌ遺骨副葬品1式
目 的	大学院修士論文研究調査のため
期 間	平成32年9月10日

利 用 者	帯広百年記念館 森久大
資 料 名	十勝太若月遺跡出土土器1式
目 的	考古学資料調査研究のため
期 間	令和2年11月1日～令和3年3月31日

利 用 者	アイヌ民族文化財団 常本照樹
資 料 名	アイヌ民族関連資料1式
目 的	道内アイヌ文化関連施設紹介映像制作に係る撮影
期 間	平成32年12月15日

V. 博物館の事業

令和2年度浦幌町立博物館運営方針

浦幌町の多様な歴史、自然、文化に関する資料と情報を幅広く収集・保全し、地域の財産として将来へ引き継ぎ、多方面で活用していくために、浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

1. 町立博物館開館20年を迎えるとともに、国際博物館会議（ICOM）が初めて日本で開催される年にもあたるから、博物館活動の基本要素である、収集保存・調査研究・展示教育の3分野について、あらためて事業内容を点検し、改善を検討します。
2. 前身である郷土博物館の時代を含め、博物館自体の歴史を振り返り、記録をまとめます。
3. まちづくり計画における常設展示室の一部更新を実現するため、さまざまな検討を行います。
4. 各種助成金や補助金など、外部資金を活用した調査研究や展示の取り組みについて検討を進めます。
5. 問い合わせや利用希望の多い資料、広域的な研究資料の情報について、インターネットを活用した情報発信の整備に向けて、具体的にシステムの構築を始めます。
6. 開町120年を節目に、収蔵資料や町内に存在する各種事物を、新規に文化財として指定することを目指した取り組みを進めます。
7. 博物館の将来像について方向性を定め、博物館法にもとづく登録博物館化の推進や、学芸員の調査研究体制のあり方など、体制の見直しをはかります。
8. アイヌ文化については、新たに収蔵した副葬品資料の保存環境を整えて文化財化を推進するとともに、公開と利用の方法を検討し、歴史性や地域性に着目したアイヌ文化の継承と普及事業の充実を図ります。
9. 町立図書館との連携を深め、博物館・図書館へ足を運んでくれる人の掘り起こしや環境を整えるとともに、浦幌町立博物館の認知度を高めるために、全国へ向けた広報活動を強化していきます。
10. 「国際博物館の日」や「文化財保護強調月間」「近代化遺産の日」などを軸に、全国の博物館や文化機関と連携した、多様な博物館事業を展開していきます。

V. 博物館の事業

令和2年度 博物館教育普及事業報告

分類	領 域	No.	事業名	事業概要	期 日	来場者または参加者数	備 考
展 示	企画展	1	紙の宝石：千葉定是の書票 浦幌展	千葉定是氏の書票（蔵書票：エクスプリクス）の展覧会	3月5日 ～4月7日	中止	新型コロナウイルス蔓延防止のため延期
		2	アイヌ伝統文化作品展	浦幌アイヌ協会主催のアイヌ刺繍教室の受講生が製作作品を展示	4月23日 ～5月19日	延期	浦幌アイヌ協会共催／新型コロナウイルス蔓延防止のため延期
		3	収蔵資料展「端午の節句展」	収蔵資料の五月人形等を展示・公開する。	4月18日 ～5月10日	未計数	常設展示休館中もロビーにて展示。
		4	浦幌町立博物館移動展「吉田康登牧師の足跡：なぜ池田に教会が建てられたのか？」	冬に開催した企画展「信仰の灯は永遠に」を、規模を縮小して、帯広百年記念館のロビー展として開催。浦幌町立博物館の企画展を初めて町外で開催するもの。	5月30日 ～6月25日	中止	会場：帯広百年記念館／新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
		5	アイヌ伝統文化作品展	浦幌アイヌ協会主催のアイヌ刺繍教室の受講生が製作作品を展示	6月3日 ～7月5日	181名 (記帳者のみ)	浦幌アイヌ協会共催
		6	記念物100年パネル展	日本の天然記念物制度100年を記念した文化庁のパネル展	7月18日 ～9月27日	483名 (記帳者のみ)	文化庁共催
		7	コロナな時代のマスク美術館	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いまや必需品となったマスク。苦労して、工夫してつくったマスクの展覧会	8月1日 ～9月27日	601名 (記帳者のみ)	
		8	帯広百年記念館移動展	帯広百年記念館所蔵資料を十勝管内各市町村を巡回して紹介する移動展	10月2日～ 10月12日	128名 (記帳者のみ)	帯広百年記念館運営連絡協議会共催
		9	外来生物展	外来生物法や北海道ブルーリストに制定されている外来生物の種類や注意点などについて、写真や標本で紹介。	11月28日 ～1月17日	260名 (記帳者のみ)	釧路市立博物館共催
		10	孔版画年賀状展	うらぼろ孔版画サークルが全国と交換した孔版画年賀状を公開。	1月21日 ～2月3日	103名 (記帳者のみ)	うらぼろ孔版画サークル・浦幌文化協会共催
		11	ぼくの、わたしの、書き初め展	小中学生の書き初めの展覧会	2月6日 ～18日	未計数	もみじ子会共催
		12	しゃっこいフェスの歴史	しゃっこいフェスの由来から今日までを紹介	1月31日 ～2月14日	未計数	しゃっこいフェス実行委員会
		13	ひな人形展	収蔵するひな人形を博物館1階ロビーに展示。	2月4日 ～3月9日	未計数	
		14	コロナな時代を語り継ぐために	コロナ禍の暮らしを記録するための資料を集めて紹介。	2月27日 ～4月11日	344名 (記帳者のみ)	
教育普及	夜学講座	15	春の植物の最近の話題	春の植物について、最近の調査や研究などから、いくつかの話題を紹介します。	4月22日	中止	講師：持田誠学芸員／新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
		16	活平神社と丸岡キサノ	活平神社に奉納されている丸岡キサノの広島県入植者たちを通じ、活平神社史を概説。	8月19日	10名	講師：持田誠学芸員
		17	マスクが語るコロナな時代	マスクを集めることで、どのようなことがわかるのか？また、関連書籍のブックトークも開催。	9月16日	17名	講師：持田誠学芸員、山崎菜摘司書
		18	博物館実習生による展示解説	博物館実習生が、それぞれ専攻する分野に関する簡易展示を制作し、観覧者の前で解説する実習を行った。	9月22日	18名	講師：飯倉来衣人、東谷麻央
		19	帯広美術館講座	新型コロナウイルス問題により予定変更のため検討中。	中止	中止	
	博物館講座 (うらぼろスタイル ゼミナール)	20	国際博物館の日記念講座「平等を実現する場としての博物館：多様性と包括性」	今年の「国際博物館の日」のテーマ「平等を実現する場としての博物館」について、博物館と平等、平等の実現のために博物館はなにが出来るか？を考えます。	5月17日	中止	講師：持田学芸員／日本博物館協会共催／新型コロナウイルス蔓延防止のため延期
		21	浦幌町立博物館を考える(1)	博物館学の専門家による、地域博物館のあり方と浦幌町立博物館の将来像についての講演。	未定	未定	新型コロナウイルス蔓延防止のため開催の可否を検討中
		22	浦幌町立博物館を考える(2)	博物館学の専門家による、地域博物館のあり方と浦幌町立博物館の将来像についての講演。	未定	未定	新型コロナウイルス蔓延防止のため開催の可否を検討中
		23	浦幌町立博物館を考える(3)	博物館学の専門家による、地域博物館のあり方と浦幌町立博物館の将来像についての講演。	未定	未定	新型コロナウイルス蔓延防止のため開催の可否を検討中
		24	浦幌町の文化財行政について考える	文化財の専門家による浦幌町における新規指定文化財の選定や、文化財を活かした町づくりについての講演。	未定	未定	新型コロナウイルス蔓延防止のため開催の可否を検討中
		25	〔企画展関連講座〕 いま外来生物の何が問題なのだろう？	外来生物展の展示解説と、道東でよくみられる外来生物の種類や特徴などについて解説。	12月5日	15名 (記帳者のみ)	講師：持田学芸員、加藤ゆき恵学芸員(釧路市立博物館)

V. 博物館の事業

分類	領 域	No.	事業名	事業概要	期 日	来場者または参加者数	備 考
教育普及	博物館講座 (うらほろスタイル ゼミナール)	26	卒業論文大発表会「浦幌のヒグマこんなに調べました2020」	ヒグマを研究する大学生・大学院生たちを集め、自らの研究内容について直接紹介してもらう。	2月8日	中止	講師：酪農学園大学 学生・大学院生など
		27	最近の外来生物	企画展「外来生物展」関連事業として開催。北海道東部でみられる種類を中心に、最近の外来生物のトピックを紹介する。	1月9日	26名	講師：内田暁友氏（内田植物研究所）
	町民座談会	28	これからの浦幌町立博物館を考える	浦幌町立博物館や文化財の今後のありかたについて、学芸員から現状を説明したのち、参加者から意見をいただく。 第1回第2回「これからの浦幌町立博物館を考える」 第3回第4回「浦幌における学芸員のありかた」 第5回第6回「文化財をどう守るのか」	②12月16日 ③1月23日 ④1月27日 ⑤2月10日 ⑥2月11日	①8名 ②7名 ③5名 ④5名 ⑤9名 ⑥5名	
	夏休み子ども博物館	29	未定	「ヒグマの学校」「アイヌ文化で遊ぼう」を想定。	未定	中止	うらほろヒグマ調査会 共催/新型コロナウイルス蔓延防止のため中止。
		30	ウチダザリガニ・バスターズ	特定外来生物ウチダザリガニの捕獲を体験し、生態系について学ぶ。	7月26日	14名 (学芸員・主催者含む)	主催：浦幌の自然を楽しむ会/協力：浦幌町立博物館
	冬休み子ども博物館	31	未定	「アイヌ文化で遊ぼう」「ミニ百年記念館」を想定。	中止	中止	帯広百年記念館共催
	移動講座	32	<月例調査観察会> 豊北植物調査会	毎月1回豊北原生花園を歩き、植物のフェノロジー（生物季節観測）を調査・記録する。	5月～11月 毎月1回	延べ30名	新型コロナウイルス蔓延防止のため5～6月は中止。
		33	<自然観察会> ウラボロイチゲ観察会	日本では浦幌で最初に発見された植物ウラボロイチゲの自生地を巡って観察する講座	4月29日	中止	講師：坂下禮子氏／ 新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
		34	<移動博物館> 「青い鳥観察会」	夏鳥オオルリの美しい姿を、木々の葉が茂って観察しづらくなる前の初夏に観察する	5月10日	10名	講師：春日基江（トリおばさん）
		35	<ふるさと探訪> 知っとこ浦幌	浦幌の史跡をまる一日かけて巡る。	6月7日	中止	講師：持田誠学芸員／ 新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
		36	<えんそく博物館> 本別町歴史民俗資料館と浦幌炭鉱跡地	本別空襲点を開催中の本別町歴史民俗資料館と、浦幌炭鉱跡地を見学する。	7月18日	22名	共催：本別町歴史民俗資料館
		37	<ふるさと探訪> 厚内周辺の自然と歴史	太子寺境内ないの太子堂など厚内地区の歴史的建造物や自然について見学する。	7月25日	10名	講師：持田誠学芸員
		38	<ふるさと探訪> 浦幌の記念物と文化財	企画展「記念物100年パネル展」関連事業。町内に存在する天然記念物やそれに相当する文化財を巡る。	8月8日	11名	企画展関連事業 講師：持田誠学芸員
		39	<えんそく博物館> 池田町郷土資料館	池田町高島の郷土資料館を見学するほか、池田町の史跡などを巡ります。	9月19日	12名	共催：池田町教育委員会
		40	列車で学ぶ・地理歴史	浦幌～音別間の列車を利用して、沿線の史跡や文化財を学ぶ。	10月18日	23名	
		41	<自然観察会> 秋の渡り鳥観察会	マガンやヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガンなど、越冬のために本州へ向かう渡り鳥を、朝日・生剛・豊北地区で観察する。	11月8日	12名	
	ロビーコンサート	42	レコードコンサート	収蔵資料のレコードを活用し、ロビーに音楽を流して休憩場所を提供。	毎月1回	未計数	新型コロナウイルス蔓延防止のため当面中止
		43	クリスマス讃美歌コンサート	クリスマス・讃美歌・聖歌の歴史を知り、みんなで歌う会。	12月26日	13名	企画展関連事業/おはなしばあの会・図書館共催
	浦幌アイヌ協会共催	44	「初心者アイヌ文様刺繍講座」	アイヌ文様刺繍について、その独特の技法を伝承者から学ぶ連続講座	不定期		講師：廣川和子 浦幌アイヌ協会共催

V. 博物館の事業



PL.1 企画展
「端午の節句展」
(2020.4.18～5.10)



PL.2 企画展
「端午の節句展」
(2020.4.18～5.10)



PL.3 企画展
「アイヌ伝統文化作品展」
(2020.6.3～7.5)



PL.4 企画展
「記念物100年パネル展」
(2020.7.18～9.27)



PL.5 企画展
「コロナ時代のマスク美術館展」
(2020.8.1～9.27)

PL.6 企画展
「コロナ時代のマスク美術館展」
に出品された「オオカミのマスク」



PL.7 帯広百年記念館移動展
「小坂俊昌帯広・十勝の風景写真展」
(2020.10.2～10.12)

PL.8 企画展
「外来生物展」
(2020.11.28～2021.1.17)



V. 博物館の事業



PL.9 企画展
「孔版画年賀状展」
(2021.1.21～2.3)

PL.10 企画展
「ぼくの、わたしの、書き初め展」
(2021.2.6～18)



PL.11 企画展
「しゃっこいフェスの歴史展」
(2021.1.31～2.14)

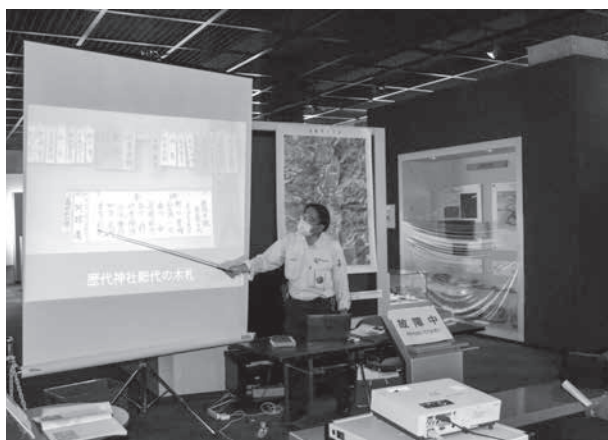
PL.12 企画展
「ひな人形展」
(2021.2.4～3.9)





PL.13 企画展
「コロナな時代を語り継ぐために展」
(2021.2.27～4.11)

PL.14 夜学講座
「活平神社と丸岡キサノ」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2020.8.19)



PL.15 夜学講座
「マスクが語るコロナな時代」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2020.9.16)

PL.16 夜学講座
「マスクが語るコロナな時代」
のブックトークで本を紹介する
山崎菜摘司書
(2020.9.16)



V. 博物館の事業



PL.17 博物館講座
「博物館実習生による展示解説」
で解説する帯広畜産大学生の東谷
麻央氏
(2020.9.22)

PL.18 博物館講座
「博物館実習生による展示解説」
で解説する帯広畜産大学院生の
板倉来衣人氏
(2020.9.22)



PL.19 企画展関連講座
「いま外来生物の何が問題なのだ
ろう？」で展示を解説する釧路市
立博物館の加藤ゆき恵学芸員
(2020.12.5)

PL.20 企画展関連講座
「最近の外来生物」
〔講師：内田野生植物研究所
内田暁友氏〕
(2021.1.9)





PL.21 夏休みこども博物館
ウチダザリガニバスターズ
(2020.7.26)



PL.22 夏休みこども博物館
ウチダザリガニバスターズ
(2020.7.26)



PL.23 月例調査観察会
「豊北植物調査会」
(原則として毎月第1土曜日に開催)



PL.24 自然観察会
「ウラボロイチゲ観察会」
〔講師：坂下禮子氏〕
(2020.4.29)



PL.25 自然観察会
「青い鳥を探そう！」
〔講師：トリおばさん〕
(2020.5.10)

PL.26 ふるさと探訪
「本別町歴史民俗資料館と浦幌炭鉱跡地」
〔講師：本別町歴史民俗資料館
長 田野美妃氏、持田誠学芸員〕
(2020.7.18)



PL.27 ふるさと探訪
「本別町歴史民俗資料館と
浦幌炭鉱跡地」

PL.28 ふるさと探訪
「本別町歴史民俗資料館と
浦幌炭鉱跡地」





PL.29 ふるさと探訪
「厚内周辺の自然と歴史」で
太子堂を解説する太子寺の前
住職、皆川昭徳氏
(2020.7.25)

PL.30 えんそく博物館
「池田町郷土資料館」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2020.9.19)



PL.31 えんそく博物館
「池田町郷土資料館」

PL.32 えんそく博物館
「池田町郷土資料館」
で訪ねた池田神社





PL.33 近代化遺産全国一斉公開2020
「列車で学ぶ地理・歴史」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2020.10.18)

PL.34 近代化遺産全国一斉公開2020
「列車で学ぶ地理・歴史」で、
下り2525D列車の車内におけ
る解説のようす



PL.35 近代化遺産全国一斉公開2020
「列車で学ぶ地理・歴史」での
乙部川鉄橋見学

PL.36 近代化遺産全国一斉公開2020
「列車で学ぶ地理・歴史」での
昆布刈石見学





PL.37 自然観察会
「秋の渡り鳥観察会」
〔講師：トリおばさん〕
(2020.11.8)



PL.38 新種と認定された化石アロデス
ムス ウライボレンシスについて
記者会見をする井上清和氏
(2020.5.8)



PL.39 東京大学から返還されたアイヌ遺
骨の副装品について長根弘喜ラボ
ロアイヌネーション会長から提供
を受ける高橋慎博物館長（当時）
(2020.8.22)

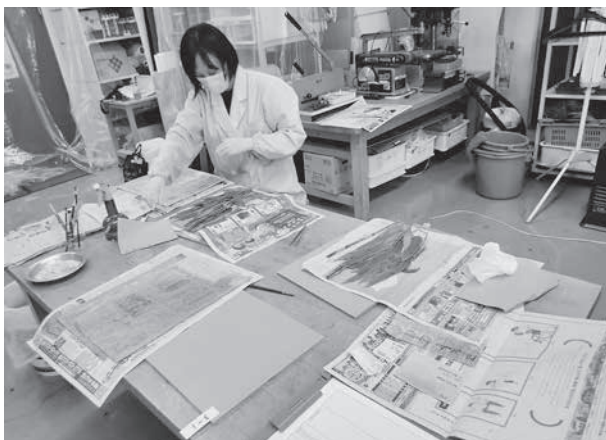


PL.40 東京大学から返還された
アイヌ遺骨を浦幌町営墓
地に埋葬する

V. 博物館の事業



PL.41 美幌博物館でおこなわれた熊本豪雨災害で被災した植物標本の修復作業
(2020.9.3)



PL.42 美幌博物館でおこなわれた
熊本豪雨災害で被災した植
物標本の修復作業



PL.43 美幌博物館でおこなわれた
熊本豪雨災害で被災した植
物標本の修復作業

PL.44 上浦幌中央小学校でアイヌ文化に関する出前授業をする帯広百年記念館の長谷仁美学芸調査員
(2020.7.27)





PL.45 博物館ボランティアによる
故和歌山満氏の貝類標本コ
レクションの整理
(2020.6.19)



PL.46 博物館ボランティアによる音
盤資料（レコード）の整理
(2020.4.25)



PL.47 新型コロナウイルス感染症の
緊急事態宣言が発令されたた
め、博物館・図書館も臨時休
館を余儀なくされた
(2020.4.21)



PL.48 新型コロナウイルス感染拡大防止
対応のため、常設展示室に設けら
れた仮設カウンター

V. 博物館の事業



PL.49 コロナ関係資料の収集のためロビーに設置されたコロナ関係資料の見本展示

PL.50 6月末で退職した村尾ほのか司書（中央）と、4月に着任した山崎菜摘司書（右から2人目）
(2020.6.26)



PL.51 退職した図書館事務職員。
(前列左から) 汰木優氏、高橋広美氏、山口さあや氏
(2021.3.31)

VI. 出版・広報活動

- 『浦幌町立博物館年報』第21号発行（2020年11月30日）
- 『浦幌町立博物館紀要』第21号発行（2021年3月31日）
 - ・論文、資料紹介4編を掲載
 - ・第16号より国際逐次刊行物番号（ISSN）を付与（ISSN 2189-4787）
 - ・年報と共に全国の主な大学、博物館、図書館へ発送。
- 『浦幌町立博物館だより』発行（毎月1日発行）
 - ・町内および十勝・釧路管内の主な博物館、図書館等で配付。PDF版をホームページにて公開。
- 『広報うらほろ』に「博物館の窓」「アシール・レーラ」を連載

VII. レファレンス業務

レファレンス対応状況

(件)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
来館・町内呼出によるもの	32	28	35	55	62	75
通信および他部局より転送	85	102	62	112	78	129
合 計	117	130	97	167	140	204

*2014年以前のレファレンス受付件数については記録が無い（主なレファレンス内容のみ年報へ記載）

2020年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

<人文・社会科学分野>

- 浦幌炭鉱の現状について
- 留真温泉源泉探査
- 炭鉱・アイヌ文化・留真温泉・浦幌の歴史について
- 鉄道史関係
- 吉田康登牧師について
- 十勝沖地震のあと浦幌中学校で歌われるようになった亡くなった先生を偲ぶ歌について
- 炭山への行き方について
- 十勝太若月遺跡出土人骨について
- チャシについて
- 麻布（まふ）・保道車について
- 浦幌の近代建築について
- 擦文時代・アイヌ文化期の特徴について
- 浦幌村での戦没兵士の村葬記録について
- 浦幌町内におけるアイヌの染織技術の伝承について
- 日本福音ルーテル池田教会資料について
- 上厚内駅資料について
- 根室本線の史跡について
- 浦幌炭鉱鉄道用地における国鉄線路用地取得の経緯について
- 浦幌からのブラジル移民について
- 上西晴治について
- 近代初期アイヌ集落分布について

VII. レファレンス業務

- 鉄道資料の保存方法について
- 昭和40年十勝太遺跡の資料について
- 鉄道資料の収集方法の相談
- 町内工事に係る史跡の照会
- 浦幌の歴史などの問い合わせ
- 戦時中～1950年（昭和25年）くらいまでの紙芝居を保管しているかとの問い合わせ
- キリスト教会史研究について
- 浦幌の縄文遺跡について
- アイヌの鮭漁の先住権について
- 十勝川～浦幌十勝川の遺跡分布とアイヌについて
- 新聞資料問合せ
- 白糠丘陵～北見山地の高山性植物について
- 十勝太の鉄道計画について
- ソコベの湧水について、名称の由来や利用の歴史を知りたい
- 吉野小学校文集「よしのっこ」について
- 千葉大学アイヌ言語資料について
- 浦幌開拓農業協同組合について
- アイヌ副葬品資料について
- 福澤バット工場の資料がないか
- 釧路市の公民館の歴史について
- 常盤小学校があった頃の地図が欲しい
- 福澤バット工場で製作していたバットの種類について
- 養老小学校の校歌作成者と新養老小学校の校歌作成者の違いについて
- 幸福駅・広尾線の歴史問合せ
- 浦幌炭鉱跡地に残るコンクリート構造物について
- 淡路島からの入植者について
- オホーツク文化について
- 開拓獅子舞について
- 渡船について
- 今村浅次郎について
- 昭和35年頃の常室の地図がみたい
- 土器の使い方
- 写真の年代特定及び場所の同定
- オタフンベチャシについて

<自然科学分野>

- 植物同定依頼
- ウラボロイチゲについて
- アオサギコロニーについて
- キクザキイチゲの同定と分布確認
- ミズキの生えている場所
- エゾノコリンゴに大量発生した幼虫について
- イオルの植物について
- コケモモの生態について

- 豊北海岸で見られる花について
- ヌタベツト湿原について
- チョウの同定（写真）依頼
- ハマナスの生態・分類・民俗について
- 十勝石の産地について
- 浦幌におけるヒグマの生息状況及び研究状況について
- エゾオヤマリンドウについて（種類・和名問い合わせ）
- 化石林における植物同定に関する相談
- 豊頃駅裏のスズラン沼の魚類相について
- 厚内海岸における植生変遷について
- ミミズの同定依頼
- 十勝2番目のアンモナイトについて
- カニとウサギに関する情報の問い合わせ
- 十勝太展望台で見つけた石について問い合わせ
- 植物化石の相談
- 石の鑑定
- 雑草の名前の調べ方
- 広尾の「緑の海岸」（海藻）について
- 豊北海岸の植生について
- 白糠丘陵の範囲と成り立ちについて
- 化石鑑定依頼
- アオサギの数と環境の変化について
- 帯広市内平野部の残存湿地について
- 文化センターにある植物の問い合わせ（ラベンダーに似た花ネペタ）
- 十勝川流域の沼地の形成要因・年代について

<文化財・博物館制度・博物館学について>

- 雪の博物館をやっているかという問い合わせ
- 図書館・博物館の連携について
- 博物館情報のデジタル化調査
- 文化財レスキューについて
- 北海道の博物館地図について
- 学芸員の職務内容・身分について
- 登録博物館制度について
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について
- 博物館の閉館時間、休館日、料金についての調査

VIII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は10名であるが、日常的に活動している者は6名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第20号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
氏 名 別	4	2	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	38
延 人 数	36	25	33	30	30	27	31	29	32	28	37	35	373
磨 く 会*	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0

磨く会＝お茶を飲みながら資料を磨く会

●博物館ボランティア登録者

北 町	春日 基江	本 町	久我サトエ	南 町	荒川 和子	幸 町	大本眞里子
-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

IX. 博物館日誌（抄）

2020（令和2）年

- 4月1日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。円子紳一氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏来館。
- 4月2日(木) 荒川和子氏、大盛哲男氏来館。
- 4月3日(金) 標茶町：田中耕三氏、幕別町：福澤氏、北村敦子氏来館。
- 4月4日(土) 荒川和子氏来館。
- 4月5日(日) 飯居紹一氏、帯広市：濱屋伸悟氏、りょうへい君、佐藤芳雄氏来館。
- 4月7日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏、十勝毎日新聞社：内型勝也氏来館。
- 4月8日(水) 千葉定是氏、大同出版紙業㈱：藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 4月9日(木) ㈱ムトウ帯広支店：岡田和真氏、㈱ムトウテクノス釧路営業所：熊谷光一朗氏、飯居紹一氏、円子紳一氏来館。
- 4月10日(金) 大盛哲男氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、谷口清春氏、幕別町：福澤祐介氏・まゆみ御夫妻来館。
- 4月11日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。帯広美術館主任学芸員：蘭部容子氏、円子紳一氏、釧路市：吉村雅氏来館。
- 4月12日(日) 飯居紹一氏来館。
- 4月13日(月) 杉江英雄氏来館。
- 4月14日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 4月15日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、坂下禮子氏、佐藤芳雄氏、酪農学園大学：佐藤喜和氏、大同出版紙業㈱：藤井陸香氏来館。
- 4月16日(木) 坂下禮子氏、ニセコ町：伊藤大介氏来館。
- 4月17日(金) 土本伸重氏来館。
- 4月18日(土) 円子紳一氏、更別村：斉藤憲御夫妻来館。レコードコンサート新型コロナウイルス拡散防止対策のため中止。
- 4月21日(火) 臨時休館（展示室）。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 4月22日(水) 臨時休館（展示室）。円子紳一氏、大同出版紙業㈱：藤井陸香氏来館。
夜学講座「春の植物最近の話題」新型コロナウイルス拡散防止対策のため中止。
- 4月23日(木) 臨時休館（展示室）。飯居紹一氏来館。
企画展「アイヌ伝統文化作品展」新型コロナウイルス拡散防止対策のため中止。
- 4月24日(金) 臨時休館（展示室）。帯広市：田中克己氏、本別町：岸田正昭氏、飯居紹一氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。
- 4月25日(土) 臨時休館（展示室）。
- 4月26日(日) 臨時休館（展示室）。
- 4月28日(火) 臨時休館（展示室）。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。
- 4月29日(水) 臨時休館（展示室）。飯居紹一氏来館。移動博物館「うらほろいちげ観察会」新型コロナウイルス拡散防止対策のため中止。
- 5月1日(金) 臨時休館（展示室）。
- 5月2日(土) 臨時休館（展示室）。豊北植物調査中止、学芸員による調査のみ実施。飯居紹一氏、円子紳一氏来館。
- 5月3日(日) 臨時休館（展示室）。円子紳一氏来館。
- 5月4日(月) 臨時休館（展示室）。春日基江氏来館。
- 5月5日(火) 臨時休館（展示室）。飯居紹一氏来館。
- 5月6日(水) 臨時休館（展示室）。
- 5月7日(木) 臨時休館（展示室）。円子紳一氏、大同出版紙業㈱：藤井陸香氏来館。
- 5月8日(金) 臨時休館（展示室）。貝化石新種報道発表。帯広市：井上清和氏、十勝毎日新聞社池田支局長：内形勝也氏、北海道新聞社池田支局：岩瀬貴弘氏、毎日新聞社帯広報道部：鈴木斉氏、読売新聞北海道支社帯広通信部：山田靖之氏来館。
- 5月9日(土) 臨時休館（展示室）。図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 5月10日(日) 臨時休館（展示室）。移動博物館「青い鳥観察会」参加者10名。円子紳一氏来館。
- 5月12日(火) 臨時休館（展示室）。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、うらほろスタイル：中村陸二氏来館。
- 5月13日(水) 臨時休館（展示室）。大同出版紙業㈱：藤井陸香氏来館。
- 5月14日(木) 臨時休館（展示室）。貝化石取材。帯広市：井上清和氏、十勝毎日新聞社池田支局長：内形勝也氏、うらほろスタイル：中村陸二氏来館。
- 5月15日(金) 臨時休館（展示室）。坂下禮子氏来館。

IX. 博物館日誌（抄）

- 5月16日(土) 開館を再開。臨時カウンターを設置。「来館者記録票」による入館制限を開始。飯居紹一氏来館。「レコードコンサート」新型コロナウイルス拡散防止のため中止。
- 5月17日(日) 臨時カウンターを停止。国際博物館の日記念講座「平等を実現する場としての博物館-多様性と包括性」は新型コロナウイルス拡散防止のため中止。
- 5月19日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、円子紳一氏来館。
- 5月20日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、円子紳一氏、町議：沼尾昌也氏・栗山博文氏来館。
- 5月21日(木) 毎日新聞社北海道報道部帯広：鈴木齊氏、佐藤芳雄氏来館。
- 5月22日(金) 円子紳一氏、中札内小学校教諭：東海林氏来館。
- 5月23日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。ロングトレイル巡見講師として持田学芸員が浦幌炭鉱跡地案内。円子紳一氏、上浦幌中学校：三浦雅司教諭、町議：沼尾昌也氏・栗山博文氏来館。
- 5月24日(日) 円子紳一氏来館。
- 5月25日(月) 休館日。十勝うらほろ楽舎：近江正隆氏、近江幹太氏来館。
緊急事態宣言を夕方解除発表。
- 5月26日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名来館。
- 5月27日(水) 浦幌アイヌ協会：丹野るみか氏外1名来館。
- 5月28日(木) 大本眞里子氏、土本伸重氏来館。
- 5月29日(金) NHK帯広放送局：原祢秀平、NPO法人All Seed Association：千葉千栄美氏、丸山智恵氏来館。
- 6月2日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）企画展設営。浦幌アイヌ協会4名来館。
- 6月3日(水) 企画展「アイヌ伝統文化作品展」開催、至7月5日。帯広市：井上清和氏、円子紳一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 6月4日(木) ひがし大雪自然博物館：乙幡康之氏、円子紳一氏、武藤満雄氏来館。
- 6月5日(金) 谷口清春氏来館。
- 6月6日(土) 豊北植物調査実施、参加者4名。
- 6月7日(日) 浦幌の自然を楽しむ会、ウチダザリガニ駆除活動。
- 6月9日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。図書館・博物館協議会開催。漂着木処理に伴う海岸植生影響についての説明と現地視察。フォレストデジタル(株)：梶尾菜々実氏、国土交通省北海道開発局池田河川事務所：大串正紀氏・市川嘉輝氏、円子紳一氏、斉藤薫氏来館。
- 6月10日(水) NHK帯広放送局：原祢秀平氏外3名来館。
- 6月12日(金) 札内：福澤祐介氏、寿町：経堂恵子氏、酪農学園大学学生：菊池氏外2名来館。
- 6月13日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。飯居紹一氏来館。
- 6月14日(日) バイケイソウ生態調査、北海道大学大学院環境科学研究科：伊藤陽平氏。
円子紳一氏、宮崎一市氏、芽室町：中司光子氏来館。
- 6月15日(月) NHKさわやか自然百景豊北から昆布刈石地区取材。
- 6月16日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名来館。飯居紹一氏、酪農学園大学：菊池氏外2名来館。
- 6月17日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、共同通信社：青柳絵梨子氏、地域おこし協力隊：古賀詠風氏・見山夕莉氏、十勝畜産農業組合：増谷仁志氏、千葉千栄美氏、相原正美氏、大久保真氏来館。
- 6月18日(木) 円子紳一氏、浦幌小学校長：横山利幸氏来館。
- 6月19日(金) 梶省造氏、円子紳一氏来館。
- 6月23日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 6月24日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名来館。蘭越町：大表章二氏外2名、読売新聞社：山田靖之氏来館。
- 6月25日(木) 円子紳一氏、釧路市：渡邊博之氏来館。
- 6月26日(金) 円子紳一氏、共同通信社釧路：崎勘太郎氏来館。持田誠学芸員：浦幌小学校3年社会出前授業。
- 6月27日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 6月28日(日) 北海道新聞社：小久保友香氏、アイヌ民族文化財団：杉山末樹、酪農学園大学：佐藤喜和氏来館。
- 6月30日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、浦幌アイヌ協会2名来館。
- 7月1日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、宮崎一市氏、円子紳一氏、梶省造氏来館。
- 7月2日(木) 円子紳一氏、十勝毎日新聞社池田支局長：内形勝也氏来館。勝毎手づくりマスク募集の取材。
- 7月4日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催。酪農学園大学：佐藤喜和氏来館。
- 7月5日(日) 更別村：斉藤憲氏来館。
- 7月7日(火) 新町：増子礼子氏来館。
- 7月9日(木) 北海道新聞社：岩瀬貴弘氏来館。
- 7月10日(金) 武藤夫妻、NHK札幌拠点放送局：向井徹氏来館。
- 7月11日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 7月14日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 7月16日(木) 円子紳一氏、フクハラ浦幌店店長：徳本氏来館。
- 7月18日(土) えんそく博物館「本別町歴史民俗資料館浦幌炭鉱跡地」参加者22名。企画展「記念物100年パ

- ネル展」至9月27日。浦幌アイヌ協会：長根弘喜氏ほか4名来館。
- 7月19日(日) 浦幌アイヌ協会、丸木舟搬入、ロビーへ展示。浦幌アイヌ協会：長根弘喜氏ほか、北海道博物館：大坂拓氏来館。
- 7月21日(火) 榎省造氏来館。
- 7月22日(水) 円子紳一氏、中国山東大学：鄧聰（タンチュン）氏来館。
- 7月23日(木) 円子紳一氏、中国山東大学：鄧聰（タンチュン）氏来館。
- 7月24日(金) 上浦幌中学校：三浦教諭来館。
- 7月25日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。ふるさと深索訪「厚内周辺の自然と歴史」参加者10名。円子紳一氏来館。
- 7月26日(日) 夏休みこども博物館「ウチダザリガニバスターズ」。
- 7月27日(月) 持田誠学芸員：上浦幌中学校出前授業。
- 7月28日(火) 埼玉県立川市博物館：藤田宏之氏、浦幌アイヌ協会：長根喜一郎氏、円子紳一氏、竹田電気(株)：齊藤大樹氏来館。
- 7月29日(水) 上土幌アイヌ協会：清水勇氏、浦幌アイヌ協会：丹野るみか氏来館。
- 7月31日(金) 毎日新聞社帯広報道部：鈴木斉氏来館。
- 8月1日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催。企画展「コロナな時代のマスク美術館」開催、至9月27日。坂下禮子氏、北海道新聞帯広支社：水野薫氏、札幌市東区：杉本明氏外6名来館。
- 8月2日(日) 円子紳一氏来館。
- 8月4日(火) NHKハラネ氏外2名、円子紳一氏、京都府：岡崎利夫氏来館。
- 8月5日(水) 帯広市：今井芳子氏、宮崎一市氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、浦幌町商工会：小倉頌平氏来館。
- 8月6日(木) 円子紳一氏、浦幌アイヌ協会：長根弘喜氏来館。
- 8月7日(金) 持田学芸員：豊北海岸漂着木立ち合い。円子紳一氏、帯広市：池田緑夫婦来館。
- 8月8日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。ふるさと探索「浦幌の記念物と文化財」開催、参加者11名。STVマスク取材。札幌市寿郎社：土肥寿郎氏、飯居紹一氏、STV報道局帯広支局：原田健志氏来館。
- 8月10日(月) 円子紳一氏、大本真里子氏、榊原政裕氏来館。
- 8月13日(木) 円子紳一氏、光南：東山知美氏来館。
- 8月14日(金) 東山知美氏、宮崎一市氏、前出彰子氏来館。
- 8月15日(土) 日本福音ルーテル帯広協会牧師：岡田薫氏来館。
- 8月16日(日) 円子紳一氏、丹野るみか氏、上浦中学校：三浦教諭来館。
- 8月18日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。
- 8月19日(水) 夜学講座「活平神社と丸岡キサノ」参加者10名。
- 8月20日(木) 飯居紹一氏、釧路市：佐鯉けい子氏来館。
- 8月22日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 8月25日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。円子紳一氏、更別村：斉藤憲氏、北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏来館。
- 8月26日(水) 帯広大谷短期大学：吉田眞弓氏、円子紳一氏来館。
- 8月27日(木) 中田麻純氏、円子紳一氏、自由撰稿人：吉井忍氏来館。
- 8月29日(土) 円子紳一氏、帯広市：東谷麻央氏来館。
- 8月30日(日) UHB取材（9月2日放送予定）。埼玉県：久米亨、UHB帯広：紺野由之氏来館。
- 8月31日(月) ソーゴー印刷(株)代表取締役：高原淳氏来館。
- 9月1日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催、浦幌アイヌ協会2名来館。円子紳一氏、十勝うらほろ学舎：三宅草一郎氏来館。
- 9月2日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、十勝毎日新聞池田支局長：内形勝也氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、北海道立図書館：宮本浩氏来館。
- 9月3日(木) 十勝畜産共同組合：増谷仁志氏来館。
- 9月4日(金) 飯居紹一氏来館。
- 9月5日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催、参加者3名。
- 9月6日(日) 円子紳一氏来館。
- 9月8日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、浦幌アイヌ協会2名、十勝毎日新聞池田支局：内形勝也氏、宮崎一市氏、円子紳一氏、飯居紹一氏来館。
- 9月10日(木) 慶応義塾大学大学院文字研究科：瀧川奈々氏来館。
- 9月11日(金) 有島記念館学芸員：伊藤大介氏、厚内公民館長：小山孝行氏、浦幌中学校教諭：安達大輔、谷口清春氏来館。
- 9月12日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。厚内公民館長：小山孝行氏来館。
- アートドキュメンテーション学会第99回研究会「新型コロナ資料の収集」開催（オンライン）持田学芸員が報告講演。
- 9月15日(火) 円子紳一氏、コロナ大仏造立プロジェクト：風間天心氏・前田真治氏来館。博物館実習生受入れ、至9月22日

IX. 博物館日誌（抄）

- 9月16日(水) 夜学講座「マスクが示すコロナな時代」参加者17名。勝毎chai編集部：山岡瑠美子氏、帯広商工会議所：和泉友喜乃氏、帯広市芸術家：池田緑氏、音更町：菅原一晴氏、広尾町図書館：三崎奈美子氏来館。
- 9月17日(木) NHK報道局報道番組センター：中田実里氏来館。
- 9月18日(金) 幕別町百年記念館ホール：三石諒氏来館。
- 9月19日(土) えんそく博物館「池田郷土資料館」参加者10名。
飯居紹一氏、大笹健郎氏、日本福音ルーテル帯広協会：岡田薫、北海道立北方民族博物館学芸員：野口奏弥氏来館。
- 9月20日(日) ラポロアイヌネーションによるアシリチュプノミ（十勝太新川）持田学芸員と実習生参加。
大笹健郎氏、北海道立北方民族博物館学芸員：野口奏弥氏来館。
- 9月22日(火) 元帯広100年記念館長：北沢実氏来館。
- 9月23日(水) 持田学芸員：川流布K/Pg境界案内。
- 9月24日(木) 持田学芸員：帯広市十勝管内学芸職員等協議会出席。
- 9月25日(金) 谷口清春氏来館。
- 9月26日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。外崎ゆずはさん他2名、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
- 9月27日(日) 上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏、大本真里子氏来館。
- 9月29日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、浦幌アイヌ協会2名来館。
- 10月1日(木) 令和2年度帯広百年記念館運営協議会移動展「小坂俊昌ふるさと文化写真展」10月2日～10月13日。持田学芸員：別海町出張、至10月3日。円子紳一氏、大本真里子氏、榊原政裕氏来館。
- 10月3日(土) 榊原政裕氏来館。
- 10月4日(日) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催。上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏、榊原政裕氏、円子紳一氏、本別町図書館司書：木村彩乃氏来館。
- 10月6日(火) 榊原政裕氏、産業課長：小川博也氏、(株)リレイション：祁答院弘智氏来館。
- 10月7日(水) 円子紳一氏、大本真里子氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 10月8日(木) 円子紳一氏、幕別町百年記念ホール：三石涼氏・酒森牧子氏来館。
- 10月10日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 10月13日(火) 千葉県香取市：篠原義彦氏、円子紳一氏、浦幌町静内：鳴海孝次氏来館。
- 10月14日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、釧路市：河田康孝氏、標茶町：田中耕三氏来館。
- 10月15日(木) 持田学芸員：浦幌中学校遠足（浦中～十勝太・昆布刈石）同行解説。
- 10月16日(金) 丹野るみか氏、札幌市(株)日進通工：橋崎豊氏、地域おこし協力隊：梶川菜々美氏来館。
- 10月18日(日) 北海道文化財保護強化事業「列車で学ぶ地理・歴史」参加者23名。
美園：三宅草一朗氏、円子紳一氏来館。
- 10月19日(月) 臨時会館：帯広障がい者福祉協会18名。
- 10月21日(水) 帯富：北村嗣未氏・こはるちゃん、坂下禮子氏来館。
- 10月22日(木) 帯広市（有）設計工房アーバンハウス：小野寺一彦氏来館。
- 10月24日(土) 大本真里子氏、円子紳一氏、帯広市（有）設計工房アーバンハウス：小野寺一彦氏来館。
- 10月25日(日) 宮崎一市氏、飯居紹一氏来館。
- 10月27日(火) 浦幌小学校：山下教諭・児童5名、標津サーモン科学館：大畠鐘氏、帯広市：井上清和氏来館。
- 10月28日(水) 北村嗣未氏・娘さん3名、鳴海孝次氏、地域おこし協力隊：三宅草一朗、帯広美術館：菌部容子氏、釧路博物館：加藤ゆき恵氏来館。
- 10月30日(金) 臨時休館（資料整理日）。円子紳一氏来館。
- 10月31日(土) 円子紳一氏、上浦幌中学校：立野里奈氏ほか1名来館。
- 11月1日(日) 帯広百年記念館：森久大氏、酪農学園大学：佐藤喜和氏・鳴原しずく氏、円子紳一氏来館。
- 11月3日(火) 杉山未樹氏、釧路市：渡辺博之氏来館。
- 11月6日(金) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。
- 11月7日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催、参加者3名。釧路市：大瀧正人氏来館。
- 11月8日(日) 移動博物館「秋の渡り鳥観察会」参加者12名。円子紳一氏、飯居紹一氏来館。
- 11月10日(火) 釧路市：三上憲明氏来館。
- 11月11日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、(株)曾我：田中氏来館。持田学芸員：札幌市北海道博物館出張、北海道博物館協会。
- 11月13日(金) 円子紳一氏来館。
- 11月14日(土) 円子紳一氏、役場：山本浩宣氏来館。
- 11月17日(火) 北海道映像記録(株)：馬場勉氏来館。
- 11月18日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 11月19日(木) 上浦幌中央小学校長：都鳥秀史氏、円子紳一氏来館。
- 11月21日(土) 円子紳一氏、慶応義塾大学大学院文学研究科：瀧川奈々氏来館。
- 11月25日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 11月27日(金) 臨時休館（資料整理日）
- 11月28日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。

- 大森哲男氏、とてつば機関車愛好会：土田和世氏来館。
 12月1日(火) 飯居紹一氏、円子紳一氏、兵庫県尼崎市：前村育雄氏来館。
 持田学芸員、上士幌町東大雪自然館へ企画展資料借受のため出張。
 12月2日(水) 企画展設営開始。
 12月4日(金) 釧路市立博物館：加藤ゆき恵氏来館
 12月5日(土) 企画展「外来生物展」至1月17日。企画展関連講座「いま外来生物の何が問題なのだろう？」
 参加者15名。釧路市立博物館：加藤ゆき恵氏、十勝うらほろ楽舎、円子紳一氏、大盛哲男氏、
 東京農業大学生物産業学部海洋水産学科水産増殖学研究室：園田武氏来館。
 12月6日(日) 宇佐美成美、宇佐美秀明氏、更別村：齊藤憲氏他1名、信友直子氏来館。
 12月8日(火) 梶省造氏、西垣隆夫氏来館。
 12月9日(水) 北海道立総合研究機構地質研究所：廣瀬亘氏来館。
 12月10日(木) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏来館。
 12月12日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
 町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える第1回」参加者8名。
 植村直巳野外学校：北沢実氏、更別村：齊藤憲氏来館。
 12月13日(日) 釧路市立博物館：貞國利夫氏、釧路市こども遊学館：角田真穂氏、榊原政裕氏来館。持田学
 芸員、帯広百年記念館、大津十勝川学会役員会出席。
 12月14日(月) 持田学芸員、帯広商工会議所、十勝検定試験問題作成委員会出席。
 12月15日(火) アイヌ民族文化財団用映像撮影、(株)札幌映像プロダクション：長瀬雄大氏・松浦祐輔氏他2
 名来館。
 12月16日(水) 町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える第2回」。
 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、帯広畜産大学：板倉来衣人氏来館。
 12月18日(金) 円子笑氏来館。
 12月23日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
 12月26日(土) ロビーコンサート「クリスマス讃美歌コンサート」参加者13名。
 12月27日(日) 上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
 12月29日(火) 北海道立北方民族博物館：宮本花恵氏来館。
 12月30日(水) 北海道教育委員会：村本周三氏、ウポポイ：杉山未樹氏、榊原政裕他1名、飯居紹一氏、大
 本真里子、帯広市役所：土田佳世子氏来館。

令和3年

- 1月6日(水) 大盛哲男氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
 1月7日(木) まちづくり協力隊：古賀詠風氏来館。
 1月8日(金) 内田暁友氏来館。
 1月9日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。企画展関連講座「最近の外来種」参加者26名。植
 物研究家：内田暁友氏、釧路博物館：加藤ゆき恵氏、霧多布湿原センター：辻ねむ氏来館。
 1月10日(日) 更別村：斎藤憲氏来館。
 1月14日(木) 十勝毎日新聞社池田支局：内形勝也氏・小縣大輝氏来館。
 1月15日(金) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、十勝毎日新聞社池田支局：内形勝也氏・小縣大輝氏来館。
 1月16日(土) 池田町：川内和博氏、円子紳一氏来館。
 1月19日(火) 円子紳一氏来館。
 1月20日(水) 孔版画年賀状展設営。コロナ資料取材。HBC報道制作センター記者：松本雅裕氏、千葉是定
 氏来館。
 1月21日(木) 円子紳一氏、大盛哲男氏来館。
 1月23日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
 町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える第3回」参加者5名
 1月26日(火) 円子紳一氏、杉江英雄氏、大盛哲男氏来館。
 1月27日(水) 町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える第4回」
 1月29日(金) 臨時休館（資料整理日）
 1月31日(日) 特別コーナー展示「しゃっこいフェスの歴史」至2月14日。もみじ子会：宮川カズエ氏来館。
 2月2日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、浦幌アイヌ協会5名来館。
 大盛哲男氏、円子紳一氏、うらほろスタイル：見山夕莉氏、十勝毎日新聞社：小縣大輝氏来館。
 2月3日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、美園：三宅草一郎氏、円子紳一氏来館。
 2月6日(土) 企画展「ぼくの、わたしの、書き初め展」至2月18日。
 (株)北海道協同組合通信社デーリィマン社：千種亜季氏来館。
 2月9日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
 2月10日(水) 町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える第5回」
 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、前出彰子氏来館。
 2月11日(木) 町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える第6回」参加者5名。
 円子紳一氏来館。

IX. 博物館日誌（抄）

- 2月13日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。佐藤芳雄氏、宮川カズエ氏来館。持田学芸員：オンライン会議
- 2月16日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）。持田学芸員：浦幌小学校5・6年生授業。三井物産フォレスト(株)帯広山林事業所長：高森淳氏来館。
- 2月23日(火) 道立北方民族博物館：野口奏弥氏来館。
- 2月26日(金) 臨時休館（資料整理）。十勝毎日新聞社取材。企画展設営。十勝毎日新聞社：小縣大輝氏、円子紳一氏来館。
- 2月27日(土) 企画展「コロナな時代を語り継ぐために」至4月11日。図書館布絵本づくりボランティア活動日。HBC報道局・毎日新聞社取材。毎日新聞社北海道報道部帯広：鈴木斉氏、HBC放送局：谷内氏来館。
- 3月2日(火) 円子紳一氏、宮川カズエ氏来館。
- 3月4日(木) ひな人形撤収。帯広建設管理部8名来館。
- 3月7日(日) 博物館講座「コロナ関係資料の収集と博物館」参加者9名。北海道新聞社：椎名宏智氏来館。
- 3月9日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）。上浦幌中学校：三浦雅司教諭、うらほろ部：見山夕莉氏来館。
- 3月10日(水) 夜学講座「企画展展示解説と博物館の取り組み」
大本真里子氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、北海道映像記録(株)：馬場勉氏、森の映画社：藤本幸久氏外3名来館。
- 3月11日(木) 榎省造氏、円子紳一氏、上浦幌中央小学校長：都鳥秀史氏来館。
- 3月12日(金) 円子紳一氏来館。
- 3月13日(土) 飯図書館布絵本づくりボランティア活動日。北村敦子氏、お孫さん2名来館。
- 3月14日(日) 大本真里子氏、NPOアースウインド：横須賀氏来館。
- 3月16日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、十勝毎日新聞社：小縣大輝氏、東京都：北本聖子氏来館。
- 3月17日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館
- 3月18日(木) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。
- 3月21日(日) 移動博物館「春の渡り鳥観察会」悪天候につき中止。杉江英雄氏、円子紳一氏、榎原政裕氏来館。
- 3月24日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、池田町：川内和博氏、北海道総合研究機構エネルギー環境地質研究所：廣瀬亘氏来館。
- 3月25日(木) 円子紳一氏、大正大学：中野美優氏、十勝うらほろ学舎：上田真弓氏来館。
- 3月26日(金) 円子紳一氏、谷口清春氏来館。
- 3月27日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。豊頃町：白濱雅也氏、佐藤芳雄氏来館。
- 3月30日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 3月31日(水) 杉江英雄氏、坂下禮子氏来館。

X. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

(令和3年3月31日現在)

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	697	26	927	26	603	27	663	26	777	17	419
5	27	835	25	979	26	806	27	1,045	27	915	14	41
6	25	1,218	26	661	26	670	26	671	26	696	25	185
7	27	754	27	897	26	882	26	1,261	26	1,024	27	332
8	26	1,919	25	1,853	28	1,352	28	1,340	27	919	26	342
9	26	807	25	903	26	783	25	872	25	783	26	294
10	27	826	26	472	26	813	27	1,119	26	1,129	26	331
11	24	958	24	807	25	510	26	692	26	657	23	296
12	25	576	26	693	26	929	26	595	25	747	26	255
1	23	701	22	639	23	454	23	799	22	748	22	182
2	23	1,025	24	900	24	893	24	957	24	629	21	227
3	27	845	27	587	26	708	26	1,248	*12	634	26	389
小計	305	11,161	303	10,318	308	9,403	311	11,262	292	9,658	279	3,293
累計	4,909	155,633	5,212	165,951	5,520	175,354	5,831	186,616	6,123	196,274	6,402	199,567

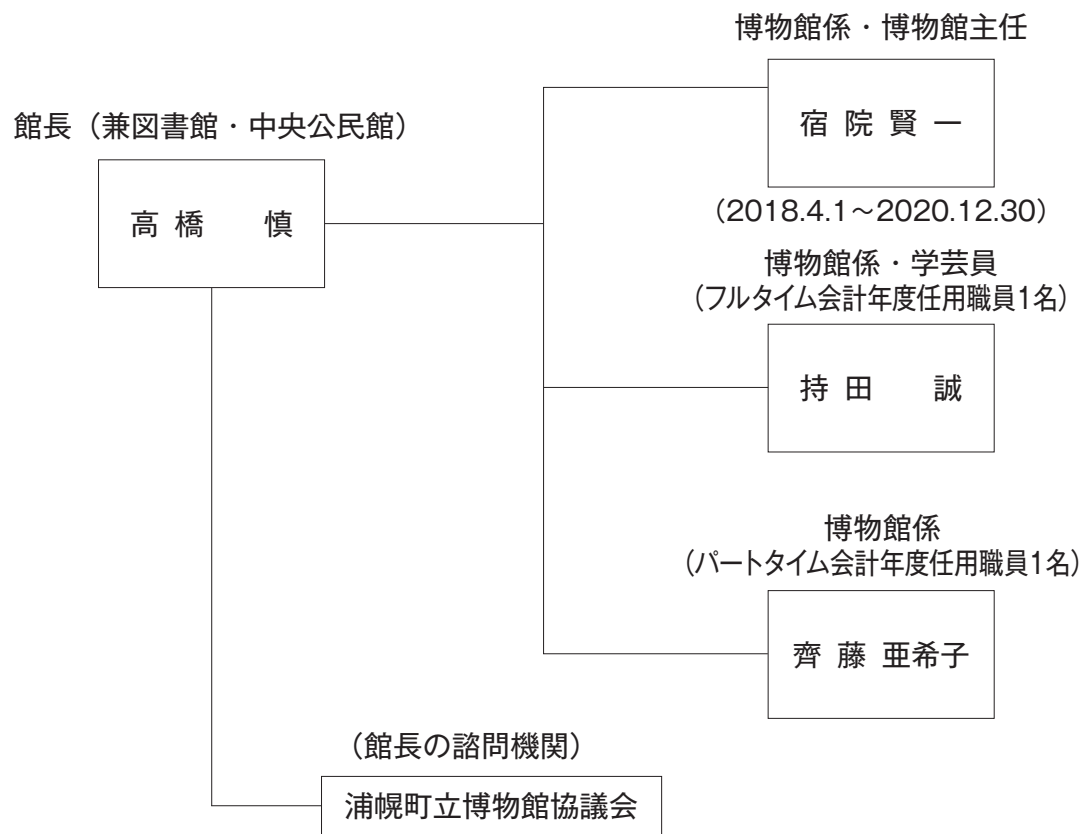
* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
3月4～19日臨時休館。

(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

7月 1日 浦幌町しらかば保育園	17名	10月 8日 幕別町百年記念ホール	20名
7月 14日 浦幌幼稚園	35名	10月 10日 帯広徳島県人友の会	10名
7月 16日 帯広市広野柏寿会	20名	10月 19日 帯広障がい者福祉協会	18名
7月 29日 幕別小学校6年生	30名	11月 1日 酪農学園大学	10名
8月 7日 コープ札幌（トーチカ見学）	15名	11月 1日 ㈱シービーツアーズ蝦夷三官寺巡りツアー	20名
8月 12日 浦幌学童保育所	23名	11月 6日 上浦幌中央小学校	12名
8月 25日 上浦幌中央小学校1年生	7名	11月 6日 浦幌小学校	7名
9月 1日 浦幌部	10名	12月 29日 学童保育所	20名
9月 29日 上浦幌中学校	18名	合計	17件 292名

(令和3年3月31日現在)

XI. 博物館の組織



令和2年4月1日現在

職 名	氏 名	住 所	備 考
会 長	円 子 紳 一	北栄町2区	
副会長	西 森 七 枝	新 町	
委 員	池 田 哲	住吉町1区	浦幌中学校長
〃	横 山 利 幸	緑 町	浦幌小学校長
〃	春 日 基 江	北 町 2 区	
〃	坂 下 禮 子	光 南	
〃	齊 藤 絵理佳	南 町	
〃	長谷川 みなみ	厚 内	

(任期 令和3年12月18日まで)

XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等

1. 当館に配置されている学芸員

- (1) 氏名：持田 誠
- (2) 着任：2015（平成27）年4月1日、浦幌町教育委員会 準職員
- (2) 学位：博士（農学）
- (3) 専門分野：植物学・鉄道史・博物館学
- (4) 現在の主な研究テーマ
 - 浦幌町および白糠丘陵一帯の植物相（標本採集とフロラ調査）
 - 豊北海岸のフェノロジーと植生
 - 十勝の鉄道史と鉄道遺産（根室本線建設史、浦幌炭砒鉄道）
 - 道東におけるルーテル教会の形成史
 - 活平神社史と活平神社に残る丸岡キサノ関係資料

2. 業績

(1) 論文・出版・解説記事等

- 持田誠 2021. コロナ関係資料からみえてくるもの. デジタルアーカイブ学会誌 5 (1) : 47-52.
- 永田優・片桐浩司・緑川昭太郎・持田誠・首藤光太郎 2021. トリゲモ（トチカガミ科）の北海道新産による国内北限の更新. 植物研究雑誌 96 (1) : 38-43.
- 持田誠 2021. 十勝 実は自然の少ない十勝地方（小特集 東北海道の植物）. 北方山草 (38) : 巻頭2p, 7-10.
- 持田誠 2021. 製造100年を迎えた十勝鉄道の4号機. 鉄道ピクトリアル (981) : 118-119.
- 持田誠 2020. コロナ関係資料収集の意義と必要性. 博物館研究 55 (11) : 21-24.
- 持田誠 2020. コロナな時代をモノで記録する. 道博協ニュース (127) : 8.
- 持田誠 2020. 浦幌町のアイヌ墓地と副装品展示が語るもの. 文化情報 (381) : 5.
- 持田誠 2020. 路上生活者と過ごした冬. よきおとずれ（カトリック釧路教会だより）(19) : 4-5.

(2) 研究発表等

- 持田誠. 地域博物館におけるコロナ関係資料の収集からみえてきたもの. アート・ドキュメンテーション学会第102回研究会「新型コロナ資料の収集と展示」. 2021年3月6日（オンライン開催）
- 持田誠. 吉田康登牧師の足跡：なぜ池田に教会が建てられたのか？. 帯広百年記念館講座. 2021年2月20日（帯広市）
- 持田誠. 地方博物館の広域連携：地域博物館に自然史は必要か？. 全日本博物館学会第46回研究大会. 2021年1月30日～2月7日（オンライン開催）
- 持田誠. 博物館がコロナ関係資料を収集する意義. アート・ドキュメンテーション学会第99回研究会・第3回オンラインイベント「コロナ資料の収集」. 2020年9月12日（オンライン開催）

(3) 共同研究

- 浦幌町内における特定外来生物ウチダザリガニの実態に関する調査（浦幌の自然を楽しむ会）
- 北海道の炭鉱跡地の植生回復に関する研究（釧路市立博物館）
- 北海道産サクラソウの分類地理学的研究（北海道大学環境科学研究所）
- 日本福音ルーテル池田教会・釧路教会の歴史（日本福音ルーテル帯広教会）
- コロナ関係資料の収集・保存（コロナ関係資料収集ネットワーク）

(4) 主な依頼講演・講師等

- 持田誠, コロナな時代の博物館と資料保存, 帯広市民大学講座第13集, 2020年12月22日(帯広市)
- 持田誠, 十勝のキリスト教, 帯広市市民マイスター講座2020, 2020年11月13日(帯広市)
- 持田誠, 博物館がコロナ関係資料を収集する意義, 第2回 北海道・東北地区の歴史資料保全に関するワークショップ: うち続く災害に、改めてどう向き合っていくのか, 2020年8月30日(オンライン開催)

3. 主な社会活動・外部協力

- 北海道大学総合博物館資料部研究員
- 北海道教育大学非常勤講師(博物館情報・メディア論)
- 美幌博物館学芸協力員
- 北海道立帯広美術館協議会委員
- 一般道道モアショロ原野螺旋湾足寄停車場線モアショロ原野地区環境影響に関する懇談会委員
- アイヌ民族文化財団事業運営委員
- 北海道博物館協会学芸職員部会幹事
- 東十勝ロングトレイル協議会オブザーバー
- 浦幌町着地型観光推進委員会委員
- 北海道自然史研究会理事
- 十勝管内博物館学芸職員等連絡協議会幹事
- 大津・十勝川学会理事
- とてつば機関車愛好会(帯広市指定文化財十勝鉄道保存車輛公開事業実行委員)

XIII. 博物館活動のマスコミ報道

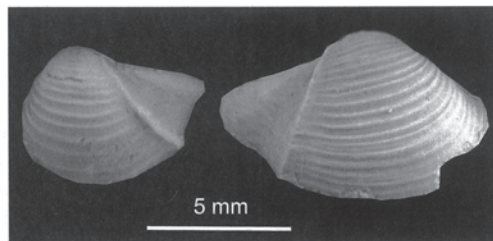
あすから来月
6日まで臨時休館
町立博物館

町立博物館

【浦幌】町立博物館（高橋慎館長）は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、21日から5月6日まで臨時休館する。再開は同月7日の予定。

臨時休館に伴い、予定していた夜学講座「春の植物の最近の話題」（22日）、ウラボロイチゲ観察会（29日）、豊北植物調査会（5月2日）は中止。企画展「アイヌ伝統作品展」は延期（6月3日～7月5日）する。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（内形勝也）

「十勝毎日新聞」 2020年4月21日



世界最古の二枚貝化石

6000万年前
浦幌・富川層で発見

【浦幌】町立博物館（カワルツ川）地区の茂川流布川（モカワルツ川）支流に位置する約6000万年前の地層「富川層」から、世界最古となる二枚貝化石のタテシヤクシガイ属の新種「ミオネラ・イノウエ」(和名はイノウエタテシヤクシ)が発見された。化石の学名と和名は、発見者で帯広市在住のアマチュア化石研究家の井上清和さん(61)にちなんで付けられた。年代測定は新潟大学の栗田哲也准教授(60)が行い、上越教育大学の天野和孝特任教授(66)が米国の貝類学雑誌「ブーチャス」に論文を発表した。

新種「ミオネラ・イノウエ」

町川流布地区の富川層から発見された世界最古の新種の二枚貝化石「イノウエタテシヤクシ」(上越教育大学の天野特任教授提供)

8日に発見者の井上さんが見とる。井上さんは2010年11月、町の富川層で、枚貝の化石を発見した。タテシヤクシガイ属の従来の最古化石記録は富山県で産出した約1700万年前のものであった。イノウエタテシヤクシはそれより4300万年前もさかのぼり、深海生物の起源をひもとく上で重要な発見となる。

富川層 恐竜が絶滅した白垩紀末期に続く新生代初期の晩新世(600万～5600万年前)の地層。晩新世の地層は他の年代の地層に比べて世界的に少ない。浦幌町内には国内屈指の化石発掘ポイントとして知られている活平地区の「活平層」もあるが、それよりもさらに深く、直接距離で8キロ離れている。



世界最古の二枚貝化石について説明する発見者の井上さん(8日午前9時10分ごろ、浦幌町立博物館)

化石発見。過去にも研究新種であることが判明しに協力していた天野特任教授。井上さんは「30年以上にわたって化石研究をしているが自分ら10年ぶりに世界最古の名前が和名についた」と話している。

はつれい。見つけた時は「世界最古の新種」と思わなかったのだ。いざ化石研究をしていくにつれて、10年ぶりに世界最古の名前が和名についたと話している。

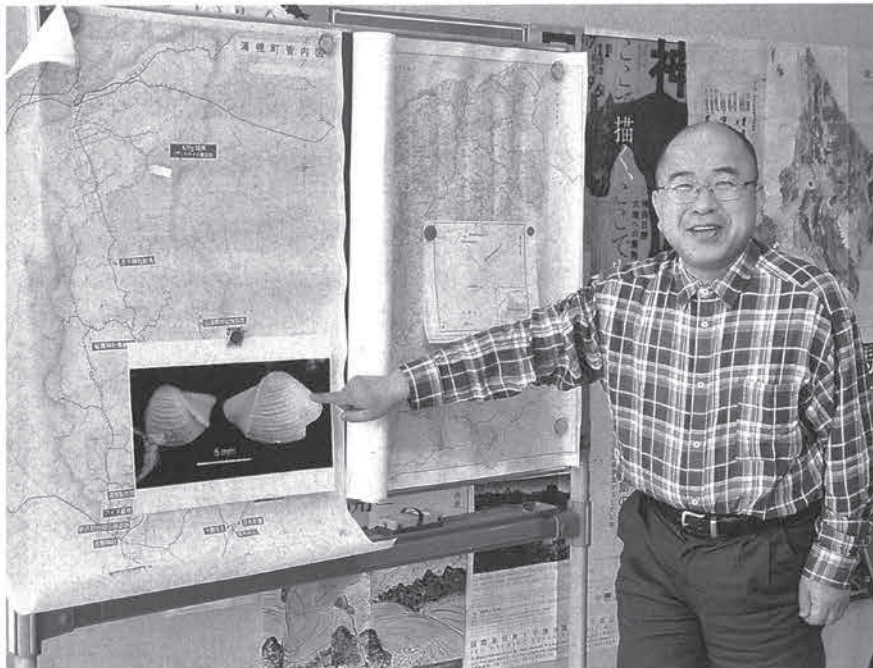
二枚貝化石は、殻長(かへい)が最大8・8センチ、殻高(かこう)は約6・4センチで、しゃじの形をしている。現存のタテシヤクシガイ属は強い二本の縦じわがあるがイノウエタテシヤクシには一本しかないのが特徴。イノウエタテシヤクシはロシアの貝類研究者によつて深海起源が推定されてきたが、今回の発見で、改めてそれが証明された。一般的に海洋生物はシーラカンスやオキナエビスガイのように浅海に誕生し、その後、深海に適応したと考えられており、今回の発見はそれを覆すものとなる。

これまでに町内周辺から産出している世界最古の化石は、ミジンコガイ属、ワツミフネガイ属、スナメガイ属、ツメガイ属、エノゴロモガイ属に、新たなタテシヤクシガイ属が加わり、6属全てで深海に出現したことが明らかとなった。

天野特任教授は「今回の発見は深海生物の起源とどこなのか、深海生物の進化を考える上で重要」と話している。(内形勝也)

「十勝毎日新聞」 2020年5月8日

自分の名前が和名に付いた「イノウエタテヒダシヤクシ」を説明する井上清和さん



浦幌で発見 世界最古の新種貝化石 和名に帯広の研究家・井上さん

【浦幌】上越教育大（新潟県上越市）の天野和孝特任教授（古生物学）らが川流布地区の約6千万年前の地層から発見した新種の二枚貝の化石には、採集した帯広市のアマチュア化石研究家井上清和さん（61）にちなみ、「イノウエタテヒダシヤクシ」（学名ミオネラ・イノウエイ）と名付けられた。初めて和名にも名前が入った井上さんは「一般的に和名で呼ばれるので、うれしい」と喜ぶ。

30年以上化石の研究をしている井上さんは8日、町立博物館で今回の発見の意義などを説明。天野特任教授はこれまで町内で発見した化石の和名に浦幌の地名を付けていたが、今回はこれまでの功績にちなみ井上さんの名前を付けたという。

川流布で採集、調査に協力

井上さんは2010年11月、同地区で長さ30〜40センチの石灰質の塊を発見。井上さんは「見たことがない化石があった。詳しく調べたら面白いと思った」という。

過去にも調査に協力している天野特任教授に送ったところ、世界最古の新種であることが判明した。井上さんは「世界最古とは思わなかったので、びっくりした」と驚く。

町内ではこれまで、スナメガイやツメタガイなど5種の世界最古の化石が発見されている。博物館の持田誠学芸員は「6種目の発見は町としても意義深い。今回の化石を含め天野先生のコーナーを設置し、町民の関心も高めていきたい」と話している。

（岩瀬貴弘）

“イノウエタテヒダシヤクシ”

「北海道新聞」 2020年5月9日

15日まで休館延長

町立博物館

【浦幌】町立博物館は、政府の新型コロナウイルスの感染拡大による政府の緊急事態措置期間の延長を受け、予防のため、15日まで臨時休館を延長する。

この他、中央公民館、上浦幌公民館、厚内公民館、図書館、複合施設フタバ、総合スポーツセンター、上浦幌地区軽スポーツセンター、幾千世地区軽スポーツセンター、厚内地区軽スポーツセンター、うらほろ留真温泉なども同日まで臨時休館する。

また、森林公園、健康公園（多目的広場）、町民球場、浦幌パークゴルフ（P

G）場、上浦幌PG場、吉野PG場、厚内PG場は16日に開園、開場する予定。問い合わせは町総務課（015・576・2111）へ。（内形勝也）

「十勝毎日新聞」 2020年5月9日

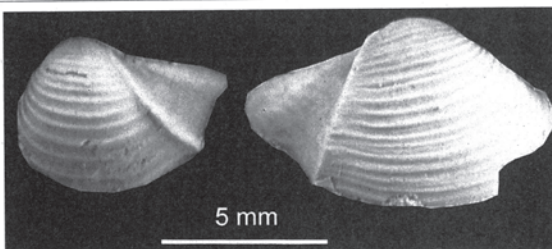
浦幌の貝化石 最古の新種

タテヒダシヤクシ 約6千万年前

帯広の井上さん採集

【浦幌】上越教育大（新潟県上越市）の天野和孝特任教授（古生物学）と新潟大の栗田裕司准教授（古生物学）は8日、十勝管内浦幌町流布地区の約6千万年前の地層から一枚貝タテヒダシヤクシの新種の化石を発見したと発表した。タテヒダシヤクシとしては世界最古という。採集した帯広市のアマチュア化石研究家井上清和さん（61）にちなみ「イノウエタテヒダシヤクシ」（学名ミオネラ・イノウエイ）と命名した。（岩瀬貴弘）

井上さんが2010年11月、同地区で採集した石灰質の塊から化石が見つかり、天野教授らが調査した。化石は最大幅8・8ミリ。深海に生息する現在のタテヒダシヤクシには縦のしわが2本あるが、発見された化石は1本で、新種とみている。これまでタテヒダシ



ヤクシの化石は富山県で見つかった約1700万年前

浦幌町内で発見された化石「イノウエタテヒダシヤクシ」（上越教育大の天野特任教授提供）

のものが世界最古だった。6千万年前の川流布地区の地層は、水深200〜500メートルの深海の底だったとみられ、天野教授は「タテヒダシヤクシを含むシヤクシガイ科一枚貝は、ロシアの研究者が深海を起源としている。今回の発見はそれを証明することになる」と話している。

研究論文は4月発行の米専門誌「ノーチャス」で発表した。

「北海道新聞」 2020年5月9日

北海道 HOKKAIDO

ニュースや話題は

北海道報道部 011・231・3085
FAX 011・222・1049

問い合わせ

広告 は 北海道営業部 011・281・5364

主催事業 事業グループ 011・281・5252

購読 は 販売部

フリーダイヤル 0120・468・012

Eメール

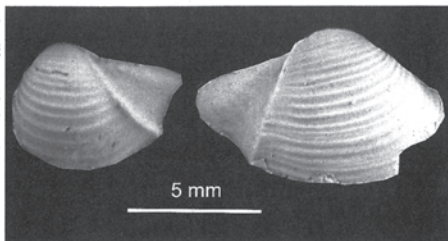
h.houdou@mainichi.co.jp

ホームページ

http://mainichi.jp/hokkaido/

タテヒダシヤクシガイ属 世界最古の化石

浦幌町で発見されたタテヒダシヤクシガイ属の新種の化石
〓天野和孝特任教授提供



浦幌町にある約6000万年前の新生代の地層から、深海性の二枚貝・タテヒダシヤクシガイ属の新種

浦幌で一枚貝新種発見

帯広のアマチュア収集家 井上清和さん



新種と分かった化石の発見状況などを説明する井上さん＝浦幌町で

が、新種には一本しかないのが特徴だという。井上さんは30年前から会社勤めの傍ら、十勝地方で化石収集を続けてきた。2010年11月、浦幌町北部の浦幌川支流沿いで、表面に貝の化石が浮き出た石灰質の塊を発見。割ると貝類が密集して入っていたため、旧知の天野教授に調査を託していた。

発見現場の川流布地区の近くの地層からは、過去にも世界最古の貝類が5種類見つかったっており、井上さんは何度も足を運んでいたという。8日に町立博物館で記者会見した井上さんは「最古の化石と聞いて驚いた。特に和名に自分の名前が付いたことがうれしい」と笑顔で話した。

【鈴木 亨】

が発見された。採集したのが帯広市のアマチュア化石収集家、井上清和さん(61)で、学名は「ミオネラ・イクシガイ属」として世界最古

が発見された。採集したのが帯広市のアマチュア化石収集家、井上清和さん(61)で、学名は「ミオネラ・イクシガイ属」として世界最古

の化石だという。

新種と鑑定したのは、上越教育大の天野和孝特任教授(古生物学)。

新潟大の栗田裕司准教授(同)らと調査を進め、4月に米国の貝類学雑誌「フーチャス」に論文発表した。

天野教授によると、タテヒダシヤクシガイ属の化石は世界的に少なく、1959年に発表された富山県産の約1700万年前の化石が最も古いとされてきた。今回の新種はこれを約4300万年もさかのぼる記録になり、天野教授は「深海生物の起源や進化を考える上で重要な画期的発見だ」と評価する。

が、新種には一本しかないのが特徴だという。井上さんは30年前から会社勤めの傍ら、十勝地方で化石収集を続けてきた。2010年11月、浦幌町北部の浦幌川支流沿いで、表面に貝の化石が浮き出た石灰質の塊を発見。割ると貝類が密集して入っていたため、旧知の天野教授に調査を託していた。

「毎日新聞」 2020年5月10日

発掘は終わりに探求

最古の二枚貝名に「驚き」

浦幌町川流布（カワルツ）地区にある約6000万年前の地層「浦幌層」で2010年に発見された二枚貝の化石は、世界最古のタテヒシヤクシガイ属の新種と判明した。学名「ミオネラ・イノウエ」(和名はイノウエタテヒシヤクシ)は、発見者である浦幌町の地質学者、発見した浦幌町の地質学者の井上清和さん(61)に発見の経緯や化石研究の魅力を伝えている。(文・写真、内形勝也)

たうんのトウ

「化石研究を始めたら、小学1年生のころ、酪農をしていて実家が牛舎新築のため敷地内に運び込んだ砂利の中に化石を発見。夢中になったことが始まりです。20歳の時に十勝でアンモナイトを見つけたという思いが膨らみ、独学で研究を始めました。研究はどのように行っているのか。」

「化石研究を始めたら、小学1年生のころ、酪農をしていて実家が牛舎新築のため敷地内に運び込んだ砂利の中に化石を発見。夢中になったことが始まりです。20歳の時に十勝でアンモナイトを見つけたという思いが膨らみ、独学で研究を始めました。研究はどのように行っているのか。」

「化石研究を始めたら、小学1年生のころ、酪農をしていて実家が牛舎新築のため敷地内に運び込んだ砂利の中に化石を発見。夢中になったことが始まりです。20歳の時に十勝でアンモナイトを見つけたという思いが膨らみ、独学で研究を始めました。研究はどのように行っているのか。」

「化石研究を始めたら、小学1年生のころ、酪農をしていて実家が牛舎新築のため敷地内に運び込んだ砂利の中に化石を発見。夢中になったことが始まりです。20歳の時に十勝でアンモナイトを見つけたという思いが膨らみ、独学で研究を始めました。研究はどのように行っているのか。」

「化石研究を始めたら、小学1年生のころ、酪農をしていて実家が牛舎新築のため敷地内に運び込んだ砂利の中に化石を発見。夢中になったことが始まりです。20歳の時に十勝でアンモナイトを見つけたという思いが膨らみ、独学で研究を始めました。研究はどのように行っているのか。」

化石研究家

井上清和さん

いのうえ・きよかず 1958年生まれ。釧路管内厚岸町出身。清水高校卒業後に陸上自衛隊に入隊。除隊して帯広市内の「大和写真館」(今年閉店)に入社。帯広市に住み、仕事の傍ら独学で化石研究を始め、「十勝の自然史研究会」に入会。絶滅した鱈脚類(ききやくるい)の新種化石や新属新種のヒゲクジラ化石などを発見した。



「化石研究は終わりに探求」と語る井上さん

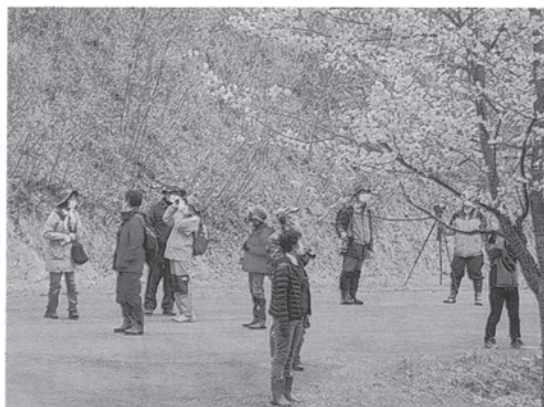
い、複数の研究者から聞いた。すべて英語の論文を辞書を片手に読んでみたら、3年ほどたつた。帯広市で「十勝の自然史研究会」(藤山武志会長)に入り、1990年代に上越教育大学(新潟県)の天野和孝教授(現同大特任教授)と知り合いました。程なく浦幌町内で絶滅した鱈脚類(ききやくるい)のアンモナイトの新種化石や、大樹町厚岸川で絶滅したタテヒシヤクシの新種化石「ミオネラ・イノウエ」を発見するまで、3000件ほどの化石を発見しました。

「十勝毎日新聞」 2020年5月17日

カワセミやクマゲラ発見

野鳥観察会

【浦幌】移動博物館「青



い鳥観察会」(町立博物館主催)が10日、うらほろ森林公園(町東山)で開かれた。

町内外から10人が参加。

町内の野鳥愛好家春日基江さんの案内でさえずりを頼りに、青色に輝くオオルリの姿を探した。

この日はオオルリを確認することはできなかった。代わりにコバルトブルーが美しいカワセミや、全身が黒いクマゲラが姿を見せた。この他に、メジロやハクセキレイなど計23種類の野鳥が観察できた。

初めて参加した帯広市の50代女性は「いろいろな鳥を見ることができて、新鮮で楽しかった」と喜んでいました。

(田子紳一 通信員)

散策路で「オオルリ」を探す参加者

「十勝毎日新聞」 2020年5月18日

**博物館と図書館
利用者限定再開**

【浦幌】町立博物館と図書館は、16日から利用を再開した。博物館の団体利用は十勝管内の団体のみで、

両館とも入館時にはマスクの着用と手指の消毒を行う。最低1メートルの距離を保つことや座席の制限などのソーシャルディスタンス（他者との距離）の確保にも協力を求めている。

博物館では、常設展示室内に受付が設置され、来館



博物館の常設展示室内に設置された受付

図書館も十勝管内在住者に利用を限定としている。入館時の新型コロナウイルス感染症防止への協力を呼び掛けている。

両館は4月20日から閉館していた。開館は道の休業要請の解除（石狩管外の1000平方メートル以下の博物館、図書館など）に基づいた対応で、両館とも入館時にはマスクの着用と手指の消毒を行う。最低1メートルの距離を保つことや座席の制限などのソーシャルディスタンス（他者との距離）の確保にも協力を求めている。

博物館では、常設展示室内に受付が設置され、来館

図書館では、サービスカウンターで来館者記録表に記入が必要。今月末まで視聴覚コーナーの利用を禁止し、閲覧コーナーとお話しの利用時間を30分に制限している。

両館とも緊急事態宣言が解除されてから通常利用となる見込み。同博物館の持田誠学芸員は「新型コロナウイルス感染拡大防止のために理解と協力をお願いする」と話している。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年5月23日



ニホンザリガニ

【浦幌】町立博物館で飼育するニホンザリガニの雄が冬眠することなく春を迎えた。昨年11月5日に町内で町民が捕獲し、同館に持ち込んだ。同館では、水槽（幅35センチ、奥行き20センチ、高さ25センチ）に捕獲地点の砂利と小石と湧水を入れて飼育。餌は山林の落ち葉を与えている。5月19日の計測では全長が51・7センチ、捕獲時の46・6センチから5・1センチ成長した。写真。同種は越冬すること知られているが、飼育環境が適していたようで観察する

浦幌町立博物館で越冬 冬眠なしで

ニホンザリガニ 本種は北海道全域と東北地方北部（青森県全域、秋田・岩手県の北部）だけに分布する日本固有種。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危機が増大している種）にランクされている。アイヌ語名は「テクンベコル・カムイ」（手袋を持っている神）、「ホロカレイエツ」(後ずさり・する・もの)。

るたびに動き回っているのが確認されていた。落ち葉を食べる様子も観察されている。町内での生息地は数カ所しか確認されていない。同館の持田誠学芸員は「町内全域の生息実態調査がこれからの課題」と情報提供を呼び掛けている。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年5月25日

語り継ぐ『コロナな世相』

町立博物館

【浦幌】新型コロナウイルスが流行した影響で変化した「今」の暮らしや地域の記録を伝える町立博物館の小企画展『コロナな世相』を語り継ぐことが、同館ロビーで開かれていた。展示は展示資料を入れ替えながら来春まで行つた。

新型コロナウイルスに関する展示資料を見る来館者たち



浦幌 変化した「今」の暮らし 展示で



今春開催予定の第92回選抜高校野球大会（阪神甲子園球場）が中止になったが、21世紀枠の出場が決まっていた浦幌農業高校野球部の協賛会が大会出場募金の返礼品として支援者に贈った大会公式タオルが展示されている。

タオルには十勝から出場が決まっていた浦幌と白樺学園など全出場校名が記されている。寄贈したのは町内の知人の子どものが浦幌野球部にいることから募金をした高山さんは「大会の中止は残念だが、これからの頑張りがほしい」と選手たちにエールを送った。

この他、町と町商工会が発行した飲食店を応援するクーポン券、町が全戸配布した使い捨てマスク、第44回浦幌女性・あいフェスティ（町女性団体連絡協議会

中止や商店のチラシ広告自粛のお知らせなど約20点が展示されている。同館の特田誠学芸員は「休校中の自宅学習や暮らしを表す資料などを提供してもらいたい」と呼び掛けている。（田子紳 通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年5月27日

モノで残す「コロナな世相」



「がんばる北海道」と大書されたスーパーの新聞折り込み広告や、飲食店のテイクアウト利用をすすめるチラシなど

博物館・図書館・大学で

新型コロナウイルスの感染拡大による未曾有の体験を後世に残そうと、各地の博物館や図書館がアーカイブづくりに乗り出した。飲食店のテイクアウトのチラシや、住民手作りのマスクなどの関連資料を幅広く集める。のちに、コロナ禍で私たちの暮らしに何が起こっていたのかを、きちんととどめるようにするためだ。

「がんばる北海道」と記されたタイムセールの自販機を伝えるスーパーの新聞折り込み広告や、地元商工会などが「食べて応援しよう」とテイクアウト可能な飲食店を紹介したチラシ。10種類以上の住民お手製マスク。

北海道の浦幌町立博物館は、2月末に北海道独自の「緊急事態宣言」が出された頃から、新型コロナウイルスに関する資料の収集を始めた。学芸員やボランティアを中心に町民にも呼びかけ、約100点が集まった。学芸員の持田誠さんによれば、「コロナな世相」を語り継ぐため、地域の空気感を伝える資料を集めて記録することが博物館の役割だ。

飲食店チラシ・手作りマスク「未来の知恵に」

千葉県の柏市立図書館はチラシなどに加え、使用禁止になった公園の遊具などの写真も撮影し集めている。担当者は「図書館にも地域の記録を残す役割がある。東日本大震災後、市内で放射線量が低い地域があったという記録を十分に収集できなかった反省もあり、幅広く集めたい」と話す。

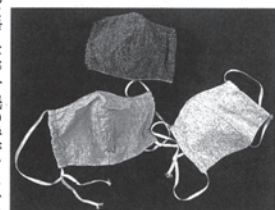
日々の記憶も収集

千葉県の柏市立図書館はチラシなどに加え、使用禁止になった公園の遊具などの写真も撮影し集めている。担当者は「図書館にも地域の記録を残す役割がある。東日本大震災後、市内で放射線量が低い地域があったという記録を十分に収集できなかった反省もあり、幅広く集めたい」と話す。

不快な思い出も...

渡邊英徳・東京大学大学院教授（情報デザイン）は「博物館や図書館などには過去の人の生き様や経験を蓄積し、未来を生きる人がその知恵を役立てられるように活用する役割がある。今回も不快な思い出を含め、身の回りで起きたことをリアルタイムで記録し、声の大きい人たちのストーリーになったり事実が歪曲されたりしないよう、市民側から作ることが重要だ」と話す。

（丸山ひかり 編集委員・宮沢栄一）



町民のお手製の布マスク（いずれも北海道浦幌町立博物館提供）

「朝日新聞」 2020年5月28日

激変の日常 後世に

新型コロナウイルスの感染拡大で激変した日常を後世に伝えようと、北海道浦幌町の町立博物館が行事の中止を告知するチラシや手作りマスクなど、身近に残る資料の収集を開始。20日からは集まった資料を展示する企画展「『コロナな世相』を語り継ごう」も開いている。企画した学芸員の持田誠さん(47)は「数十年後に振り返る時、役に立つ資料を集めるのは地域の博物館の役割」と話す。

浦幌町立博物館

新型コロナ

緊急事態宣言の解除など状況が刻々と変わる中、資料となる物品の廃棄が進む恐れがあり、同館は「渦中の時から取り組む必要がある」と収集に着手。集まった資料は町内の女性団体の事業中止や国会

議員の国政報告会の取りやめ、スーパーのチラシ配布自粛などを知らせる紙、手作り布マスク、マスクの作り方の解説書など多岐にわたる。中止になった第92回選抜高校野球大会に出場予定だった地元・十勝地方の高校の支援団体が関係者に配った記念のタオルなどもある。同館は収集状況に応じて展示スペース

身近な資料 収集・展示



の拡大も検討する。また、感染が拡大する地域

北海道浦幌町立博物館に展示された手作りの布マスク。作り方の解説書も貴重な資料だ。中止になったセンバツの記念タオルも「コロナの世相を伝える資料の一つ」といっても北海道浦幌町で21日

からの来訪を拒んだり、営業自粛などに目を光らせる「自粛警察」の動きや、医療従事者への差別に関する証言にも着目。「差別は収集しにくい面もあるが、『私が受けたコロナ差別』といった体験談

を積極的に集め、展示などで実態を訴えていく必要も感じる」としている。

「コロナ禍で誕生した新しい文化」と手作りマスクに特化した企画展も計画中。持田さんは「コロナは在宅ワークや遠隔授業など、地域社会の姿や生活風俗を大きく変化した。資料で今の暮らしを記録し、後世に伝えたい」と意欲を見せた。

社会学者の岸政彦・立命館大教授は「一時の権力者や専門家が残す『公式の』記録と違い、一般の市民たちの日常的な生活体験は放っておけばすぐに消えてしまう。その意味でも、今回のパンデミック(世界的大流行)という歴史的事件に関して、一見すると歴史的資料の価値がないような身近なチラシやポスターなどの資料を集める試みは、実は大変に価値のあるものだ」と評価した。【鈴木育、写真も】

社説

後世に伝える責務果たしたい

100年に1度といわれる新型コロナウイルスの流行で国民全体が手探りの取り組みを重ねている。後世の検証に役立ち、教訓となるよう記録を幅広く残していきたい。

コロナ禍の記録

国立国会図書館は、新型コロナウイルスに関連のインターネット資料を重点的に収集し、公開している。国内1例目の患者発生を伝える1月16日の厚生労働省の報道資料も含まれる。

資料には、「持続的なヒトからヒトへの感染の明らかな証拠はありません」と記されている。当時はまだ、ウイルスに関する情報が少なく、感染拡大の危険への認識が薄かったことがうかがえる。コロナの影響は地域によって異

なる。全国の図書館や博物館が連携し、各館の資料を集約して保存する枠組みを検討すべきだ。2011年の東日本大震災で、国会図書館と総務省が、国全体として記録を収集・保存するサイトを構築した例が参考となる。

コロナは国民生活に大きな変化をもたらした。外出自粛やテレワーク、オンライン授業が広がった。外出する人や営業を続ける店舗をパッシングする「自粛警察」や、感染者、医療従事者、その家族への差別も問題化した。こうした出来事の記録は、コロナ禍での社会の様子を次世代に伝える上で意義が大きい。

関西大学は、学生や教職員の投稿を募り、立ち入りが制限された大学構内や規模が縮小された卒業

式の写真などを公開している。北海道の浦幌町立博物館は、「負の側面」も残そうと、差別や嫌がらせに関する資料を収集する。意欲的な試みを広げたい。

政府がウイルス対策を決定した過程を検証可能な形で記録する。その重要性は言うまでもない。ウイルス対策を助言する政府の専門家会議の議事録が作成されているに、批判が高まり、政府は作成する方針に転じた。行政文書の管理指針では、専門家会議は、政策を決定・了解する

会議とはみなされず、議事録の作成を義務づけられていない。だが、「相談・受診の目安」や「新しい生活様式の実践例」など、会議の議論が政府の政策に大きな影響を与えたのは明らかだ。

尾身茂副座長は、「どんな考えで政府に提言したかを説明するのが私たちの責任」と述べ、情報公開の意義を強調している。

政府が感染症対策を円滑に進めるには、国民の信頼が欠かせない。政策決定過程の透明性を高めることは、その前提である。

「読書新聞」

2020年6月8日

15年前に浦幌の浜辺に…正体は？



2005年8月に町十勝太の浜辺で捕獲、撮影したオキナガレガニ(土本さん提供)

土本さんが発見



土本伸重さん

土本さんは「大きくなったらどんなカニになるのかとずっと気になっていた」と話し、長年の謎が解けたことを喜んでいる。(田子紳一通信員)

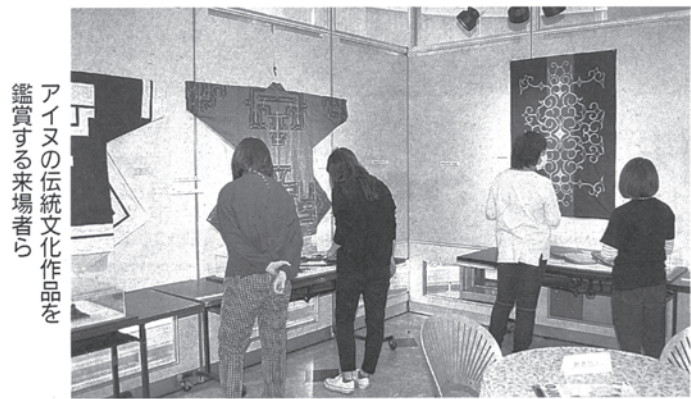
土本さんは、2005年8月9日に、妻と夏休み中の娘(当時中学生)との3人で町十勝太の海岸を散歩した。その時に浜辺に漂着していたヒールに付着していた小さなカニを発見した。土本さんが持ち帰って小さな水槽に入れて飼育を考えたが、「あまりにも小さくてかわいそう」になり、翌日に個体を写真撮影して海に帰した。それ以来ずっと捕まえた小さなカニの正体が気になっていたという。

昨年10月、土本さんは意を決して撮影したカニの画像を同館に持ち込んだ。同館は、月9日に、妻と夏休み中の娘(当時中学生)との3人で町十勝太の海岸を散歩した。その時に浜辺に漂着していたヒールに付着していた小さなカニを発見した。土本さんが持ち帰って小さな水槽に入れて飼育を考えたが、「あまりにも小さくてかわいそう」になり、翌日に個体を写真撮影して海に帰した。それ以来ずっと捕まえた小さなカニの正体が気になっていたという。

昨年10月、土本さんは意を決して撮影したカニの画像を同館に持ち込んだ。同館は、月9日に、妻と夏休み中の娘(当時中学生)との3人で町十勝太の海岸を散歩した。その時に浜辺に漂着していたヒールに付着していた小さなカニを発見した。土本さんが持ち帰って小さな水槽に入れて飼育を考えたが、「あまりにも小さくてかわいそう」になり、翌日に個体を写真撮影して海に帰した。それ以来ずっと捕まえた小さなカニの正体が気になっていたという。

十勝で珍しい「オキナガレガニ」

「十勝毎日新聞」 2020年6月1日



アイヌの伝統文化作品を鑑賞する来場者ら

アイヌ伝統文様 細やかに

浦幌 着物やタペストリー作品展

【浦幌】アイヌ伝統文化作品展（浦幌アイヌ協会、町立博物館共催）が3日から、同館特別展示ホールで開かれている。7月5日まで。

同協会（長根弘喜会長）は、アイヌの伝統文化や技法を継承しようと数年前から製作活動に取り組んでいる。

アイヌ民族文化財団アドバイザーの廣川和子さん（音更町）を講師に招いて同協会員ら5人がつくったチカルカルペ（着物）やタペストリーなど12点と、講師の廣川さんの作品10点、マクンベツアイヌ文化伝承

「十勝毎日新聞」 2020年6月20日

保存会会長で廣川さんの夫の昌嘉さんの木彫り作品8点が並んでいる。

会場を訪れた町内の主婦関口可織さん（31）は、「細かく大変そうだけど、自分

で作ってみたいと思った」と話していた。作品展は、期間中の午前10時～午後5時。休館日は月曜日。入場無料。

（広橋基嗣通信員）



炭鉱の昔と今 写真で伝える

【浦幌】十勝唯一の炭鉱の往時と今の姿を写真で訪ねる「浦幌町歴史探訪『浦幌炭鉱』（NPO法人うらほろスタイルサポート主催）が、複合施設FUTA

校式（1967年）と学びに別れを告げる児童・生徒の姿もある。

今を伝える写真は岡田さんが撮影した32枚。朽ちたアパートや太平坑の坑口、総合病院の基礎などの痕跡を伝えている。3月末に町内に転入した袴田みどりさん（54）は「今も残されている姿を一度は見てみたい」と話していた。

BA（フタバ）で開かれている写真展。30日まで。町立博物館が資料を提供し、町内在住の写真愛好家岡田愛啓さんが協力した。往時の様子を伝える写真は同博物館が所蔵する37枚。炭鉱の街並みや協和会館、2階建てアパートなどのほか、常室小学校炭鉱分校廃校式（1967年）と学びに別れを告げる児童・生徒の姿もある。

今を伝える写真は岡田さんが撮影した32枚。朽ちたアパートや太平坑の坑口、総合病院の基礎などの痕跡を伝えている。3月末に町内に転入した袴田みどりさん（54）は「今も残されている姿を一度は見てみたい」と話していた。

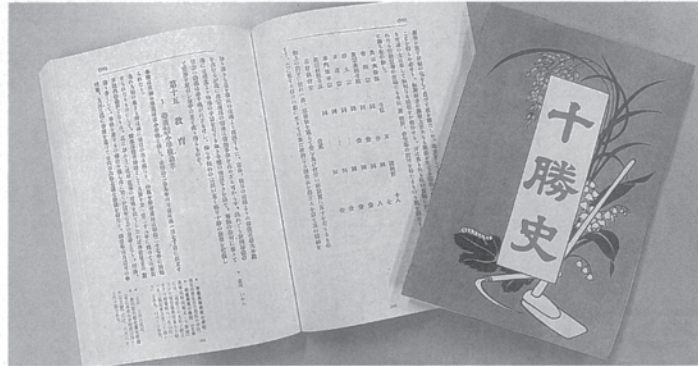
開館時間は午前9時～午後6時。休館日は土・日曜。入場無料。問い合わせは同サポートの中村陸二事務局（090・8371・0110）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年6月19日

明治40年発行 安田巖城「最初の歴史書」

「十勝史」注釈加え復刊



安田巖城（やすだ・がんじょう、1863～1928年）が著した十勝最初の歴史書「十勝史」に校注（注釈）を添えた復刊本「詳解 十勝史」が、ふるさと十勝（佐藤隆則代表）から発行された。地元の歴史だけでなく、当時の有力者たちのルーツを知る手掛かりとしての一冊にもなっている。

広告に有力者ルーツ

佐藤代表によると「十勝史」復刊の構想は8年前からあったが、「残されている原本は表紙のないものや復元に堪えない状態のものがほとんどだった。『作業の5年目で完全な原本が見

注釈を添えて復刊された「詳解 十勝史」

十勝史 1906（明治39）年、河西支庁長上野直温が当時第2課拓殖係だった安田巖城に命じて資料収集執筆させ、翌07（明治40）年に発行された。十勝最初の歴史書として、後の管内各町村史に引用されるなど多くの史料の基になっている。

「十勝史」は、歌人でもあった巖城らの和歌もまとめられ、管内初の歌集としての側面も持ち合わせている。巖城は福岡県出身。兄には「九州日報」（現西日本新聞の前身の一つ）社長兼主筆で衆院議員も務めた福本日南がいた。

校注では、例えば本文中にある「帯廣高等尋常小学校」の表記に対し「現在の帯広市立帯広小学校」とするなど、解説や誤字へのフ

「十勝史」は、四六判に近いサイズだった原本からB5判に拡大。原本をスキャンし、汚れなどを取り除いた内容に、さらに下部に浦幌町立博物館元館長で十勝管内博物館学芸職員等協議会顧問の後藤秀彦さん（73）「帯広」による校注などを追記した。巻末には巖城の年譜も載せた。

「十勝国産業写真帖」「北海立志図録」をそれぞれ復刻しており、第3弾となった今回の「詳解」と合わせて復刻「十勝三部作」としている。（大木祐介）

「十勝毎日新聞」 2020年6月26日

二枚貝の化石新種認定

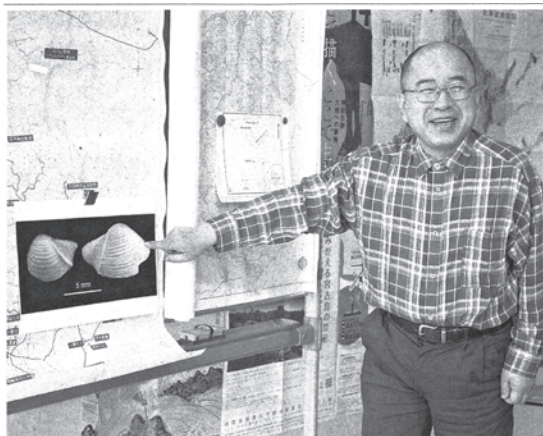
帯広の井上さん 浦幌の地層から発見

帯広市の化石収集家、井上清和さん(61)が2010年に浦幌町内で発見した二枚貝の化石が、深海に生息する世界最古のシヤクシガイ科タテヒダシヤクシガイ属の新種と認定された。

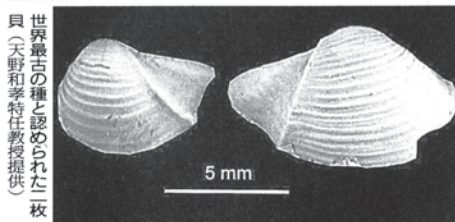
井上さんは30歳の頃から、浦幌町内でアンモナイトを発見しようと化石収集を続けていた。10年11月19日、同町川流布のモカワルツ川支流の地層から、化石の岩塊を見つけた。

共同研究者である上越教育大(新潟県上越市)の天野和孝特任教授(66)(古生物学者)らが、岩塊に含まれる化石の成分から、この二枚貝が新種で約6000万年前の地層にあったことを突き止めた。

貝殻化石は長さ約8・8ミと小型で、同属の二枚貝では縦シワが2本あるのに対し、新種では1本しかないのが特徴だった。同属の化石が発見された地層も、



世界最古の種と認められ、笑顔の井上さん(浦幌町立博物館で)



世界最古の種と認められた二枚貝(天野和孝特任教授提供)

富山県内で見つかった約1700万年前がこれまでの最古だった。

今回の発見を受けて、5月に町立博物館で行われた記者会見で、井上さんは最初の10年間は何も見つからなかったが、30年探してきて初めて自分の名前がついたとほほえんだ。

論文をまとめた天野特任教授は「シヤクシガイ科の二枚貝は深海域で生まれたと推定されていたが、今回の発見で深海に生息していたことがわかった」と話している。

化石は茨城県つくば市にある国立科学博物館の施設に所蔵される。

「読売新聞」 2020年6月27日

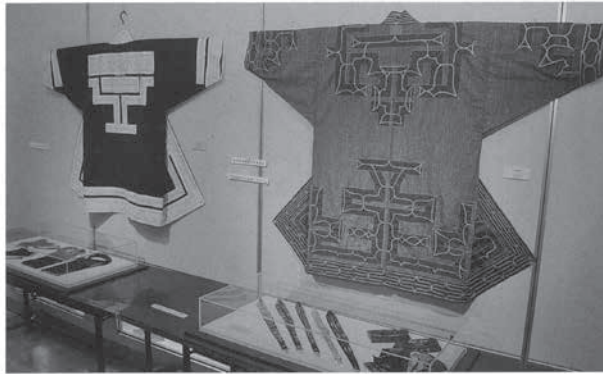
アイヌ文様 身近な品にも 浦幌

浦幌アイヌ協会の会員や刺しゅう講座の受講生による「アイヌ伝統文化作品展」が5日まで、浦幌町立博物館で開かれている。アイヌ文様を施した刺しゅうや木彫りなどの工芸品約30点が並ぶ写真。

例年はゴールデンウィーク前後の展示だが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期されていた。刺しゅうはチカルカ

ルベ(着物)やマタンブシ(鉢巻き)といった伝統的な作品のほか、ストラップやカードケース、トートバッグといった身近な小物もある。「今の生活にアイヌ文化を取り入れられるよう作られています」と同館の持田誠学芸員。

木彫りはイタ(盆)や皿のほか、羽子板も。今は丸木舟を作っているという。(小久保友香)



「北海道新聞」 2020年7月3日

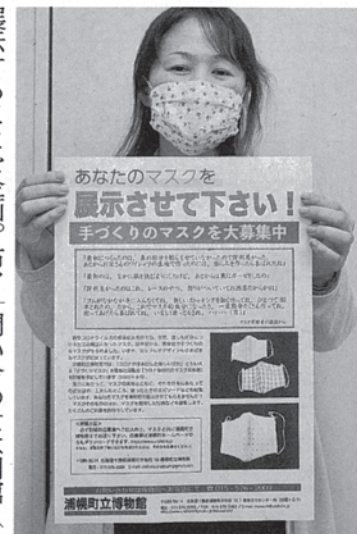
手作りマスク 展示させて

8月に展覧会

【浦幌】あなたのマスクを展示させてください。町立博物館は、8月に予定する展覧会「コロナな時代のマスク美術館」に展示する手作りの布マスクを募集している。同館の持田誠学芸員は「カラフルでデザインもさまざまなマスクを広く紹介したい」と話している。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、マスクは生活必需品に。品薄になった不織布マスクに代わり、各家庭や事業所などで布を使って手作りするようになり、いろいろなデザインのものが出回るようになった。

同館は「コロナが生み出した新しい文化」として、手作りの布マスクを一堂に



手作り布マスクの提供を呼び掛けるポスター

展示することを企画。布マスクの実物とともに、作製の苦労話や工夫した点、使用した際のエピソード、着用した写真なども広く募集している。

持田学芸員は「開催中の小企画展『コロナな世相を語り継ごう』（来春まで）と同時開催したい」と話している。

布マスクの送り先は、〒089-5614 浦幌町字桜町16、浦幌町立博物館。



「十勝毎日新聞」 2020年7月5日

問い合わせは同館（015・576・2009）へ。
（内形勝也）

博物館や大学などが、新型コロナウイルスの影響で中止となったイベントの告知文や手作りマスクなど関連資料を収集している。コロナ禍で大きく変わった日常生活を後世に伝える狙いだ。専門家は「チラシなどはすぐに捨てられてしまう可能性があり収集を急ぐべきだ」と提案している。

マスク進化

北海道の浦幌町立博物館は、感染拡大後に配られたチラシなど約130点を集めた企画展「『コロナな世相』を語り継ごう」を開催している。道が独自の緊急事態宣言を出した2月28日に収集を始めた。

タイムセールの自粛を伝えるスーパーマーケットのチラシ、祭典の中止や施設閉鎖の告知文、政府が配ったマスク、手作りのマスクとその作り方を記した文書など多岐にわたる。例えば手作りマスクは当初口を覆うだけだったが、使いやすいうちに次第に立体的になり、柄物も登場した。

「抑圧された世の中の空

チラシが語るコロナ

身の回りの品 歴史資料に



①収集した新型コロナウイルスの資料を紹介する小畑芸員（10日、山梨県立博物館で）②北海道浦幌町立博物館の企画展で展示されているマスク。形や色の変化などから世相を読み解くことができる



写真

関西大は4月中旬、ウェブサイト「コロナアーカイブ@関西大学」を開設。学生や職員らに身近な生活を撮影した写真などの投稿を呼びかけている。入学式が中止され、閑散としたキャンパスなどの写真が寄せられた。企画した同大東西学術研究所の菊池信彦特任准教授は「個人の生活や日常の記録など残りにくいものを残すのが目的。様々な研究の貴重な資料になる」と語る。

早稲田大演劇博物館も6月中旬から、中止・延期された舞台に関する資料の提供を呼びかけている。チラシやポスター、台本など幅広く収集したいという。

桜美林大の浜田弘明教授（博物館学）は「量産品やチラシなどは、多くの人が歴史的な価値があるとは思わず、どこか家庭にもあるため、捨てられて残らないことがある。資料や記憶がなくなってしまううちに、早く集めておくべきだ」とアドバイスしている。

気を打開し、明るく乗り切ろうとする人々の気持ちの変化に気づかされる」と持田誠学芸員（47）。今後、他の博物館とも連携して資料の収集を続け、大型企画展を開きたいという。

100年後へ

山梨県立博物館が収集した資料は、飲食店などのテイクアウトのチラシ、学芸員宛てに届いた研究会中止を伝えるはがき、運行本数

博物館・大学が収集

が減ったJRの時刻表、電機メーカー「シャープ」が作ったマスクなど今月上旬までで約200点に上る。江戸時代末期のコレラの流行を予言したとされ、館所蔵の文献に描かれた二つの頭を持つ不思議な鳥「ヨゲンノトリ」の関連商品に加え、新型コロナウイルスの感染防止のため同館入り口で行っている検温の様子などを収めた写真もある。

日本近現代史が専門の小後、展示も検討する。収集品は今



「浦幌炭鉱」学習
模型や用具に驚き
浦幌小

【浦幌】浦幌小学校（横山利幸校長）の3年生30人が6月26日、十勝で唯一の炭鉱だった「浦幌炭鉱」（町炭山）の歴史や人々の暮らしの一端を学んだ。
社会科の授業の一環で、町立博物館の持田誠学芸員が講師を務めた。
浦幌炭鉱は釧路炭田の一つとして1918年に開発され、54年に閉山したことや、採掘した石炭は電車でトンネルを通って隣の尺別炭鉱に運ばれたこと、最

盛期には3600人が生活していたことを学んだ。
持田学芸員は、昔の炭住街や山神社、今も残る病院の跡などを写真で紹介。24時間いつでも入浴できた「共同浴場」がいくつもあったなどと説明。児童らは、炭山地区に住んでいた人が記憶を頼りに作った「旧協

和会館」の模型や、坑内で使っていたヘルメットと手ヤップライトなどに触れ、驚きの声を上げていた。
炭山のことを知らなかった谷川こはるさん（8）は「お風呂に立って入っていたなど、いろいろ分かって楽しかった」と話していた。
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」
2020年7月14日

あ・ん

編集委員 新開 真理



「残す」ことの力

新型コロナウイルスの感染拡大以降、見慣れた光景の中に、見たことのないシーンが交じり合う。レジ前のビニールガード、多種多様なマスク。この日々を「残す」取り組みが大阪府吹田市の関西大学で進む。
ウェブ上に4月中旬、「コロナアーカイブ@関西大学」を開設。学生や教職員らに投稿を募り、公開している。アーカイブとは、公共性が高く歴史的に重要なことになり得る記録や資料を保存する施設、活動のことだ。
同大アジア・オープン・リサーチセンター特別任用准教授の菊池信彦さん（40）が、欧米諸国でコロナ禍を巡る市民参加型のアーカイブが相次ぎ生まれていることを知り、提案した。見てみると、講義動画の撮影風景、「使用禁止」と張り紙された椅子が並ぶ教室などのほか、卒業式の中止に伴う加工用画像（正門での記念写真が作成できる）もあった。
国会図書館司書を経て歴史研究者となった菊池さんは、庶民生活の記録は残りにくいことを実感してきたという。国内の先行例があれば、続く大学や自治体、図書館も出てくるのでは、との思いもあった。「歴史的な転換点を捉え、（庶民の日常という）見えにくいものが見える、ユニークな資料庫になる可能性がある」と話し、広がりを目指す。
記憶を伝える「物」を保管する動きもある。北海道の浦幌町立博物館は、飲食店のチラシや、地元在住を示して嫌がらせを防ぐステッカーなどを収集。早稲田大学演劇博物館は中止や延期になった公演のポスターやプログラム、台本を集めている。
阪神・淡路大震災や東日本大震災では、多様な資料が保存され、次世代が往時を知る手がかりとなっている。公文書が改ざんされ、重要な会合の議事録を作ろうとしない国で、「残す」ことは一つの力になる。という菊池さんの言葉にうなずく。

「神戸新聞」 2020年7月12日

コロナ禍チラシに世相

浦幌で企画展 貴重な歴史資料に

博物館・大学 全国で収集

浦幌町立博物館など全国の博物館や大学が、新型コロナウイルスの影響で中止となったイベントの告知文や手作りマスクなど関連資料を収集している。コロナ禍で大きく変わった日常生活を後世に伝える狙いだ。専門家は「チラシなどはすぐに捨てられてしまう可能性があるため収集を急ぐべきだ」と提案している。

浦幌町立博物館は、感染拡大後に配られたチラシなど約130点を集めた企画展「『コロナな世相』を語り継ごう」を開催している。道が独自の緊急事態宣言を出した7月28日頃に収集を始めた。

チラシ、祭典の中止や施設閉鎖の告知文、政府が配ったマスク、手作りのマスクとその作り方を記した文書など多岐にわたる。例えば手作りマスクは当初

資料からコロナ禍の世相を読み解くことができる浦幌町立博物館の企画展



口を覆うだけだったが、使いやすいうちに次第に立体的になり、柄物も登場した。

「抑圧された世の中の空気を打開し、明るく乗り切ろうとする人々の気持ちの変化に気づかされる」と語る。

田誠学芸員(47)。今後、他の博物館とも連携して資料の収集を続け、大型企画展を開きたいという。

全国でもチラシなどを貴重な歴史資料として収集する動きが広がっており、山梨県立博物館では、飲食店などのテイクアウトのチラシ、運本数が減ったJR

の時刻表などが今月上旬までに約200点集まった。関西大は4月中旬、ウエブサイト「コロナアーカイブ@関西大学」を開設し、身近な生活を撮影した写真などの投稿を呼びかけている。

桜美林大の浜田弘明教授(博物館学)は「量産品やチラシなどは、多くの人が歴史的な価値があるとは思わず、捨てられて残らないことがある。資料や記憶がなくなってしまう前に、早く集めておくべきだ」とアドバイスしている。

「読賣新聞」
2020年7月15日

豊北海岸の植物 花の時期に遅れ

博物館調査会

【浦幌・豊頃】浦幌町立博物館の月例調査観察会「豊北植物調査会」が4日、両町に広がる豊北海岸で開かれた。例年は5月上旬から始まるが、今年は新型コロナウイルスの影響で、一般参加者を対象にした開催は初めて。



町内外から9人が参加し、同博物館の持田誠学芸員が案内役を務めた。ハマナスやコケモモ、エゾチドリなど82種類の植物を確認し、つぼみ、花、実までの経過を記録した。

これまで「ソモソモ」類としていたのは北海道レッドリストで希少種の「ホソバナソモソモ」(イネ科)であることが分かった。持田学芸員は「全体的に花の時期が遅れている」と話した。

同調査会は10月までの毎月第1土曜日に同海岸で行う予定。同博物館015・576・2009は参加を呼び掛けている。(田子紳一通信員)

植物を調べ記録する参加者ら

「十勝毎日新聞」 2020年7月17日

アイヌ丸木舟進水 サケ捕獲先住権目指し 浦幌協会

【浦幌】アイヌ民族の先住権に基づいた川でのサケの捕獲を目指し、浦幌アイヌ協会（長根弘喜会長）は19日、町十勝太を流れる浦幌十勝川支流の新川で、自作した丸木舟の進水式を執り行った。同協会は近く道に申請し、年内にも町内の河川でサケの捕獲を行う。同協会のメンバーを中心に8人が新川の護岸に集合。護岸でカムイノミ（神への祈り）をささげた後、

浦幌協会の長根会長（35）、丹野聡副会長（40）、上土幌アイヌ協会の清水勇会長（67）が丸木舟に乗り込み、アイヌ語で舟おろしを意味する進水の儀式「チフサンケ」を執り行った。

長根会長は「ようやくここまでできた。川でのサケの捕獲を目指し、これからも皆で力を合わせて頑張りたい」と話した。

丸木舟は町内で切り出したトドマツ材を使い、長さ

は約5・8メートル。船首や側面にアイヌ文様を施している。アイヌ民族文化財団札幌市に申請し、浦幌協会のメンバーらが上土幌協会の清水会長のアドバイスを受けて製作を進め、14日に完成した。儀式後の19日午後、浦幌町立博物館に運び込まれた。同館では当面の期間、展示する予定。

河川でのサケ捕獲をめぐるのは昨年9月、紋別アイヌ協会（紋別市）の畠山敏



丸木舟を川に浮かべて進水儀式「チフサンケ」を執り行う浦幌アイヌ協会の長根会長（中央）、丹野副会長（右）、上土幌協会の清水会長、浦幌町十勝太の新川、19日午前11時ごろ

会長が「先住民族の権利」を掲げて川でサケを捕獲。道は許可申請がなかったため、水産資源保護法違反などの疑いで告発したが、旭川地裁は6月末に不起訴処分としている。

浦幌協会は川でのサケ捕獲について、先住権に基づいて規制が適用されないことを確認するため、国と道を相手に札幌地裁に提訴する準備を進めている。

（内形勝也）

「十勝毎日新聞」 2020年7月19日

時代を記録する

はがきを少し縦長にした紙片には小さな印字が横に並ぶ。

「愛国社々員之証票」。下に筆書きで持ち主と出身地が残る。明治の改元から17年後の1880年春、民衆の政治参加を求める結社が松本に生まれた。中心となった安曇野市穂高出身の自由民権運動家、25歳の松沢策は国会開設の請願に奔走する。

愛国社には1069人が集まった。若い教師や後に町村の自治を担っていく人材も多かった。同志の証しとなった証票は、松本市文書館に1点だけ現存する。

「ほんの1人の、生きた人間の記録です」。6月20日、同文書館が開いた市民講座。特別講員の小松芳郎さん(70)が若者たちの運動と資料の経緯を語った。証票は、南部の旧神戸村の名主

丸山家に元禄期から伝わる約5千点の古文書に含まれていた。

1970年代、丸山家の子孫が転居した神奈川県藤沢市は文書保存の先駆だった。全てを保管し、98年、松本に文書館が出来て里帰りが決まる。農家の記録が詰まった資料は1点ずつ袋に収まり、目録も整っていたという。

消滅しかねない記録も、受け継ぐ人の思いと、保存し活用する場があれば、歴史に残っていく。



終戦時、政府と軍部は機密書類の一言焼却を命じた。松本市文書館が所蔵する、県を通じての指示書は焼却を逃れた公文書だ。旧今井村役場に地方事務所長から届いた一通の指示書は45年8月

生きた証しを消さない

論説委員

伊藤 隆

2020.7.19

18日付。学校にも伝え、この書面も焼くよう念を押している。89年に始まった松本市史の編さんで、当時室長の小松さんらが旧役場から約1万点の行政文書を集めた。そこに残っていた。

終戦の詔勅がラジオで流れた8月15日から、日本の降伏文書調印まで半月余。機密文書や軍関係の文書は徹底的に焼かれた。その中で命令に従わなかった人がいた。大町市で10年余り前、明治期からの兵事書類つづり200冊余が見つかった。旧社村役場で徴兵事務を執る兵事係の男性がひそかに持ち出していた。

立ち戻ったのは、命令に忠実であること、一人としての良心。戦地に送られていった青年たちの記録は残った。

これに対して、コロナ禍にはどう生き、何を考えたかを市民の目録で記録し、資料として後世に残そうという動きが広がる。情報学の専門家らでつくるデジタルアーカイブ学会の研究会は、メディア報道、発信された情報、組織や地域の出来事などを詳細に記録しようと呼び掛ける。

「当たり前のように政府がデータを抹消する。公権力に個人の歴史が押しつぶされる方向へ進みかねない。まず身近にある真実を記録しておかなければ」。企画した東京大学大学院教授の渡邊英徳さん(45)は強い危機感を抱く。

大阪の吹田市立博物館はチラシや店の張り紙、マスク、写真など700点以上を集め、展示を始めた。北海道の浦幌町立博物館でも同様の取り組みが進む。

歴史的事態の今を残す。日々、文字に落とす立場の一人としない。国民は、共有財産である公の記録がないがしろにされる現実と向き合われている。

ともに考える

残した理由はどれも確認できない。小松さんによると、今井村の記録は通知文書をえり分けた簿冊に託してあった。何らかの意図があったことは読み取れる。

確かなのは、残った記録が長い時間を超えて事実を今につなぎ、歴史をたどる糸口となること。残すことにこそ意味がある。

一昨年、経済産業省は「政治家との折衝で個別の発言まで記録するな」との指示書を職員に配り、この文書の廃棄も求めている。

内閣府は、税金を使って開いた「桜を見る会」の招待者名簿を「法にのっとり適切に廃棄した」と言い逃れる。

政府は、新型コロナウイルス対応を公文書管理上の「歴史的緊急事態」と言いながら重要会議の議事録を残して未来を意欲したい。消えた記録が、またどこかに埋もれている可能性も心に留めながら。

「信濃毎日新聞」 2020年7月19日

炭鉱や空襲 散策し学ぶ

浦幌、本別2町で企画展

【浦幌・本別】浦幌町立博物館の「えんそく博物館」が18日に開かれた。隣り合



本別川鉄橋で解説する浦幌町立博物館の持田学芸員（中央）

で、それぞれの町の歴史を感じるといふユニークな企画で、本別町歴史民俗資料館や浦幌炭鉱跡地などを訪れた。

募集定員は当初、ワゴン車に乗れる8人としていたが、町内外から22人の申し込みがある人気ぶり。55人乗りの町有バスに変更し、新型コロナウイルス感染防止対策をとって実施した。

一行は、同資料館で開かれている企画展「7月15日本別空襲を伝える」戦後75年、あの日を忘れないために」で、ナガサキピースミュージアムで毎年開かれている「忘れないプロジェクト」8月9日11時2分

に「シャッターを切るう」展を見学した。

写真パネルなどを前に、同資料館の田野美紀館長と同資料館友の会の水谷令子さんから当時の悲惨な様子などを聞いた。本別空襲で被災した本別川鉄橋、旧制本別中学校（元本別高校）にある空襲被害者の慰霊碑、軍馬慰霊碑も訪れた。

浦幌炭鉱跡地（浦幌町炭山）では、廃屋となったアパートから、尺別（釧路市）へ向かう電車の鉄橋跡までの約2・5キロを散策。浦幌町立博物館の持田学芸員などの解説を聞き、炭鉱の歴史や朽ち果てた階

「十勝毎日新聞」 2020年7月24日

建てアパート、炭鉱病院跡、山神社などを解説した。炭鉱跡を何度も訪れていたという帯広市から参加していた。（田子紳一通信員）

各地の博物館、マスクなど収集



北海道浦幌町の町立博物館に展示されているマスク — 6月

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した

新型コロナウイルスの日常 後世に

時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200

コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん（54）は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返して起きるが、意外とすぐに忘れられてはいない。展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さん（47）は意気込む。「今後」の時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。大阪府吹田市立博物館では保健所から譲り受けたガウンやフェイスマスク、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん（46）は「何が起きているかを残し、今の時代を知るための将来に提供したい」と語る。

国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパンフレットや台本などの提供を呼び掛ける。

「北海道新聞」 2020年7月27日

コロナ禍の日常 博物館が後世に

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてし

まわないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さん(47)は意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

大阪府吹田市立博物館では保健所から譲り受けたガウンやフェースシールド、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん(46)は「何が起こっていたかを残し、今の時代を知るすべ

を将来に提供したい」と語る。国立国会図書館では、新型コロナ関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパフレット

風化防止へ各地で収集



北海道浦幌町の町立博物館に展示されているマスク＝6月

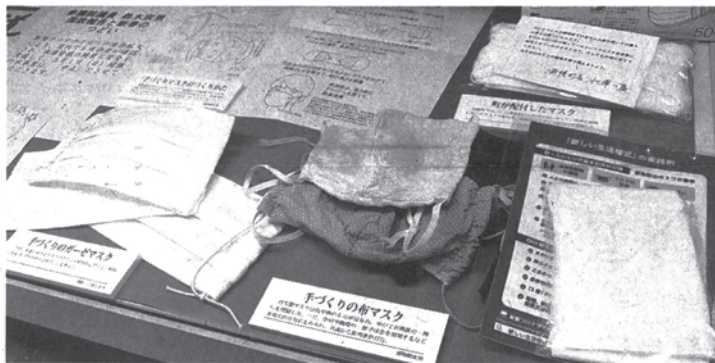
や台本などの提供を呼び掛ける。

コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返し起きるが、意外とすぐに忘れられてはいないか。展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

「北陸中日新聞」 2020年7月27日

新型コロナの日常 後世に 各地の博物館で取り組み

北海道浦幌町の町立博物館に展示されているマスク＝6月



新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さん(47)は意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

大阪府吹田市立博物館では保健所から譲り受けたガウンやフェースシールド、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん(46)は「何が起こっていたかを残し、今の時代を知るすべを将来に提供したい」と語る。

国立国会図書館では、新型コロナ関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパフレットや台本などの提供を呼び掛ける。

コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返し起きるが、意外とすぐに忘れられてはいないか。展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

「信濃毎日新聞」 2020年7月27日

博物館、スペイン風邪を教訓に

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さんは意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。大阪府吹田市立博物館

コロナの日常 後世に

布マスク・行事中止のチラシ...

「日本経済新聞」 2020年7月27日



北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ新型コロナウイルス関連の「資料」を見る人たち（6月）

国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパン

フレットや台本などの提供を呼び掛ける。コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸

課長の森原明広さんは「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントにな

「災害や疫病は繰り返す」と指摘。「災害や疫病は繰り返す」と指摘。「災害や疫病は繰り返す」と指摘。

意外とすぐに忘れられていた。展示や特集

「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントにな

新型コロナウイルスの日常、後世に 博物館、マスクやチラシ収集



新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さん(47)は意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱ったウェブサイトのデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパンフレットや台本などの提供を呼び掛ける。コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は

「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントにな

「伊勢新聞」 2020年7月28日

コロナ禍の日々 証明

新型コロナウイルスを伝える資料がほとんど残っていないことへ、段々の中を伝える「日々の動きが歴史になる。捨てられないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さん(47)は意気込み。今後この時代を呼び掛ける。

浦幌町の町立博物館に並ぶ新型コロナウイルス関連の「資料」を見る人たち＝6月

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活



浦幌町の町立博物館に並ぶ新型コロナウイルス関連の「資料」を見る人たち＝6月

全国で広がる「資料」収集

を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

大阪府吹田市立博物館では保健所から譲り受けたガウンやフェースシールド、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん(46)は「何が起こっていたかを残し、今の時代を知るすべを将来に提供したい」と語る。

国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大学演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパンフレットや台本などの提供を呼び掛ける。

コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返し起きるが、意外とすぐに忘れられてはいないが、展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

「毎日新聞」 2020年7月28日

コロナの日常 後世に

全国の博物館 マスクやチラシ収集



北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ新型コロナウイルス関連の「資料」を見る人たち＝6月

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館では保健所から譲り受けたガウンやフェースシールド、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん(46)は「何が起こっていたかを残し、今の時代を知るすべを将来に提供したい」と語る。

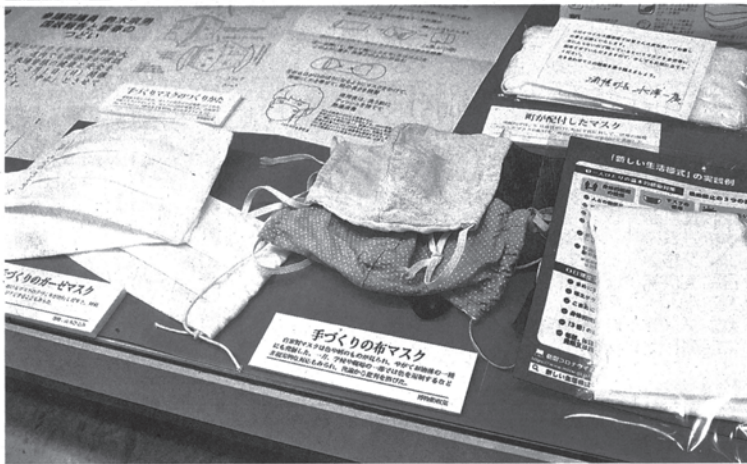
国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大学演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパンフレットや台本などの提供を呼び掛ける。

コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返し起きるが、意外とすぐに忘れられてはいないが、展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

「四国新聞」 2020年7月28日



コロナの記録 後世へ伝える 各地の博物館動き



㊤北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ新型コロナウイルス関連の「資料」を見る人たち
㊦浦幌町立博物館に展示されているマスク

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク

。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないうちにできるだけ多く集めたい」と学芸員の持田誠さん(47)は意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

大阪府吹田市立博物館では保健所から譲り受けたカウンやフェースシールド、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん(46)は「何が起ったかを残し、今の時代を知るべきを将来に提供したい」と語る。

国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパンフレットや台本などの提供を呼び掛ける。

コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返しが、意外とすぐに忘れられてはいないか。展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

「中国新聞」 2020年7月29日

コロナの日常伝え残す 全国の博物館で取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン券、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住

マスクやチラシ、クーポン券など…

スペイン風邪資料不足 教訓に



北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ新型コロナウイルス関連の「資料」を見る人たち 6月

民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないうちにできるだけ多く集めたい」と

大阪府吹田市立博物館では

学芸員の持田誠さん(47)は意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

「何が起っていたかを残し、今の時代を知るすべを将来に提供したい」と語る。



北海道浦幌町の町立博物館に展示されているマスク 6月

「京都新聞」 2020年7月30日

ウチダザリガニ 最多146匹捕獲

チリソースで試食

【浦幌】浦幌の自然を愛する会（堀川真一（会長）と浦幌町立博物館の共催による「ウチダザリガニ バスターズ」が26日、町内の浦幌川支流オベトン川で行われた。

町内の幼児1人と小学生3人、大人5人、同会のメンバー計14人が参加。環



ウチダザリガニを捕獲する参加者ら

境省が特定外来生物に指定するウチダザリガニの生態を学び、捕獲作業を体験した。今年で4回目。

一行は、同館の持田誠学芸員から生態を学んだ後、たも網を使って過去最多となるウチダザリガニ146匹を捕獲した。特定外来生物は他の場所への放流が禁止されているため、塩ゆでと空揚げ、チリソースを使

ったエビチリ風の「ザリチリ」にして試食した。両親と3人で参加した浦幌小1年の安田愛莉さん（6）は「手でつかむことができて楽しかった」と笑顔を見せ、上浦幌中央小1年の小川靖太（せい）君（7）は「ザリチリがおいしかった」と喜んでいた。

ウチダザリガニは浦幌川流域で確認されていて、堀川会長は「生息地が拡大、個体数も増加している。在来のニホンザリガニへの影響が心配」と話している。同会は町立博物館と協力して町内のザリガニ情報の提供を呼び掛けている。情報提供は同館（015・576・2009）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年7月30日

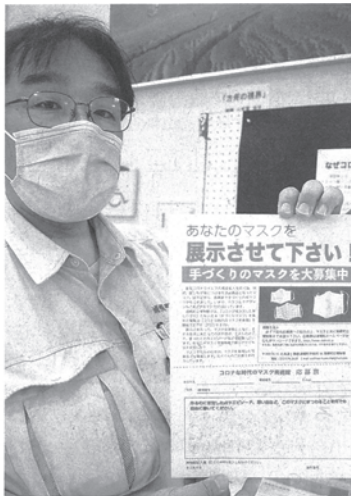
手作りマスク寄贈を

浦幌町立博物館 来月展覧会を計画

【浦幌】町立博物館は、

8月に開催する展覧会「コロナ時代のマスク美術展」に展示する手作りマスクの寄贈を呼び掛けている。

新型コロナウイルスの感染予防のためマスクは生活必需品になり、「新型コロナウイルスの寄贈を呼び掛けている」



手作りマスクの提供を呼び掛けるポスター

「北海道新聞」
2020年7月31日

「化」として企画した。実物だけではなく、マスク製作の苦労話や工夫した点、使った際のエピソード、着用した写真も募集している。企画した持田誠学芸員は「物資が足りない中、みんなで作るというのは戦時中のよう。既に寄せられたマスクには布やガーゼ、キッチンペーパーなどがあり、材質や作り方の変化も紹介したい」と話している。問

い合わせは同博物館 ☎ 015・576・2009 へ。
（岩瀬貴弘）

創刊号

コロナ禍の日常記録を

新型コロナウイルスの感染拡大で用いられたマスクやチラシなど身近な品々を集め、コロナ禍の日常や社会の様子を記録して後世に残す取り組みが、各地の博物館で広がっている。背景には、約100年前にスペイン風邪が流行した時代の生活を伝える資料がほとんど残っていないことへの反省がある。

祭りの中止を伝えるチラシやテークアウトのクーポン、政府が配布した布マスク。北海道浦幌町の町立博物館に並ぶ「資料」は、普段の生活で何げなく手にしている物ばかりだ。2月から地元住民に提供を呼び掛け、既に約200点が集まった。

「日々の動きが歴史になる。捨てられてしまわないようにできるだけでも集めたい」と学芸員の持田誠さん(47)は意気込む。「今後この時代を振り返るときに、物があれば客観的に検証できる」と話す。

大阪府吹田市立博物館では保健

各地の博物館 資料収集 中止公演パンフやマスク

所から譲り受けたガウンやフェースシールド、薬局でマスクを買い求める人々の行列を収めた写真も収集。学芸員の五月女賢司さん(46)は「何が起これていたかを残し、今の時代を知るすべを将来に提供したい」と語る。

国立国会図書館では、新型コロナウイルス関連情報を扱った行政機関などのウェブサイトのデータを保存。早稲田大演劇博物館は、劇場や劇団に延期や中止になった公演のパンフレットや台本などの提供を呼び掛ける。

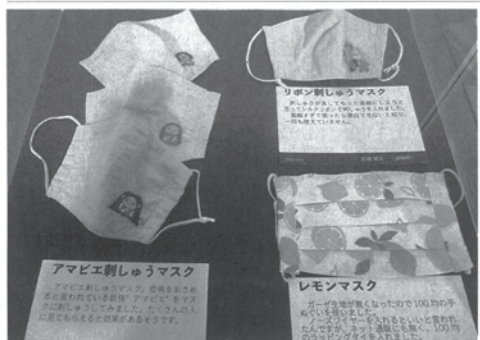
コロナ禍の資料を収集する山梨県立博物館学芸課長の森原明広さん(54)は「スペイン風邪の市民レベルの記録が残っていれば、現在の感染対策のヒントになったかもしれない」と指摘。「災害や疫病は繰り返して起きるが、意外とすぐに忘れられてはいないか。展示や特集で今の時代を振り返る機会をつくりたい」としている。

「愛媛新聞」 2020年7月31日

「時代の象徴」ずらり

浦幌町立博物館「マスク美術展」展
新型コロナウイルスの感染拡大で激変した日常の資料収集に取り組んでいる浦幌町立博物館で1日、手作りマスクの企画展示「コロナな時代のマスク美術展」が始まった。刺しゅうや彩色を施すなどしたカラフルなマスクが並び、学芸員の持田誠さん(47)は「マスクは公衆衛生用品の域を超えた新しい文化」と話す。

同博物館はコロナ禍の日常を後世に伝えようと、5月から事業中止のチラシなどの収集・展示を始めて全国的



刺しゅうを入れたりカラフルな布を使ったりと、さまざまな手作りマスクが並び企画展—浦幌町で

を開くことにした。疫病退散の妖怪「アマビエ」の刺しゅうをワンポイントで入れたり、昔の着物の生地で華やかな色彩に仕上げたりと、個性的な約60品がずらり。寄贈者のコメントも添えられている。地元神社が手掛けたマスクは妊婦用。「アベノマスク」とやゆされた政府配布の布マスクが縮まないよう糸を通したアレンジ品も並ぶ。

は「コロナ禍で大変な中でも生活を楽しもうとする人々の強さ、したたかさを感じられると解説する。マスク展示は9月27日まで。問い合わせは同博物館(0155・576・2009)。

【鈴木 彦】

「毎日新聞」 2020年8月3日

コロナで激変 「日常」後世に

【浦幌】十勝管内浦幌町立博物館(同町桜町)が新型コロナウイルスの影響で激変した日常を後世に伝える品々を集めた企画展「『コロナな世相』を語り継ぐ」を開いている。1日からは関連として手作りマスクも展示している。新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)を象徴する身近な品々を保存し、記憶や教訓を将来に伝承する狙いだ。(岩瀬貴弘)



「50年、100年後に今の時代を振り返るための資料を集めたい」と話す学芸員の持田誠さん

マスク、チラシ…浦幌町博物館が資料収集

企画展開催 差別の記録も



左浦幌町立博物館に寄せられた手作りマスク
右中止になった今春の選抜高校野球大会の記念タオル

「生活に大きな影響を与えた時代の資料を丹念に集め、記録することが博物館の役割」として学芸員の持田誠さん(47)が企画した。

「約100年前のスペイン風邪が流行した時代の生活への影響を伝える資料がほとんど残っていない。今回のコロナ禍も時間がたつと記憶が薄れる」と危機感を感じ、月末に収集を開始。5月に公開を始め、展示物を入れ替えて来春まで続ける予定。



1日に始まった企画展「コロナな時代のマスク美術展」では、町内外から寄せられた約60点を9月27日まで展示する。疫病退散に御利益があるとされる妖怪「アマビエ」の刺しゅうを施したものや、アクリルで作った表情が見えるマスクなど趣向に富んでおり、持田さんは「マスクは今や生活必需品で新しい文化。材料が足りない中で工夫する人々の強さを感じる」と話す。

マスクのほかにも、これまで提供された資料は約200点。密集を避けるため、タイムセール自粛を伝える浦幌町のスーパーのチラシは経済活動の制約の一例だ。戦後初めて中止となった今春の選抜高校野球大会に出場予定だった十勝管内の高校の記念タオルは、大規模イベントが軒並み中止された2020年を物語る。

感染拡大地域からの来訪を拒む「自粛警察」の動きなどに加え、車などに張って地元をアピールするステッカーなどは感染症が生んだ差別について考えさせられる。

来場者からは「物々しい雰囲気、戦時中のような歴史が繰り返すことを実感した」と感想が寄せられたという。持田さんは「時代の空気は美化されたり、誇張される危険性がある。客観的に歴史を振り返るため、一つ一つ物を残すことが重要。博物館には差別など社会の負の側面も後世に伝えていく責任がある」と話す。資料収集は継続している。入館無料。午前10時～午後5時。同博物館 ☎ 015・576・2009。

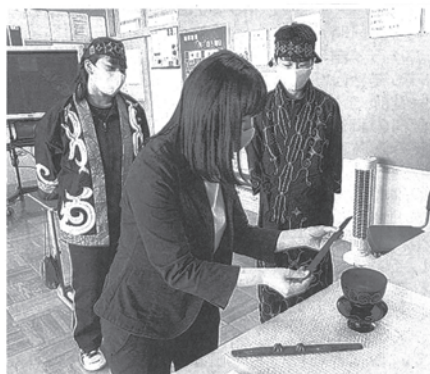
「宿題」など貴重
布谷知夫・全日本博物館学会会長の話 博物館には現在の資料を残し、未来について考える場という役割がある。コロナの時代にあらゆる年代、職種の人々がうやうやしく暮らしたかが分かる資料なく、ほったておいたら絶対残らないものを残してほしい。アベノマスクの実物や3密を避けるよう呼びかける張り紙、学校が休校となった子どもたちに出的宿題など教育関係の資料も貴重だ。

「北海道新聞」 2020年8月5日

儀礼具や衣装：
アイヌ文化に触れる
上浦幌中で授業

文化を学ぶ授業が行われた。胆振管内白老町にオープンした「ウボボイ（民族共生象徴空間）」を修学旅行（9月1〜同4日）の最終日に訪れることから、事前にアイヌ文化への理解を深めることが目的。帯広百年記念館の長谷仁美学芸調査員と浦幌町立博物館の持田誠学芸員を講師に招いた。アイヌ文化などを紹介するDVDを見た後、長谷学芸調査員から「異文化を知ること、自分と向き合うこと」との説明を受けた。持田学芸員はアイヌの置かれている現状などを解説した。生徒たちは棒状の儀礼具「イクバス」や漆塗りの杯に触れ、アイヌの民族衣装を試着した。平田小雪さん（15）は「北海道だけでなく全国にアイヌの方がいるのが分かった」と感心し、角田楓人（ふうと）さん（15）は「アイヌ文化は日本を代表する文化であると改めて感じた」と話していた。

（田子紳一通信員）



長谷学芸調査員（中央）からイクバスの説明を受ける平田さん（左）と角田さん

「十勝毎日新聞」 2020年8月8日

展示されたマスクを鑑賞する来場者



全国各地から寄贈 歴史伝える大正期商品も

浦幌町立博物館の企画展「コロナ時代のマスク美術展」が1日から同館特別展示ホールで開かれている。全国から寄せられた特色あるマスク約60点がエピソードなどと共に展示され、来場者の話題を集めている。9月27日まで。

コロナ禍 多様なマスク

同館では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、市販の不織布マスクが品薄状態に陥り、手作りの布マスクが出始めたことに着目。広く寄贈を呼び掛けたところ、各社の報道もあった。全国各地から次々にマスクが届いた。

十勝管内や札幌市、小樽市、埼玉県などから寄せられ、フランスからはヨーロッパでのマスクの作り方を紹介する雑誌記事が送られてきた。池田高校の生徒4人は、苦労したのは「三つ折りにして縫うところ」、うまく作るとは「ゆっくりに焦らずにやる」などとし、自ら完成度を段階評価した。浦幌神社からは、安産の神様として知られる乳神様のおはらひを受けた「妊婦さん応援マスク」が寄せられた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年8月13日

アイヌ伝統の技 刀のさやに彫刻 浦幌で実践講座



刀のさやにアイヌ文様を彫るラポロアイヌネイションの会員らを指導する清水会長（右）

【浦幌】アイヌ民族の儀式で使われる伝統の刀「エムシ」の柄とさやを作る初めての実践上級講座「木彫・エムシ製作教室」の最終回が11日、浦幌町内の厚内公民館で開かれた。

ラポロアイヌネイション（浦幌アイヌ協会から改称）と町立博物館が共催。エムシの製作技術を受け継ぐために開かれた。

同ネイションの会員10人が参加。7月2日から8月11日までの計12回の作業で製作した。上十幌アイヌ協会の清水勇会長が指導した。

エムシは、長さ約50センチの刀身に合わせ、スギの木で柄とさやを作り、モレウ（渦巻き）などのアイヌ文様を彫刻して仕上げた。完成したエムシは22、23の両日に行われる先祖の遺骨を埋葬するカムイノミ、イチャルパで帯刀する。

清水会長は「アイヌ文化の大切さを分かってもらえたと思う。教えがいがあった」とし、同ネイションの長根弘喜会長は「自分の手で自分らしいものを作りたいとの思いで取り組んだ」と話していた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年8月14日

一筆 半歩



鈴木 斉

新型コロナウイルスの感染拡大で生まれた生活文化の象徴として「手作りマスク」に着目した浦幌町立博物館の企画展が面白い。学芸員の持田誠さん（47）が「公衆衛生用品から服飾品になってきた」と指摘する通り、カラフルな生地や刺しゅうを加えた作品がずらり。使う人も見かけない「アベノマスク」配布で批判を浴びた国を尻目に、工夫と遊び心に満ちた手製マスクが並ぶ光景は痛快だ。

同博物館は行事中止の告知チラシや手作りマスクなど、コロナで激変した日常を伝える資料

コロナの日々伝える物証

をいち早く集め、5月から「『コロナな世相』を語り継ぐ」という企画展を開始。その取り組みが全国的に注目を集めた。手作りマスク展も「コロナの時代」を後世に伝えようとする地道な活動の一環だ。

コロナ関連資料は大阪府吹田市立博物館、山梨県立博物館など各地で収集や展示の動きが出ている。十勝地方の小さな博物館が先陣を切った形で、誇らしく思う。

持田さんは、捨てられないうちに集めようと、感染が広がりはじめた2月から住民に関連資料の提供を呼びかけた。一連の資料は時代を語る「物的証拠」として残るだろう。先が見えないコロナ禍が続くだけに、今後どんな資料が積み重なるか、注目していきたい。

「毎日新聞」 2020年8月18日



筆で泥などを丁寧に除去する標本の修復作業

熊本豪雨被害の植物標本100点

美幌博物館で修復作業

【美幌】7月の豪雨に伴う熊本の球磨川の氾濫で被害を受けた、人吉城歴史館（熊本県人吉市）が所蔵する植物標本約100点の修復作業が9月2、3の両日、美幌博物館で行われた。この豪雨では、熊本の植

物学者の故・前原勘次郎氏が採集した、南九州の貴重な植物標本約3万3千点の大半が浸水した。

これらを修復するため、熊本県博物館ネットワークセンターなどが全国各地の博物館や大学に支援を要請。美幌博物館はバラ科とイネ科の約100点を担当した。道内での受け入れは、北大総合博物館に続き2例目という。

美幌博物館には、同館の城坂結実さん、釧路市立博物館の加藤ゆき恵さん、浦幌町立博物館の持田誠さんの3学芸員と、斜里町立知床博物館で学芸員を務めた内田暁友さんが集まった。4人は植物の専門家で、東日本大震災時に海水につかった陸前高田市立博物館（岩手県）の標本も修復し

た経験がある。

4人は、標本に付いた泥やカビを筆で丁寧に除去する作業などを続けた。

標本は乾燥させた後、人吉城歴史館から依頼があるまで美幌博物館で保管する。

（阿部誠）

「北海道新聞」 2020年9月5日

マスクが示すコロナな時代

手作り楽しみつつ、未着用者は攻撃・差別

「同調圧力は負の側面」

浦幌で講座、学芸員が解説

浦幌町立博物館で16日夜、夜学講座「マスクが示すコロナな時代」があり、新型コロナウイルス感染拡大で

激変した日常の資料収集に取り組み同館学芸員の持田誠さん(47)が、手作りマスクから見える現在の風潮などを解説した。

博物館で27日まで開催中の企画展「コロナ時代のマスク美術館」の関連事業で、町民ら約20人が参加。持田さんは展示品を示



手作りのマスクから見えるコロナ禍の社会風潮を解説する持田誠学芸員(左)＝浦幌町で

し、マスク不足で手作りを余儀なくされた感染拡大当初から、徐々に個性的なマスク作りを楽しむ傾向になり、「公衆衛生用品から服飾品に変化した」と説明。国内のマスクの歴史なども解説した。

一方、皮膚が弱いなどの事情で着用できない人もおり、「マスクをしない人は正しくないといった形で差別や

立憲道連と連携
政権交代へ期待

連合北海道

連合北海道は24日、札幌市内で地方委員会を開き、次期衆院選に向け、26日に発足する合流新党の立憲民主党道連との連携強化を急ぎ、政権交代可能な2

偏見も出てきている」と負の側面を指摘。「手作りを楽しむという明るい面と同時に、着用していない人が集中砲火を浴び、差別や偏見を生む同調圧力が働いている。日本人独特の同調圧力という裏側の社会風潮も伝えることが博物館の仕事だ」と話した。

同博物館は手作りマスクも含め、関連資料の収集は継続する。問い合わせは同博物館(015・576・2009)。(鈴木亨)

大政党制を目指すとする基本方針案を議決した。

杉山元会長は、立憲民主党と国民民主党の合流に触れ、「統一地方選や参院選では、党が二つに割れ敵しい選挙を強いられた。(合流で)大きな塊になった」と歓迎。菅義偉政

「毎日新聞」 2020年9月26日

学芸員の卵 成果発表

浦幌町博物館 頭骨の研究など解説

【浦幌】学芸員を目指して町立博物館で実習していた大学院生と大学生が研究成果を発表する「博物館実習生の展示解説」が9月22日、町立博物館ロビーで開催された。



エゾシカの頭骨を手に解説する板倉さん（中央）

実習は同15、22日に行われた。最終日の展示解説には町内外から14人が参加。帯広畜産大学大学院博士前期課程獣医解剖学研究室2年生の板倉来衣人（らいと）さん（24）が「哺乳類の歯のかたち」、同大環境微生物学研究室4年生の東谷麻央さん（22）が「菌類ってどんな生き物？」と題して動物の頭骨やキノコなどについて解説した。

板倉さんはエゾシカやヒグマ、オオカミなどの頭骨

「十勝毎日新聞」 2020年10月1日

を展示し、それぞれの歯の仕組みや違いを解説。ヒゲマの頭骨を見た参加者から「何歳くらいか」との質問に、板倉さんは「見た目では特定できないが、（この日の朝に町炭山地区で採取したハナイグチ（ラクヨウタケ）などのキノコをから）成長する余地がある」と答えた。

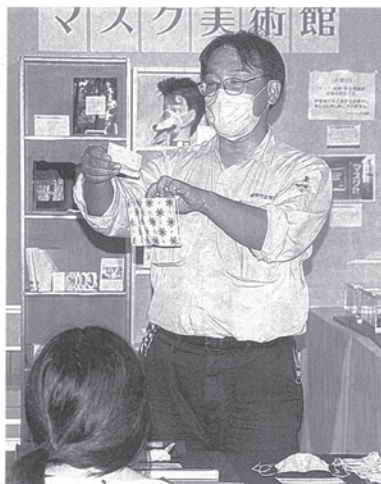
東谷さんは「菌類はカビやキノコの仲間と紹介し、この日の朝に町炭山地区で採取したハナイグチ（ラクヨウタケ）などのキノコをから）成長する余地がある」と答えた。

でも大丈夫だが「カエンタケは触ると皮膚がただれるので注意を」と話した。解説を終えて板倉さんは「展示を見て理解してもらえようかな工夫が難しい、東谷さんは「改めて人に伝える難しさを感じた」と話していた。町内の佐藤芳雄さん（68）は「分かりやす

く紹介してくれて勉強になった。博物館の将来を築いてほしい」と期待していた。（田子紳一通信員）

マスクは新たな文化

浦幌・博物館講座 進化の軌跡解説



マスクの進化などを解説する持田学芸員

【浦幌】町立博物館の夜学講座「マスクが示すコロナな時代」が16日、同館ロビーで開かれた。持田誠学芸員が、同館がマスクを集めることで分かったことなどを解説した。

講座には町内外から17人が参加。持田学芸員は「マスクはコロナが生み出した新しい文化とも言える」とし、日本で確認できる最古のマスク（銀山の採掘作業時の防じん用マスク）から現在の手作りマスクまでの歴史や、コロナ禍の中で作り方も分らぬままに手作りしたマスクがカラフルなデザインに進化したことなどを解説した。

「マスクをしていれば安心」という、日本人独特の同調圧力とゆがんだ空気も生まれた時代とし「良い面も悪い面も、後世に振り返られるようにするのが博物館の役割」と語った。上浦幌地区に住む笹島基吉さん（65）は「マスクが定着し、生活様式の変化を感じる」と話していた。

図書館ブックトークも行われ、山崎菜摘司書が「仕事本 わたしたちの緊急事態日記」など3冊を紹介した。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年9月27日

乙部川鉄橋 地元学芸員が解説 浦幌



【浦幌】町内の鉄道遺産を巡る町立博物館主催のイベント「列車で学ぶ地理・歴史」が18日、行われた。町内や帯広、旭川などの23人が参加し、JR根室線を利用しながら「浦幌は1903年（明治36年）、十勝で最初に鉄道が通った町」などと同博物館の持田誠学

橋台がれんが造りの乙部川鉄橋を見学する参加者たち。今もJRの鉄橋として使われている

芸員の解説を聞き、鉄道や地域の歴史に触れた。

行きは浦幌駅から釧路市音別町の音別駅までJRに乗車。持田さんは「浦幌―音別間は低地や川沿いに線路を通すなど、地形を利用した開業時のルートが残り、カーブや勾配が多い」などと紹介した。音別駅からはバスで移動し、尺別鉄道跡、れんが製橋台の乙部川鉄橋、浦幌炭鉱鉄道の建設工事跡などを巡った。

帯広市の無職男性(48)は「尺別と浦幌の炭鉱鉄道の歴史を知ることができた。専門的な解説も良く、機会があればまた参加したい」と満足そう。持田さんは「鉄道や駅は町の歴史を伝えてくれる。せっかく地元で鉄道があるので、気軽に乗って車窓から学んでもらえば」と話していた。

(岩瀬貴弘)

「北海道新聞」 2020年10月21日

Culture

カルチャー

季 評

7～9月

美術

門間 仁史

緊急事態宣言の解除後、新型コロナウイルス対策の段階的緩和が進んだことで、美術館やギャラリーは徐々に活気を取り戻しつつあるように見える。マスクの着用、検温、手指の消毒、緊急時連絡先の記入等、引き続き協力を求めなければならないが、それでも作品をじかに見たい、美術にふれたいと会場を訪れてくれる方々がいることは、美術関係者にとって大きな励みである。

十勝管内鹿追町の神田日勝記念美術館で開催された「神田日勝 大地への筆触展」(7月11日～9月6日)は、同町ゆかりの画家の没後50年を記念して、東京ステーションギャラリー(6月2日～同28日)と北海道立近代美術館(9月19日～11月8日)を巡回する大規模な回顧展である。日勝がNHK朝の連続テレビ小説の登場人物のモデルとなつて話題を呼んだことも理由の一つかもしれないが、代表的な作品を網羅することで作風の姿

■「神田日勝 大地への筆触」展

代表作網羅 作風の変遷を一望

遷を一望できる内容が好評を博し、鹿追展では平時の3倍にもおよぶ来館者数を記録した。もちろん、残念ながら開幕に至らなかった展覧会やイベント

も多かった。例えば道立近代美術館の「古代エジプト展」(7月4日～9月6日予定)の中止には、道内の考古ファンは寂しさを覚えたことだろう。

また、札幌市内各地を会場とする「札幌国際芸術祭」(12月19日～2021年2月14日予定)の中止が7月に発表さ

れたことも、記憶に残る出来事だった。初めての冬季開催で、雪とともに現代アートやメディアアートを紹介するというこれまでにない方針で準備が進められていただけに、強く惜しまれる。10年から毎年開催されている「苫小牧アートフェスティバル」(7月25、26日予定)も中止となった。ただし、ただ中止するだけでなく、苫小牧市美術館のアントランスのガラス面を美術家・森迫睦夫によるステンシルの作品へたつてわるくない

時代性を表象する展覧会として白眉だったのが、浦幌町立博物館の「コロナな時代のマスク美術館」(8月1日～9月27日)だ。同館はいち早く、イベント中止の告知やマスクの作り方を記したチラシ等の「コロナな世相を記録する資料」を収集してきたが、本展では手づくりのマスクに特化して、そのデザイン、柄、材料等の多様性を紹介するとともに、衛生用品からはじまり、身近な服飾品として普及するまでのマスクの歴史も紹介した。収集し、研究し、展示するという博物館が果たすべき使命にのっとりつつ、今日的な課題と真正面から向き合う強い覚悟を示す模範的な姿勢に、襟を正される思いがした。

（もんま・さとし＝道立旭川美術館主任学芸員）



④「神田日勝 大地への筆触」展
＝神田日勝記念美術館
⑤「コロナな時代のマスク美術館」展
＝浦幌町立博物館



「北海道新聞」 2020年10月28日



鉄道のある町

池田支局 岩瀬 貴弘

浦幌町内の鉄道遺産を巡るイベント「列車で学ぶ地理・歴史」に先日参加した。町立博物館の持田誠学芸員の解説を聞きながら、れんが造りの橋などと鉄道遺産を見学して楽しい一日となった。

道内は今、鉄道を取り巻く状況が厳しい。幸い、池田支局が担当する池田、豊頃、浦幌各町には駅があり、恵まれた状況にある。

「朝、札幌発の特急に乗れば、昼にワイン城でおいしい料理と十勝ワインを楽しむ。池田やワイン城は特急が止まる強みがある」。道産ワインを通じた地域振興に取り組むNPO法人ワインクラスター北海道（小樽）の阿部真久代表理事はこう指摘する。

持田さんも「浦幌は十勝では数少なくなつた『鉄道のある町』。博物館にも鉄道で全国から旅の方が訪れる。鉄道は町の大切な財産なんです」と話す。2人の言葉をかみしめながら、車とは違う旅や車窓の景色をまた楽しみたい。

「北海道新聞」 2020年11月7日



新型コロナウイルスの流行で観光客が消えた小樽運河の写真などを保存している小樽市総合博物館の菅原慶郎学芸員

コロナの記憶 後世に

道内自治体の博物館や教育委員会の学芸員が、新型コロナウイルスの流行を後世に伝えるべく、国が全世帯に配布した「アベノマスク」やソーシャルディスタンス（社会的距離）を促す呼び掛けのチラシなどを資料として収集している。集めた資料を展示する企画展を開催する博物館もある。約100年前に流行したスペイン風邪の資料が少ないこともあり、学芸員たちは「感染症に襲われた社会がどうだったのか、流行の記憶が風化しないよう教訓を伝えたい」と話す。

（山田一輝）

小樽市総合博物館の学芸員菅原慶郎さん（33）は道内で流行が始まった昨年2月から個人的に資料の収集を始めた。アベノマスクや国が全国民に10万円支給するとして特別定額給付金の通知、観光客が消えた小樽運河の様子や地元飲食店のテイクアウトメニューの写真など数百点に上る。後に博物館に寄贈し、記録や検証に役立ててもらった。

市職員が感染対策の業務で交わしたメールも公文書としてだけでなく、博物館に提供するように要請することも検討中だ。菅原さんは「小樽で起きたことを後世に伝えるのが地元の学芸員の使命」と話す。

アベノマスク、10万円給付通知…

道内学芸員 資料集め

を展示する企画展が続いている。これまで集まったのは、感染拡大地域からの来訪者を拒む「自粛警察」に備え、「地元住民」などとアピールするステッカーなど道内外の500点以上。学芸員の持田誠さん（47）は「2月下旬には流行1年を踏まえた特別展を開きたい」と意気込む。

昨年11月下旬から12月上旬にかけて50人を超える感染者が出た檜山管内奥尻町の町教委学芸員稲垣森太さん（37）は資料集めに加え、島内の感染者数や島外への搬送状況などを日記につけてきた。「離島にどのような影響を及ぼしたか、将来、役立ってほしい」と日記の公開も見据える。

学芸員がコロナの資料収集に励む背景には、日本で推計45万人が死亡したスペイン風邪をはじめパンデミック（世界的大流行）となった感染症に関する歴史的な資料が少ないことがある。

感染症の歴史に詳しい青山学院大の飯島渉教授は「スペイン風邪の資料は当時の内務省衛生局が保存したが、社会全体で共有して後世に伝えるシステムが欠けていた」と指摘。将来的に国や自治体の対策を検証して教訓とするため、公文書も法律や条例に基づき保存期間にかかわらず、廃棄せずに保存していくべきだと訴えている。

「北海道新聞」 2021年1月3日

外来生物知ってる？

浦幌町立博物館で企画展

【浦幌】町立博物館の企画展「外来生物展」(釧路市立博物館共催)が同館特別展示ホールで開かれてい

る。問題化する外来生物について、標本やパネルで紹介している。17日まで。外来生物の解説や植物の



アライグマの剥製などを見る来館者

写真パネル、動物の剥製、昆虫標本、二ホンザリガニとウチダザリガニの液浸標本など約80点を並べた。道央で撮影されたアライグマの動画上映や、外来生物に関する本の展示もある。展示の動植物は、町内で確認されている特定外来生物の、アメリカミミズ、セイヨウオオマルハナバチ、オオハンゴンソウなど。来館した釧路市の三浦巧さん(29)、夏美さん(33)夫妻は「町にこんなに多くの外来種がいるとは思わなかった」と驚いていた。9日には博物館講座「最近の外来植物」を開き、オホーツク管内の斜里町立博物館の内田暁友さんが講演する。申し込み不要。問い合わせは同館(015・576・2009)へ。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2021年1月6日

「緑化事業慎重に」外来植物学講座

研究家内田さん

【浦幌】北海道東部で最近見られるようになった外来植物を紹介する町立博物館講座「最近の外来植物」(釧路市立博物館共催)が9日、町教育文化センター2階視聴覚ホールで開かれた。管



講演する内田さん

内外から24人が参加し、身近で生育している外来植物の影響などを学んだ。植物研究家の内田暁友さん(元オホーツク管内斜里町立知床博物館学芸員)が

講演した。内田さんは「外来植物が多い状態では、元からいた生物は多かれ少なかれ生活

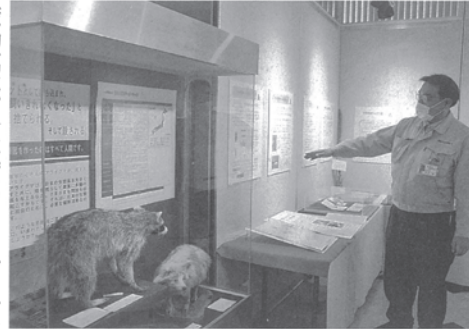
講師を務めた。1階の特別展示ホールで開かれている企画展「外来生物展」の関連講座として行われた。内田さんは「外来植物が多い状態では、元からいた生物は多かれ少なかれ生活の変化を強いられる。その侵入を防ぐには緑化事業の慎重な計画が必要」と注意を促した。参加者からは、町内で分布を広げているハ

イコウリンタンポポの駆除について質問があり、内田さんは「完全な駆除は難しい。部分的に抜き取り、定期的な観察を」とアドバイスした。開催中の企画展は17日まで。午前10時～午後6時。入場無料。問い合わせは同館(015・576・2009)へ。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2021年1月15日

外来生物の影響解説

浦幌町立博物館 あすまで企画展



外来種による生態系への影響を解説する企画展「外来生物展」

【浦幌】町立博物館は、外来種による生態系への影響を考える企画展「外来生物展」（釧路市立博物館共催）を17日まで開いている。浦幌をはじめ道東に生息する植物や昆虫、哺乳類などの外来種の動植物を取り上げ、在来種に与える悪影響を写真やパネル約50点で紹介。町内でも確認されているミンクやウチダザリガニの標本も展示している。外来種の問題は、道内で

は特にアライグマが知られている。ペットとして持ち込まれ、飼いが放したり逃げたりして野生化したアライグマによる農業被害は年々深刻になっている。本州から道内に持ち込まれる場合など、国内で移入された生物も外来種の一つで、同博物館の持田誠学芸員は「カブトムシも本来、北海道にいない昆虫」と指摘。「身近な動植物や昆虫に触れ、外来種の生態系へ

「北海道新聞」 2021年1月16日

の影響を考えるきっかけになれば」と話している。入場無料。問い合わせは同博

物館 ☎ 015・576・2009 へ。
(岩瀬貴弘)

科学



「これ、イトイバラモなのですか？」
2019年7月、当時、北大農学研究院の大学院生だった永田優さんから問い合わせがあった。十勝管内豊頃町の湖沼で採集したという、イトイバラモはトチカガミ科イバラモ属の一年草。イバラモ属は発芽から開花、結実まですべての生活史を水中で過ごす水草である。
写真を見るとイトイバラモとは少し異なる感じがした。葉の曲がり方などから同じイバラモ属のトリゲモかオオトリゲモのように見えた。この種は、いずれもこれまで道内での記録が

トリゲモ



豊頃町で採集されたトリゲモの標本。台紙は縦17センチ×横14センチ。葉の太さは1センチ以下だ。道内で初めて見つかった
(阿部裕貴撮影)

DNAを解析 道内新発見

ない種であった。見分けるためには長径2〜3ミリの種子の表面にある模様を顕微鏡で確かめなければならぬ。しかし、永田さんが採集した植物には種子がついていなかった。まずは種子を持つ個体を集めようということになった。しかし、見つからない。水中にある水草は、透明度や深度によっては水上からの視認が極めて困難になる。今回のような繊細な種であればなおさらだ。このような場合、湖岸やボートからいかり型の採集器をひたすら投げ続けることになる。隣の浦幌町立博物館に勤める持田誠学芸員に採集を依頼し、7月から8月にかけて4回も現地でも探しても見つからなかったが、全く採集できなかった。続いて筆者と永田さんも9月に現地を訪れたが、見つからなかった。結局、最初の個体から葉を採取し、DNAを解析して正体を解明することに。その結果、トリゲモであることが明らかになった。永田さんが筆頭著者となった。この標本、共同研究を行った新潟大に寄贈したもう1枚の標本は、豊頃町で採集された最初の最後のトリゲモの標本となるかもしれない。永田さんの「神の手」に感謝である。
(首藤大郎・北大総合博物館助教「植物分類学」)

「北海道新聞」 2021年2月13日

池田礼拝堂や吉田牧師の歩みについて語る講師の持田学芸員

(村本典之撮影)



閉鎖の池田礼拝堂 歴史振り返る

帯広百年記念館で講座

帯広百年記念館の博物館講座「吉田康登牧師の足跡 なぜ池田の町に教会が建てられたのか」が20日、同記念館で開かれた。2019年に閉鎖した日本福音ルーテル教会池田礼拝堂（池田町）と、その建立に尽力した故吉田牧師の足跡を振り返る内容で、十勝管内の約30人が耳を傾けた。講師は浦幌町立博物館の持田誠学芸員。池田礼拝堂の前身にあたる池田伝道所は1957年、吉田牧師が地域の人々と交流を深める中で求める声が強まり誕生した。68年に礼拝堂を新築、移転した際は、吉田牧師が自作の押し花を売って資金を集めたとされる。一般に教会は教団の計画に基づき設立され、池田のように地域が主導するのは「道内の

キリスト教会史で極めてまれ」という。

一方、持田学芸員は、自治体編さんの市町村史ではキリスト教に関する記述が少なく、地域に根付き、衰退していったのか記録されないまま」と危惧した。（佐藤諒一）

「北海道新聞」 2021年2月21日

文化財を守る博物館で座談会

【浦幌】町民座談会「これからの浦幌町立博物館を考える（同館主催）」が10、11の両日、同館ロビーで開かれた。「文化財をどう守るのか？」について意見交換した。

2日間で延べ13人が参



文化財の活用方法などを話し合った座談会。中央が持田学芸員

のあり方に続いての開催。同館の持田誠学芸員が国指定史跡（オタフンベチャシ）と道指定史跡（浦幌新吉野台細石器遺跡など）、町指定無形文化財（開拓獅子舞）以外にも指定されていない多くの文化財がある

ことなどを説明。参加者はそれらの保存や活用、資金面などを話し合った。また、持田学芸員は新たに指定すべき文化財として、東アジア唯一のK P 5 境界層（町川流布）や1903（明治36）年頃に建設された旧十勝牧場事務所（町厚内）などを紹介。中でも、ワタスケ群落があるヌタベツ洞窟や町最古

「十勝毎日新聞」 2021年2月27日

新型コロナ 関連ニュース

資料で見る日常の激変 23



鈴木吉撮影

北海道浦幌町立博物館が、コロナ禍で激変した1年を日常の資料で振り返る企画展を始めた。

1年間収集したコロナ時代を示す関連資料がずらりと並べられた企画展—いずれも浦幌町で



同博物館は感染が拡大 提供を呼びかけた。集まり始めた2020年2月 った資料は約6000件から、町民に収集資料の で、今回は約170点を

浦幌町立博物館企画展

新型コロナウイルスの感染拡大で社会の激変ぶりを伝える資料を集めている浦幌町立博物館で、収集開始から1年の節目に合わせ、企画展「コロナ時代を語り継ぐために」が始まった。チラシなど世相を物語る身近な資料が、コロナ禍の1年ですっかり変わった日常を振り返ることができるように展示されている。

【鈴木吉】

新型コロナ

激変の1年語り継ぐ

住民提供のチラシなど170点

歴史、社会学的に意義



浦幌町立博物館 持田誠学芸員

同博物館は20年5月から収集品の展示を始め、8月には手作りマスクに特化した企画展も開催。身近なコロナ禍を後世に伝える取り組みは全国的に注目を集め、各地の博物館などで関係資料の収集や展示の動きが続いている。

企画を立案した学芸員の持田誠さん(48)は、日常生活の資料に着目したく、手作りマスクの場合、

「『素の日常』を記録する役割が地域博物館にはある」と語る。

日々の暮らしはどんな影響を受け、地域で何が起きたのかを現物の資料で残すことが、将来新たな未知の感染症に遭遇した際の社会対策にも役立つと考え、「チラシなどの一過性の資料の収集・保存も歴史学、文化人類学や社会学的に意義がある」との思いが活動を支えた。

資料の展示だけではなく、関係資料の収集を続けるという。

「『素の日常』を記録する役割が地域博物館にはある」と語る。

日々の暮らしはどんな影響を受け、地域で何が起きたのかを現物の資料で残すことが、将来新たな未知の感染症に遭遇した際の社会対策にも役立つと考え、「チラシなどの一過性の資料の収集・保存も歴史学、文化人類学や社会学的に意義がある」との思いが活動を支えた。

資料の展示だけではなく、関係資料の収集を続けるという。

マスクが公衆衛生用品から服飾品に変化してきた傾向を示すと同時に着用しない人に対する差別や偏見を生む同調圧力という負の面も伝えてきた。

展示。臨時休館と入館規制▽中止と自粛の時代▽外食自粛とテイクアウト文化▽新しい生活様式—など六つのテーマに分けて、多岐にわたる変化を分かりやすく説明している。

33年間営業してきた夜の飲食店の閉店や、来店曜休館。

企画展は4月11日まで午前10時〜午後6時。月曜休館。



マスクの品薄を告知するコンビニの張り紙と入館を知らせるのぼりの写真

客の感染確認が分かった理容店の臨時休業の告知ビラのほか、公共施設の休館と入館時の消毒要請の張り紙、マスク入荷を知らせるのぼりの写真、感染防止策として定着した手作りマスク、テイクアウトに対応した店舗の一覧表など、自分たちの町で何が起きていたかを示すさまざまな資料がそろっている。

コロナ時代の記録100点

浦幌町立博物館で企画展

【浦幌】町立博物館の企画展「浦幌町立博物館で企画展」の生活にどのような影響を及ぼしたかを語り継ぐため「浦幌町立博物館で企画展」が、2月27日から同館特別展示ホールで開かれている。新型コロナウイルスで開かれていた。新聞記事の切り抜きや折り込みチラシなど100点を超える。記録を展示し、新型コロナウイルスが地域に及ぼした「変化」を映し出している。4月11日まで。

浦幌町立博物館の企画展「浦幌町立博物館で企画展」の生活にどのような影響を及ぼしたかを語り継ぐため「浦幌町立博物館で企画展」が、2月27日から同館特別展示ホールで開かれている。新聞記事の切り抜きや折り込みチラシなど100点を超える。記録を展示し、新型コロナウイルスが地域に及ぼした「変化」を映し出している。4月11日まで。



浦幌町立博物館の企画展「浦幌町立博物館で企画展」の生活にどのような影響を及ぼしたかを語り継ぐため「浦幌町立博物館で企画展」が、2月27日から同館特別展示ホールで開かれている。新聞記事の切り抜きや折り込みチラシなど100点を超える。記録を展示し、新型コロナウイルスが地域に及ぼした「変化」を映し出している。4月11日まで。

やクーポン券の配布、テークアウトの情報といった広告物などを掲示している。

また、町内外から寄せられた手作りマスクもケースに入れて飾っている。

コロナをきっかけにクロスアップされた差別や貧困にも警鐘を鳴らし、持田学芸員は「この1年間の記録が消失しないように今後もさまざまな形で伝えていきたい」と話している。

入場無料。月曜休館。午前10時から午後6時。3月7日午後1時半から10日午後7時からは企画展に関する講座を予定している。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

（小縣大輝）

「十勝毎日新聞」 2021年3月3日

コロナ禍の閉塞感 100年後に

浦幌町立博物館・持田学芸員 資料収集の意義解説



【浦幌】新型コロナウイルス禍の世相を映す資料を収集、展示している町立博物館で講座が開かれ、持田学芸員が収集活動の意義を100年前のスペイン風邪

を「今の閉塞感を100年後の未来に伝えたい」と解説した。7日開催。持田さんは約100年前のスペイン風邪

新型「コロナ」の資料収集について解説する持田学芸員

流行を例に「いろいろな記録があるが、人々がどのように大流行を乗り切ったかが分かる資料がない」と指摘。新型「コロナ」流行では、英国の博物館が真っ先に「二の舞いはいけない」と発信したことを紹介した。

また住民生活が分かる資料の収集意義については、まず戦時中の「ぜいたくは敵だ」と書かれた標語の写真をスクリーンに映し、この写真があるから戦時中の窮屈さが分かる。コロナ禍の閉塞感も100年後の人にイメージしてもらうため「な」と話した。

同館はネット上で発信された新型「コロナ」関連資料（学校からのお知らせなど）も集めている。詳細は同館 ☎015・576・2009へ。（椎名宏智）

「北海道新聞」 2021年3月10日



○…浦幌上浦幌中央小
2年の朝日痛斗君＝写真
左＝が藤崎祐貴教師の助
言を受けて描いた絵を基に、都島秀史
校長＝岡右＝が作った模型「ういるす
げきたいそうち」が、町民の間で話題

となっている。
○…新型コロナウイルスの影響で休
校だった昨年5月、朝日君は「コロナ
をなくしたい」とイラスト作りに着手。
ぬるま湯の入ったバケツにウイルスを
おびき寄せ、仕切り壁を取り除いて太

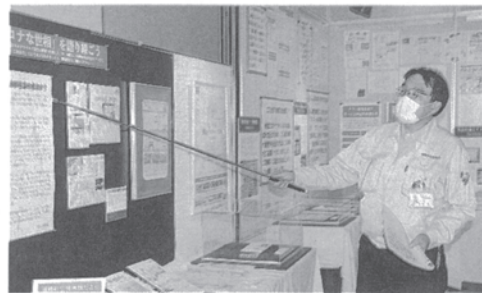
陽光を当て、紫外線で「撃退する。絵
を描いた。
○…絵を見た都島校長が「形にすれ
ばもっと分かりやすくなる」と模型を
作製。これを見た朝日君も「すごい」
と驚き、改めて収束を願う。都島校長

は「ウイルスの性質を理解し、怖がる
のではなく、やっつける方法を考えた
ことがすばらしい」と着眼点をたたえ
る。イラストと模型は、町立博物館で
開催中の企画展で4月11日まで展示さ
れる。
(円子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2021年3月20日

【浦幌】町立博物館の夜
学講座「企画展示解説と博
物館の取り組み」が10日、
同館特別展示ホールで開か
れた。持田誠学芸員が同館
で開催中の企画展「コロナ
な時代を語り継ぐために」
の展示資料の解説や博物館

コロナ時代反映 チラシ展示紹介 町立博物館が講座



企画展の展示資料の解
説をする持田学芸員

の取り組みなどを紹介し
た。
町内外から8人が参加。
企画展は「臨時休館と入館
規制」「新しい生活様式」
の時代」など六つをテーマ
に、新聞記事の切り抜きや
折り込みチラシなど約17
0点を展示している。
持田学芸員は「毎日のチ
ラシが時代を反映する」と
し、地域の中で互いに助け
合ったクーポン券などを解
説。「入手困難となったマ
スクは手作りされ、公衆衛
生の道具からデザインも多
様な服飾品へと成長した」
と伝えた。博物館がコロナ
関連の資料を集める意義と
しては「50年後、100年
後に『あの時代はこんなだ
った』と振り返ることがで
きるため」と語った。
企画展は4月11日まで。
入場無料。月曜休館。午前
10時～午後6時。
(円子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2021年3月24日

野鳥じつくり観察

浦幌小 日立建機が出前授業

【浦幌】浦幌小学校（横山利幸校長、児童161人）の6年生21人を対象にした「日立建機エコスクール出前授業」が17日、町内で行われた。「生き物と環境」をテーマに地域の自然環境を学んだ。

今年で6回目。最初に日立建機浦幌試験場の田中栄治所長がSDGs（持続可能な開発目標）に絡めた同社の環境事業を紹介した。日本野鳥の会十勝支部の室瀬秋宏支部長は、マガンなど5種類の天然記念物と

浦幌野鳥倶楽部の武藤満雄代表らの協力を得て野鳥の観察スポットにバスで移動。児童はハクチョウやオジロワシなどを双眼鏡などで観察した。飯田留衣さん（12）は「ヒシクイが一斉に飛び立つ姿がすごかった」と話していた。（水上由美通信員）

双眼鏡などをのぞいて野鳥を観察する児童ら



2種類の絶滅危惧種（ハクガン、シジュウカラガン）を同じ場所で見ることができる。浦幌の特異性を説明した。町立博物館の持田誠学芸員は絶滅危惧種の植物ウラボロイチゲを紹介し「本当の意味での自然は少ない。ほとんどは人の手が加えられた半自然」と強調した。

「十勝毎日新聞」 2021年3月30日

XV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

- (1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）
- (2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

- (1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。
- (2) 図書館資料の目録を整備すること。
- (3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。
- (4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。
- (6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

- 2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

- 2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後6時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) 資料整理日（毎月1回）
- (5) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。

(2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。

(3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。

(4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。

(5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付す

るものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

附 則（平成17年4月20日教委規則第17号）

この教育委員会規則は、公布の日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成23年2月24日教委規則第2号）

この教育委員会規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和2年2月25日教委規則第1号）

この教育委員会規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和2年7月30日教委規則第5号）

この教育委員会規則は、令和2年8月1日から施行する。

附 則（令和3年3月26日教委規則第4号）

この教育委員会規則は、令和3年4月1日から施行する。

XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。		
記		
1 寄贈、寄託資料		
資 料 名	数量	摘 要
2 寄託の場合、寄託期間		
年 月 日 から 年 月 日		

別記様式第2号

博物館資料受領証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 寄贈資料		
資 料 名	数量	摘 要

別記様式第3号

博物館資料受託証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 受託資料		
資 料 名	数量	摘 要
2 受託期間		
年 月 日 から 年 月 日		
※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。		

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・複写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
(注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
(注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号

平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
- (2) 浦幌町立博物館の印
- (3) 浦幌町立博物館長の印

2 前項の公印は、館長が保管する。

3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。

4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。

2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第1号

決裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄贈等	博物館資料の寄贈		寄贈者	住所	品名数量等	
	博物館資料の寄託		寄託者	住所	品名数量等	
	博物館資料の返還		受領者	住所	品名数量等	
事業等	事業名			～	特記事項	
	事業名			～	特記事項	
来館者	所属氏名			所属氏名		
	所属氏名			所属氏名		
団体入館者	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
職員動静	氏名	旅行先	目的			
備考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘									
収蔵番号									
分類番号									
寄贈者等住所・氏名									
受入方法									
受入年月日									
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

1 浦幌町立博物館協議会長の印



2 浦幌町立博物館の印



3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

○	
浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XV. 令和2年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
2,885	0	2,885	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	160	報償金 160
			9 旅 費	189	費用弁償 2
					普通旅費 187
			11 需用費	1,193	消耗品費 539
					燃料費 7
					印刷製本費 597
					光熱水費 0
					修繕料 50
					賄材料費 0
			12 役務費	85	通信運搬費 0
					手数料 85
			13 委託料	0	その他委託料 0
			14 使用料及び賃借料	0	その他借上料 0
			15 工事請負費	1,200	工事請負費 1,200
			16 原材料費	10	原材料費 10
			18 備品購入費	0	備品購入費 0
			19 負担金、補助及び交付金	23	北海道博物館協会負担金 15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3
					道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5
					研修会参加負担金 0

浦幌町立博物館年報 第22号

発行日 2021年11月30日

編集・発行 浦幌町立博物館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地
電話 0155-23-5107 FAX. 0155-23-9032

